

第一回

跡をたどり、意味に近づく

残された跡を手がかりに、表面から奥の意味へ進む。

今日の中心漢字

浸 徹 跡 惜 錯 髓 添 挑

いっしょに覚える漢字

診	浄	昇	随	透	痕
貫	遺	残	深	古	読

漢字の意味の芯を確かめ、跡に関わる言葉を使い分けたあと、町に残る手がかりから意味を読み取る文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
浸	シン・ひたす	中までしみこむ 浸透・浸水・浸食・浸る	錯	サク	入りまじる／まちがう 錯覚・錯誤・交錯・錯綜
徹	テツ	最後までつらぬく 徹底・貫徹・透徹・徹夜	髓	ズイ	奥深い中心部分 骨髓・精髓・神髓
跡	セキ・あと	あとに残るしるし 足跡・痕跡・遺跡・跡地	添	テン・そえる	そばに加える 添える・添削・添加・添付
惜	セキ・おしい	失うことを残念に思う 惜別・惜敗・惜しむ・愛惜	挑	チョウ・いどむ	困難や相手に向かう 挑戦・挑発・挑む

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
診	シン・みる	状態を調べる 診断・診療・受診	貫	カン・つらぬく	つらぬく 貫通・貫徹・一貫
浄	ジョウ・きよめる	きれいにする 浄化・清浄・洗浄	遺	イ・のこす	あとに残す 遺跡・遺産・遺失
昇	ショウ・のぼる	上へ向かう 上昇・昇進・昇る	残	ザン・のこる	あとにとどまる 残る・残存・残念
随	ズイ・まにまに	したがう／流れに沿う 随筆・随行・追隨	深	シン・ふかい	奥まである 深い・深層・深刻
透	トウ・すく	通りぬける 透明・透過・透徹	古	コ・ふるい	昔からの 古い・古来・古跡
痕	コン・あと	あとに残るしるし 痕跡・傷痕	読	ドク・よむ	文字や意味を取る 読む・読解・読書

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「浸」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 外へ押し出す
- イ 高く上がる
- ウ 形を整える
- エ 中まで入りこむ

(2) 「徹」「貫」に共通するイメージとして最も近いものを選びなさい。

- ア 途中で止まる
- イ 最後まで通す
- ウ 横に並べる
- エ 静かに消える

(3) 「跡」「痕」「遺」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア これから起こること
- イ まったく新しいもの
- ウ 上にのぼること
- エ あとに残ったもの

(4) 「錯覚」「錯誤」「交錯」に共通するイメージとして最も近いものを選びなさい。

- ア 正しく整っている
- イ 入りまじったり、ずれたりする
- ウ 光が通りぬける
- エ 心が静まる

(5) 「添削」と「添加」の違いとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 添削は水がしみこむこと、添加は高く上がること。
- イ 二つは必ず同じ意味で使える。
- ウ 添削は昔のものを残すこと、添加は人を診ること。
- エ 添削は文章などを直すこと、添加は何かを加えること。

(6) 「惜敗」の意味として最も適切なものを選びなさい。

- ア 大きな差で勝つこと
- イ わずかな差で負けて、残念に思うこと
- ウ 試合を途中でやめること
- エ 相手を強く挑発すること

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 浸透 浸水 浸食 徹底 貫徹 痕跡 遺跡 診断 浄化 上昇 随筆 透明 添削 挑戦

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| (1) 大雨で地下室が（ ）した。 | (8) 医師から詳しい（ ）を受けた。 |
| (2) 長い年月をかけて、川の流れが岩を（ ）した。 | (9) 水を（ ）して安全にする。 |
| (3) 新しい考え方が社会に少しずつ（ ）した。 | (10) 気温がゆっくり（ ）する。 |
| (4) 作業の手順を全員に（ ）する。 | (11) 日常の出来事を自由に書いた（ ）を読む。 |
| (5) 最後まで自分の信念を（ ）した。 | (12) 先生に作文を（ ）してもらおう。 |
| (6) 古代の人々の暮らしを示す（ ）が見つかった。 | (13) 失敗を恐れず、新しい課題に（ ）する。 |
| (7) 壁には、昔の傷の（ ）が残っていた。 | (14) 向こう側が見えるほど（ ）な水だった。 |

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「浸透」と「普及」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 普及は内側までしみこむ感じがあり、浸透は広く行き渡る感じが強い。
- イ 浸透は「新しい機器が（ ）する」だけに、普及は「考えが社会に（ ）する」だけに使う。
- ウ 「考えが社会に（ ）する」と「新しい機器が（ ）する」では、浸透と普及を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 浸透は内側までしみこむ感じがあり、普及は広く行き渡る感じが強い。

(2) 「痕跡」と「遺跡」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 痕跡は何かがあったあとを広く指し、遺跡は昔の人間活動が残った場所や物を指す。
- イ 遺跡は何かがあったあとを広く指し、痕跡は昔の人間活動が残った場所や物を指す。
- ウ 痕跡は「古代の（ ）を調べる」だけに、遺跡は「犯人の（ ）を探す」だけに使う。
- エ 「犯人の（ ）を探す」と「古代の（ ）を調べる」では、痕跡と遺跡を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「錯覚」と「誤解」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 誤解は見え方や感じ方のずれ、錯覚は意味や事情の取り違えに使いやすい。
- イ 錯覚は見え方や感じ方のずれ、誤解は意味や事情の取り違えに使いやすい。
- ウ 錯覚は「説明を（ ）する」だけに、誤解は「影を人と（ ）する」だけに使う。
- エ 「影を人と（ ）する」と「説明を（ ）する」では、錯覚と誤解を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「惜しい」と「悔しい」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 悔しいは失われる価値に目が向き、惜しいは自分の失敗や結果への感情が強い。
- イ 惜しいと悔しいは意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 惜しいは失われる価値に目が向き、悔しいは自分の失敗や結果への感情が強い。
- エ 惜しいは悔しいの改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「考えが社会に（A）する」 B「新しい機器が（B）する」

- ア A=浸透／B=普及 イ A=普及／B=浸透
- ウ A=浸透／B=浸透 エ A=普及／B=普及

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「影を人と（A）する」 B「説明を（B）する」

- ア A=誤解／B=錯覚 イ A=錯覚／B=誤解
- ウ A=錯覚／B=錯覚 エ A=誤解／B=誤解

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| (1) 集計表のサクゴに気づき、正しい数値へ直した。 | (9) 実験器具は、セイジョウな水で丁寧に洗った。 |
| (2) 患者はドナーからコツヅイの提供を受けた。 | (10) 古い町並みは、次代へ伝えたい文化イサンである。 |
| (3) 雪の上に小さな動物のアシアトが続いていた。 | (11) 姉は新しい役職ヘショウシンし、仕事の幅が広がった。 |
| (4) 生地を柔らかくするため、少量の油をテンカした。 | (12) 通訳が代表団にズイコウし、会談を支えた。 |
| (5) 卒業式では、恩師へセキベツの言葉を贈った。 | (13) 薄い紙は光をわずかにトウカする。 |
| (6) 相手のチョウハツに乗らず、冷静に試合を続けた。 | (14) 転んだときのキズアトが、膝に薄く残っている。 |
| (7) 地域の診療所で、休日もシンリョウが行われる。 | (15) 先生の説明には、物事を見抜くトウテツした視線があった。 |
| (8) 長いトンネルが山の中央をカンツウしている。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 古来 | (17) 残存 | (18) 深層 | (19) 読解 | (20) 徹夜 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

町に残る小さな手がかり

古い町を歩くと、目立たない場所に過去の痕跡が残っていることがある。石段のすりへった跡、道の曲がり方、使われなくなった小さな病院の看板。そうしたものは、ただ古いだけのものではない。そこには、長い時間をかけて人々の暮らしが浸みこんでいる。

町の記録係に随行した悠人は、診療所の跡地で一枚の案内板を見つけた。透明な保護板の内側には、建物の写真と古い地図が添えられている。地図には、坂を昇った先に井戸があり、そこから細い道が延びていたことまで記されていた。

【調査メモ】 石段の摩耗は人の往来を示す。井戸の位置は古い地図と一致。看板の文字は一部判読できない。

もちろん、古いものをすべて残せばよいわけではない。危険な建物は取り壊す必要があるし、町を清潔に保つための浄化も欠かせない。しかし、何も考えずに過去を消してしまえば、その場所にあった記憶まで見えなくなる。大切なのは、古いものをただ惜しむことではなく、残された跡から何を読み取れるかを考えることだ。

文章を読むときも同じである。表面の言葉だけを追っていると、分かったつもりになることがある。しかし、それは錯覚にすぎない場合もある。言葉の奥へ少しずつ入り、筆者の言いたいことの精髓に近づくには、細部を丁寧に見つめる必要がある。読みは、一度で終わる作業ではない。何度も挑みながら、少しずつ意味を深めていくものなのである。

一つの資料だけで判断せず、写真、地図、傷痕を照らし合わせると、別々だった情報が一貫した筋を持ち始めた。遺されたものを読むには、見たい答えを急がず、確かめる手順を徹底しなければならない。

その日の終わり、悠人は「古いものは、黙っているのではない。こちらが読み方を挑み直すたび、残った跡の意味が少し深くなる」とノートに書いた。

翌日、別の班が同じ場所を調べると、悠人たちの記録にはなかった痕跡を見つけた。調査を受け渡すことで、読みは一人の発見を越えていった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 「過去に何かがあったことを示すあと」という意味で使われている熟語を、本文中から抜き出しなさい。

(2) 「シンリョウジョ」を漢字三字で書きなさい。

(3) 本文中の「浄化」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 汚れなどを取り除き、きれいにすること
- イ 古いものをそのまま残すこと
- ウ 人の気持ちを強く動かすこと
- エ 見えないものを探し出すこと

(4) 本文中の「錯覚」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 複数のものを順番に並べること
- イ 実際とは違うように感じたり思ったりすること
- ウ 深く考えた末に正しく判断すること
- エ 知らない言葉の読み方を調べること

(5) 町の跡を調べるとき、悠人たちが一つの資料だけで判断しなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「痕跡」「読解」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **エ** 中まで入りこむ

(4) **イ** 入りまじったり、ずれたりする

(2) **イ** 最後まで通す

(5) **エ** 添削は文章などを直すこと、添加は何かを加えること。

(3) **エ** あとに残ったもの

(6) **イ** わずかな差で負けて、残念に思うこと

四 熟語を広げよう

(1) 浸水

(8) 診断

(2) 浸食

(9) 浄化

(3) 浸透

(10) 上昇

(4) 徹底

(11) 随筆

(5) 貫徹

(12) 添削

(6) 遺跡

(13) 挑戦

(7) 痕跡

(14) 透明

使い分けを確かめよう：浸透は内側までしみこむ感じが強い、普及は広く行き渡る感じが強い。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 浸透は内側までしみこむ感じがあり、普及は広く行き渡る感じが強い。

例：考えが社会に浸透する／新しい機器が普及する

(2) **ア** 痕跡は何かがあったあとを広く指し、遺跡は昔の人間活動が残った場所や物を指す。

例：犯人の痕跡を探す／古代の遺跡を調べる

(3) **イ** 錯覚は見え方や感じ方のずれ、誤解は意味や事情の取り違えに使いやすい。

例：影を人と錯覚する／説明を誤解する

(4) **ウ** 惜しいは失われる価値に目が向き、悔しいは自分の失敗や結果への感情が強い。

(5) **ア** A＝浸透、B＝普及。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝錯覚、B＝誤解。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 錯誤

(11) 昇進

(2) 骨髓

(12) 随行

(3) 足跡

(13) 透過

(4) 添加

(14) 傷痕

(5) 惜別

(15) 透徹

(6) 挑発

(16) こらい

(7) 診療

(17) ざんそん

(8) 貫通

(18) しんそう

(9) 清浄

(19) どっかい

(10) 遺産

(20) てつや

七 文章の中で考えよう

- (1) 痕跡 本文中では「痕跡」と表されている。
- (2) 診療所
- (3) ア 汚れなどを取り除き、きれいにすること
- (4) イ 実際とは違うように感じたり思ったりすること
- (5) 解答例 (46 字)

写真や地図、傷痕を照合することで、残された跡を思い込みではなく、一貫した根拠から読めるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) 解答例 (71 字)

町の痕跡も文章の細部も、表面だけでは意味を決められない。複数の手がかりを丁寧に確かめる読解によって、残された時間や考えの奥へ少しずつ近づける。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第二回

心が動く

一つの感情の内側にある、いくつもの思いを見つめる。

今日の中心漢字

悔 憂 恐 怒 驚 慕 憧 愉

いっしょに覚える漢字

悲	喜	笑	泣	涙	恥
恨	懐	惑	快	情	感

感情を表す漢字と熟語を確かめ、似た気持ちの違いを考えたあと、心の動きを丁寧に言葉にする文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
悔	カイ・くいる	うまいかなかったことを残念に思う 後悔・悔悟・悔やむ	驚	キョウ・おどろく	思いがけないことに心が動く 驚異・驚愕・驚く
憂	ユウ・うれえる	心配する、不安に思う 憂慮・憂鬱・憂う	慕	ボ・したう	あこがれ、したう 敬慕・思慕・慕う
恐	キョウ・おそれる	おそれる 恐怖・恐縮・恐れる	憧	ショウ・あこがれる	理想としてあこがれる 憧憬・憧れる
怒	ド・いかる	強い不満や腹立ち 怒号・激怒・怒る	愉	ユ・たのしい	楽しく心地よい 愉快・愉悦

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
悲	ヒ・かなしい	かなしい 悲劇・悲観	恨	コン・うらむ	うらむ 遺恨・怨恨
喜	キ・よろこぶ	よろこぶ 喜劇・歓喜	懷	カイ・ふところ	なつかしむ 懷旧・懷古
笑	ショウ・わらう	わらう 笑顔・微笑	惑	ワク・まどう	まよう 迷惑・困惑
泣	キュウ・なく	涙を流す 泣く・号泣	快	カイ・こころよい	気持ちがい 快晴・快適
涙	ルイ・なみだ	なみだ 涙腺・涙声	情	ジョウ・なさけ	心の動き 感情・事情
恥	チ・はじる	はずかしい 恥辱・羞恥	感	カン	心が動くこと 感動・実感

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「憂」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 心配する
- イ 競争する
- ウ 祝福する
- エ 整理する

(2) 「慕」と「憧」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 避ける
- イ 怒る
- ウ あこがれる
- エ 忘れる

(3) 「悔」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 残念に思う
- イ 感謝する
- ウ 挑戦する
- エ 比較する

(4) 「驚」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 長く待つ
- イ 強く押す
- ウ 予想外のことに心が動く
- エ 静かに眠る

(5) 「愉快」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 楽しく気持ちがよい様子
- イ 非常に怒っている様子
- ウ 不安で落ち着かない様子
- エ 悲しみでいっぱいの様子

(6) 「恐怖」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 大きな喜び
- イ 深い後悔
- ウ 強いおそれ
- エ 強い期待

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 後悔 憂慮 恐怖 激怒 驚愕 敬慕 憧憬 愉快 歓喜 号泣 困惑 懐古 感動 羞恥

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| (1) 失敗したことをいつまでも（ ）している。 | (8) 友人との会話はいつも（ ）だ。 |
| (2) 将来の人口減少を（ ）する声がある。 | (9) 優勝が決まり、選手たちは（ ）した。 |
| (3) 暗い道を一人で歩くことに（ ）を感じた。 | (10) 映画の結末に（ ）した。 |
| (4) 約束を破られ、彼は（ ）した。 | (11) 昔の思い出を語る（ ）の時間。 |
| (5) 予想外の知らせに一同は（ ）した。 | (12) 突然の質問に（ ）した。 |
| (6) 先生への深い（ ）の念を抱く。 | (13) 悲しみのあまり（ ）した。 |
| (7) 宇宙飛行士への（ ）から勉強を始めた。 | (14) 人前で失敗し、強い（ ）を覚えた。 |

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「悔しい」と「悲しい」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 悲しいは結果への無念さ、悔しいは失ったことへのつらさが強い。
- イ 悔しいは結果への無念さ、悲しいは失ったことへのつらさが強い。
- ウ 悔しいは「別れが（ ）」だけに、悲しいは「負けたことが（ ）」だけに使う。
- エ 「負けたことが（ ）」と「別れが（ ）」では、悔しいと悲しいを意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「憧れる」と「慕う」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 慕うは理想へのあこがれ、憧れるは人をしたう気持ちに使いやすい。
- イ 憧れるは「恩師を（ ）」だけに、慕うは「舞台に（ ）」だけに使う。
- ウ 憧れるは理想へのあこがれ、慕うは人をしたう気持ちに使いやすい。
- エ 「舞台に（ ）」と「恩師を（ ）」では、憧れると慕うを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「困惑」と「恐怖」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 恐怖はどのようにも分からず迷うこと、困惑は強いおそれである。
- イ 困惑は「大きな音に（ ）を感じる」だけに、恐怖は「急な変更（ ）する」だけに使う。
- ウ 「急な変更（ ）する」と「大きな音に（ ）を感じる」では、困惑と恐怖を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 困惑はどのようにも分からず迷うこと、恐怖は強いおそれである。

(4) 「感動」と「歓喜」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 感動は心を深く動かされること、歓喜は大きな喜びである。
- イ 歓喜は心を深く動かされること、感動は大きな喜びである。
- ウ 感動と歓喜は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 感動は歓喜の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「舞台に（A）」 B「恩師を（B）」

- ア A＝慕う／B＝憧れる イ A＝憧れる／B＝憧れる
- ウ A＝憧れる／B＝慕う エ A＝慕う／B＝慕う

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「負けたことが（A）」 B「別れが（B）」

- ア A＝悲しい／B＝悔しい イ A＝悔しい／B＝悔しい
- ウ A＝悲しい／B＝悲しい エ A＝悔しい／B＝悲しい

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| (1) 過去の過ちを深くカイゴし、被害者へ謝罪した。 | (9) 言葉の行き違いを明るく描いたキゲキを観た。 |
| (2) 小さな苗が岩の割れ目で育つ姿に、生命のキョウイを感じた。 | (10) 同窓会では、校舎をめぐってカイキュウの情を語り合った。 |
| (3) 雨の日が続き、少しユウウツな気分になった。 | (11) 夜遅くに大声を出すと、近所のメイワクになる。 |
| (4) 亡き祖父へのシボを、短い随筆につづった。 | (12) 遠足の日には雲一つないカイセイに恵まれた。 |
| (5) 観客席から激しいドゴウが飛び、審判が注意した。 | (13) 目を潤す涙は、まぶたの上にあるルイセンから分泌される。 |
| (6) 長年の研究が実り、静かなユエツが胸に広がった。 | (14) 人前で侮られ、彼は強いチジョクを覚えた。 |
| (7) その舞台は、争いで家族を失うヒゲキを描いている。 | (15) 緊張していた子も、先生の一言でエガオになった。 |
| (8) 両家の間に残るアイコンを、対話によって解こうとした。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (16) 恐縮 | (17) 微笑 | (18) 事情 | (19) 実感 | (20) 憧憬 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一つではない気持ち

人の心は一つの感情だけでできているわけではない。

試合のあと、真由は自分の失敗を悔やみ、思わず怒った口調で仲間を責めた。すぐに後悔したが、今さら謝るのも恥ずかしい。相手に恨みがあるわけではないのに、次の試合も失敗するのではという恐れと憂いが、言葉を固くしていた。

「悲しいのか、怖いのか、自分でもまだ一つに決められない」

試合に負けたとき、人は悔しさを感じる。しかし、その悔しさの中には、自分の努力が足りなかったという思いもあれば、仲間に申し訳ないという気持ちもあるだろう。また、目標に届かなかった悲しさや、次こそはという希望が混ざることもある。

同じように、誰かに憧れる気持ちにもさまざまなものが含まれている。その人の能力に驚くこともあれば、生き方を慕うこともある。だから感情を理解するとは、ただ「うれしい」「かなしい」と名前を付けることではなく、その中にどのような思いが含まれているのかを考えることでもある。

言葉は、そうした心の違いを表すために存在しているのである。

仲間は答えを急がず、黙って隣に座った。やがて真由は泣いたあとの涙を拭き、少し笑った。懐かしい練習の話をするうち、困惑していた気持ちの中にも、仲間への信頼や、もう一度挑みたいという情があると分かった。

感情の名は、心を閉じ込める札ではない。喜び、愉快さ、驚き、憧れ、慕う気持ちを細かく言い分けるほど、自分と相手を理解する道が開く。言葉にできたあと、真由の表情は少し快く、やわらいで見えた。

翌日の練習で、真由は仲間に短く謝った。すると、責められるのではという恐怖が薄れた。相手も不安だったと知り、二人は同じ出来事の中に別々の感情があったことを確かめた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「あこがれる」という意味に近い語を抜き出しなさい。

(2) 本文中の「驚く」と意味が近い熟語として最も適切なものを選びなさい。

- ア 驚愕
- イ 後悔
- ウ 憂慮
- エ 歓喜

(3) 本文中の「感情」を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 必ず一つだけで成り立つもの
- イ 複数の思いが含まれることもあるもの
- ウ 名前を付けられないもの
- エ 常に同じ形を保つもの

(4) 本文全体の考え方として最も適切なものを選びなさい。

- ア 感情は複雑なので、言葉で表すことはできない。
- イ 感情は一つずつ完全に分かれて存在している。
- ウ 言葉は、心の細かな違いを表すために役立つ。
- エ 人は感情を考える必要がない。

(5) 真由が自分の気持ちを一つに決められなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「感情」「言葉」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) ア 心配する

(4) ウ 予想外のことに心が動く

(2) ウ あこがれる

(5) ア 楽しく気持ちがよい様子

(3) ア 残念に思う

(6) ウ 強いおそれ

四 熟語を広げよう

(1) 後悔

(8) 愉快

(2) 憂慮

(9) 歓喜

(3) 恐怖

(10) 感動

(4) 激怒

(11) 懷古

(5) 驚愕

(12) 困惑

(6) 敬慕

(13) 号泣

(7) 憧憬

(14) 羞恥

使い分けを確かめよう：悔しいは結果への無念さ、悲しいは失ったことへのつらさが強い。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 悔しいは結果への無念さ、悲しいは失ったことへのつらさが強い。

例：負けたことが悔しい／別れが悲しい

(2) **ウ** 憧れるは理想へのあこがれ、慕うは人をしたう気持ちに使いやすい。

例：舞台に憧れる／恩師を慕う

(3) **エ** 困惑はどうしてよいか分からず迷うこと、恐怖は強いおそれである。

例：急な変更に困惑する／大きな音に恐怖を感じる

(4) **ア** 感動は心を深く動かされること、歓喜は大きな喜びである。

(5) **ウ** A＝憧れる、B＝慕う。(2)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝悔しい、B＝悲しい。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 悔悟

(11) 迷惑

(2) 驚異

(12) 快晴

(3) 憂鬱

(13) 涙腺

(4) 思慕

(14) 恥辱

(5) 怒号

(15) 笑顔

(6) 愉悦

(16) きょうしゆく

(7) 悲劇

(17) びしょう

(8) 遺恨

(18) じじょう

(9) 喜劇

(19) じっかん

(10) 懐旧

(20) どうけい

七 文章の中で考えよう

- (1) **慕う** 本文中では「慕う」と表されている。
- (2) **ア** 驚愕
- (3) **イ** 複数の思いが含まれることもあるもの
- (4) **ウ** 言葉は、心の細かな違いを表すために役立つ。
- (5) **解答例** (45 字)

悔しさの内側に、仲間への申し訳なさや失敗への恐れ、もう一度挑みたい思いも混じっていたから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (72 字)

感情は一つの名で言い切れず、怒りや悲しみの内側に異なる思いが重なる。細かな違いを言葉にして確かめることで、自分と相手の心を理解する道が開かれる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第三回

見る・知る・考える

見えたことを記録し、根拠を確かめながら考える。

今日の中心漢字

視 観 察 認 識 悟 疑 評

いっしょに覚える漢字

知	見	考	思	判	解
論	証	記	聞	言	意

見る・知る・考える働きを表す言葉を学び、観察と判断の違いを確かめたあと、根拠から考えを組み立てる文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
視	シ・みる	目を向ける／ある見方をする 視線・視点・注視・軽視	識	シキ・しる	物事を知り分ける 知識・認識・意識・識別
観	カン・みる	全体を見てとらえる 観察・観点・客観・主観	悟	ゴ・さとり	はっと分かる／深く理解する 悟る・覚悟・悟性
察	サツ	よく見て考える／気づく 観察・察知・推察・考察	疑	ギ・うたがう	本当かどうか迷う 疑問・疑念・容疑・疑う
認	ニン・みとめる	そうだと受け入れる 認識・承認・確認・認める	評	ヒョウ	良し悪しや価値を判断する 評価・評判・批評・評論

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
知	チ・しる	しる 知識・通知・知人	論	ロン・あげつらう	筋道立てて述べる 論理・議論・論証
見	ケン・みる	みる／考え 意見・見解・発見	証	ショウ・あかし	確かめる 証明・論証・証拠
考	コウ・かんがえる	かんがえる 考察・思考・参考	記	キ・しるす	書きしるす 記録・記事・記憶
思	シ・おもう	おもう 思考・思想・意思	聞	ブン・きく	きく 聞く・新聞・聴聞
判	ハン・わかる	見分ける 判断・判定・批判	言	ゲン・いう	いう 言葉・発言・言論
解	カイ・とく	とく／分かる 理解・解説・読解	意	イ	心の中の考え 意見・意味・意思

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「視」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 声を出す
- イ 目を向ける
- ウ 物を運ぶ
- エ 形を壊す

(2) 「観察」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 自分の考えをまったく持たないこと。
- イ 他人の意見を聞かずに決めること。
- ウ 古い記録をすべて消すこと。
- エ 対象をよく見て、様子や変化を調べること。

(3) 「認識」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 考える前にすぐ行動すること。
- イ 物事を分かり、そういうものとして受けとめること。
- ウ 感情を外に出さないこと。
- エ 人に命令して動かすこと。

(4) 「悟る」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア はっきり拒む。
- イ 何度も書く。
- ウ 大きな声で話す。
- エ 深く理解する。

(5) 「疑問」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア だれかをほめる気持ち。
- イ 本当かどうか、またはなぜなのか分からずに思うこと。
- ウ よく分かっていて迷いがない状態。
- エ 物事の良し悪しを決めること。

(6) 「評価」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 水が中にしみこむこと。
- イ 昔のことをなつかしむこと。
- ウ 相手を怖がらせること。
- エ 価値や良し悪しを判断すること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 視線 視点 観察 考察 認識 知識 悟る 疑問 評価 見解 思考 判断 解説 論証

(1) 発表している生徒に、教室中の（ ）が集まった。

(8) 先生の説明を聞いても、まだ一つ（ ）が残った。

(2) 同じ出来事でも、見る人の（ ）によって意味が変わることがある。

(9) 作品の良さを、理由をあげて（ ）する。

(3) 植物の成長を毎日（ ）し、記録をつけた。

(10) その問題について、私は少し違う（ ）を持っている。

(4) 集めた資料をもとに、原因について（ ）する。

(11) 難しい文章を読むときは、ゆっくり（ ）する時間が必要だ。

(5) 自分の思いこみを、ただしい（ ）に変えていく。

(12) 十分な情報がないまま、急いで（ ）してはいけない。

(6) 言葉の意味を理解するには、漢字の（ ）も役に立つ。

(13) 分かりにくいところを、先生が図を使って（ ）した。

(7) 何度も失敗して、ようやく大切なことを（ ）。

(14) 自分の意見を支えるには、理由を筋道立てて（ ）する必要がある。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「視点」と「観点」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア どちらも物事の見方を表すが、視点は考える立場や切り口を表しやすい。
- イ 視点は「安全性という（ ）」だけに、観点は「登場人物の（ ）」だけに使う。
- ウ 「登場人物の（ ）」と「安全性という（ ）」では、視点と観点を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ どちらも物事の見方を表すが、観点は考える立場や切り口を表しやすい。

(2) 「認識」と「知識」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 認識は物事をどう受けとめているか、知識は知っている内容や情報を指しやすい。
- イ 知識は物事をどう受けとめているか、認識は知っている内容や情報を指しやすい。
- ウ 認識は「歴史の（ ）を得る」だけに、知識は「問題を重要だと（ ）する」だけに使う。
- エ 「問題を重要だと（ ）する」と「歴史の（ ）を得る」では、認識と知識を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「疑問」と「疑惑」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 疑惑は分からない点への問い、疑問は何か悪いことがあるのではないかという疑いに使いやすい。
- イ 疑問は分からない点への問い、疑惑は何か悪いことがあるのではないかという疑いに使いやすい。
- ウ 疑問は「不正への（ ）」だけに、疑惑は「意味への（ ）」だけに使う。
- エ 「意味への（ ）」と「不正への（ ）」では、疑問と疑惑を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「評価」と「批評」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 批評は価値や良し悪しを判断すること、評価は作品や考えについて良い点・問題点を述べることに使いやすい。
- イ 評価と批評は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 評価は価値や良し悪しを判断すること、批評は作品や考えについて良い点・問題点を述べることに使いやすい。
- エ 評価は批評の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「意味への（A）」 B「不正への（B）」

- ア A=疑問／B=疑惑 イ A=疑惑／B=疑問
- ウ A=疑問／B=疑問 エ A=疑惑／B=疑惑

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「問題を重要だと（A）する」 B「歴史の（B）を得る」

- ア A=知識／B=認識 イ A=認識／B=知識
- ウ A=認識／B=認識 エ A=知識／B=知識

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

(1) 警備員は画面をチュウシし、不審な動きを見逃さなかった。

(9) 休校のツウチが、朝早く学校から届いた。

(2) 呼吸を整えると、自分の感情を落ち着いてイシキできた。

(10) 結論だけでなく、そこへ至るロンリを確かめよう。

(3) 安全性というカンテンから、二つの案を比べた。

(11) 図書館の年表をサンコウにして、発表資料を作った。

(4) 困難な役目を引き受けるカクゴを、静かに固めた。

(12) 新聞のキジを読み、事実と意見を分けて整理した。

(5) 煙のにおいをサッチした警報器が、すぐに鳴った。

(13) 写真だけでは年代をハンテイできず、記録も調べた。

(6) 説明を聞いてもなお、記録の正確さへのギネンが残った。

(14) 同じコトバでも、場面によって受け取られ方は変わる。

(7) 住民のショウニンを得てから、保存計画が始まった。

(15) 会議では、立場の異なる人からもイケンを聞いた。

(8) 味のよい店だというヒョウバンを聞き、訪ねてみた。

B 次の熟語の読みを書きなさい。

(16) 発見

(17) 意思

(18) 証拠

(19) 新聞

(20) 読解

()

()

()

()

()

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

見たことから、考えたことへ

同じものを見ていても、人によって気づくことは違う。たとえば、校庭の一本の木を見たとき、ある人は葉の色に注目し、別の人は枝の形を見るかもしれない。さらに別の人は、その木の下で遊んだ記憶を思い出すかもしれない。ものを見るとは、ただ目に入れることなく、どの視点から受けとめるかということでもある。

理科の観察では、四人が同じ木を見て別々の記録を書いた。葉の数、枝の傾き、土の湿り方。発見を持ち寄ると、最初の見解だけでは足りなかったことが分かる。先生は「見た事実と、そこから考えたことを分けよう」と言った。

【観察記録】 事実：南側の芽が多い。推察：日当たりが関係するかもしれない。次に確かめること：一日の光の当たり方。

観察とは、ぼんやり見ることではない。小さな変化に気づき、それが何を意味するのかを考えることである。そこには、知識も必要だし、自分の思いこみに気づく認識の力も必要になる。何かを分かったつもりになっても、よく見直すと疑問が生まれることがある。その疑問こそが、考えを深める入り口になる。

文章を読むときも同じである。筆者の言葉をただ追うだけではなく、その言葉が何を示しているのかを考える。自分の見解を持つことは大切だが、それを支える理由がなければ、ただの感想になってしまう。読むとは、言葉を観察し、考えを論証しながら、少しずつ理解に近づいていく作業なのである。

友人の評判や、誰かから聞いた話も、知るための材料にはなる。しかし、それだけで人や出来事を判断すれば、思い込みを事実と取り違える。証拠を確認し、異なる意見を比べる必要がある。

悠人は、疑問が消えたときだけが理解ではないと悟った。何が分かり、何がまだ分からないかを認めることも、考察の一部である。評価とは答えを急いで決めることなく、根拠を示しながら見方を更新することなのだ。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「ものごとを見る立場や切り口」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「カンサツ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「認識」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものを速く運ぶ力
- イ 人前で大きな声を出すこと
- ウ 物事をどう分かり、受けとめているか
- エ 古いものを保存すること

(4) 本文中の「疑問」の働きとして最も適切なものを選びなさい。

- ア すべての知識を消してしまう。
- イ 文章を読む必要をなくす。
- ウ 自分の見解を必ず正しくする。
- エ 考えを深める入り口になる。

(5) 観察記録で「事実」と「推察」を分けたのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「根拠」「疑問」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|---------------------------------------|--|
| (1) イ 目を向ける | (4) エ 深く理解する。 |
| (2) エ 対象をよく見て、様子や変化を調べること。 | (5) イ 本当かどうか、またはなぜなのか分からずに思うこと。 |
| (3) イ 物事を分かり、そういうものとして受けとめること。 | (6) エ 価値や良し悪しを判断すること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 視線 | (8) 疑問 |
| (2) 視点 | (9) 評価 |
| (3) 観察 | (10) 見解 |
| (4) 考察 | (11) 思考 |
| (5) 認識 | (12) 判断 |
| (6) 知識 | (13) 解説 |
| (7) 悟る | (14) 論証 |

使い分けを確かめよう：どちらも物事の見方を表すが、観点は考える立場や切り口を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** どちらも物事の見方を表すが、観点は考える立場や切り口を表しやすい。

例：登場人物の視点／安全性という観点

(2) **ア** 認識は物事をどう受けとめているか、知識は知っている内容や情報を指しやすい。

例：問題を重要だと認識する／歴史の知識を得る

(3) **イ** 疑問は分からない点への問い、疑惑は何か悪いことがあるのではないかという疑いに使いやすい。

例：意味への疑問／不正への疑惑

(4) **ウ** 評価は価値や良し悪しを判断すること、批評は作品や考えについて良い点・問題点を述べることに使いやすい。

(5) **ア** A＝疑問、B＝疑惑。(3)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝認識、B＝知識。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 注視	(11) 参考
(2) 意識	(12) 記事
(3) 観点	(13) 判定
(4) 覚悟	(14) 言葉
(5) 察知	(15) 意見
(6) 疑念	(16) はっけん
(7) 承認	(17) いし
(8) 評判	(18) しょうこ
(9) 通知	(19) しんぶん
(10) 論理	(20) どっかい

七 文章の中で考えよう

(1) **視点** 本文中では「視点」と表されている。

(2) **観察**

(3) **ウ** 物事をどう分かり、受けとめているか

(4) **エ** 考えを深める入り口になる。

(5) **解答例** (41 字)

実際に見たことと、そこから考えた可能性を区別し、思い込みを事実として扱わないため。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (71 字)

見ることから考えるときは、事実と推察を分け、複数の根拠を確かめる必要がある。疑問を残すことも、判断を更新し理解を深めるための大切な働きである。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第四回

動く・進む・変わる

目に見える動きと、その奥で進む変化を捉える。

今日の中心漢字

移 進 退 転 変 促 抑 躍

いっしょに覚える漢字

動	歩	走	行	来	去
起	止	沈	浮	倒	伸

移動・進行・転換などの言葉を使い分けたあと、小さな動きが大きな変化へつながる過程を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
移	イ・うつる	場所や状態がうつる 移動・移転・移行・移す	変	ヘン・かわる	形・状態・考えなどが変わる 変化・変動・変更・変える
進	シン・すすむ	前へ進む／物事が進む 進行・進歩・前進・進む	促	ソク・うながす	早く進むようにうながす 促進・催促・促す
退	タイ・しりぞく	後ろへ下がる／身を引く 後退・退場・退職・退く	抑	ヨク・おさえる	勢いや感情をおさえる 抑制・抑圧・抑える
転	テン・ころがる	向きや状態が変わる 転換・転倒・転校・転じる	躍	ヤク・おどる	勢いよく動く／活発になる 躍動・飛躍・活躍・躍る

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
動	ドウ・うごく	うごく 運動・活動・動作	起	キ・おきる	おきる／始まる 起動・起床・発起
歩	ホ・あるく	あるく 歩行・歩道・進歩	止	シ・とまる	とまる 停止・中止・防止
走	ソウ・はしる	はしる 走行・競走・疾走	沈	チン・しずむ	しずむ 沈下・沈黙・沈む
行	コウ・いく	いく／おこなう 行動・進行・旅行	浮	フ・うく	うく 浮上・浮力・浮かぶ
来	ライ・くる	くる 来訪・未来・往来	倒	トウ・たおれる	たおれる 転倒・倒壊・倒れる
去	キョ・さる	さる 去来・過去・退去	伸	シン・のびる	のびる 伸長・伸縮・伸びる

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「移」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 強くおこる
- イ 汚れを落とす
- ウ 場所や状態がうつる
- エ 人をほめる

(2) 「促す」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 早く進むようにうながす
- イ 深く眠らせる
- ウ 昔を思い出す
- エ 水の中に沈める

(3) 「進」と「退」の関係として最も自然なものを選びなさい。

- ア 笑うことと、泣くこと
- イ 書くことと、読むこと
- ウ 前へ進むことと、後ろへ下がること
- エ 上へ浮くことと、下へ沈むこと

(4) 「転換」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 方向や方針などを変えること。
- イ 物事をまったく動かさないこと。
- ウ 人の気持ちを怖がらせること。
- エ 古いものをそのまま残すこと。

(5) 「抑制」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 大きな声で喜ぶこと。
- イ ものを遠くへ運ぶこと。
- ウ 勢いや感情などをおさえること。
- エ 過去の記録を写すこと。

(6) 「躍動」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 生き生きと動いている様子。
- イ 静かに止まっている様子。
- ウ 水が汚れてにごる様子。
- エ 失敗を残念に思う様子。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 移動 進行 後退 転換 変化 促進 抑制 躍動 行動 起動 停止 沈下 浮上 倒壊

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| (1) 遠足の日、駅から公園まで歩いて（ ）した。 | (8) 祭りの日の町には、人々の（ ）が感じられた。 |
| (2) 工事は予定どおりに（ ）している。 | (9) 考えているだけでなく、まずは小さく（ ）してみる。 |
| (3) 相手の勢いに押され、チーム全体が少し（ ）した。 | (10) パソコンを（ ）して、今日の作業を始めた。 |
| (4) 計画がうまくいかず、途中で方針を（ ）した。 | (11) 大雨のため、電車の運転が一時（ ）した。 |
| (5) 春になると、町の景色にも少しずつ（ ）が現れる。 | (12) 地面が少しずつ（ ）し、建物にゆがみが出た。 |
| (6) 読書を（ ）するため、学校に新しい本棚が置かれた。 | (13) 沈んでいた問題が、会議で再び（ ）した。 |
| (7) 怒りをそのまま出さず、言葉を選んで（ ）する。 | (14) 強い地震で、古い建物が（ ）した。 |

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「移動」と「移行」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 移行は場所が変わることに使いやすく、移動は制度や状態が別の段階へ移ることに使いやすい。
- イ 移動は場所が変わることに使いやすく、移行は制度や状態が別の段階へ移ることに使いやすい。
- ウ 移動は「新制度へ（ ）する」だけに、移行は「机を（ ）する」だけに使う。
- エ 「机を（ ）する」と「新制度へ（ ）する」では、移動と移行を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「進行」と「促進」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 促進は物事が進むこと、進行は物事が進むようにうながすことに使いやすい。
- イ 進行は「交流を（ ）する」だけに、促進は「工事が（ ）する」だけに使う。
- ウ 進行は物事が進むこと、促進は物事が進むようにうながすことに使いやすい。
- エ 「工事が（ ）する」と「交流を（ ）する」では、進行と促進を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「抑制」と「停止」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 停止は勢いなどをおさえること、抑制は動きが止まることである。
- イ 抑制は「機械を（ ）する」だけに、停止は「感情を（ ）する」だけに使う。
- ウ 「感情を（ ）する」と「機械を（ ）する」では、抑制と停止を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 抑制は勢いなどをおさえること、停止は動きが止まることである。

(4) 「転換」と「変化」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 変化は何かが変わることを広く表し、転換は方向や方針が切り替わる感じが強い。
- イ 転換は何かが変わることを広く表し、変化は方向や方針が切り替わる感じが強い。
- ウ 転換と変化は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 転換は変化の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「机を（A）する」 B「新制度へ（B）する」

- ア A＝移行／B＝移動 イ A＝移動／B＝移動
- ウ A＝移動／B＝移行 エ A＝移行／B＝移行

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「感情を（A）する」 B「機械を（B）する」

- ア A＝停止／B＝抑制 イ A＝抑制／B＝抑制
- ウ A＝停止／B＝停止 エ A＝抑制／B＝停止

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| (1) 駅前の書店は、来月となりの通りヘイテンする。 | (9) 休日も同じ時刻にキショウし、生活のリズムを守った。 |
| (2) 原料の価格が大きくヘンドウし、予算を組み直した。 | (10) 雨で滑りやすいホドウを、足元に注意して歩いた。 |
| (3) 治療法のシンポによって、回復までの期間が短くなった。 | (11) 強風のため、午後の列車は運転チュウシとなった。 |
| (4) 返事を急いでサイソクせず、相手の事情を待った。 | (12) 二人の選手が最後の直線まで激しくキョウソウした。 |
| (5) 演奏を終えた奏者が拍手の中をタイジョウした。 | (13) 問いかけのあとに短いチンモクが流れた。 |
| (6) 感情をヨクアツし続けると、心身に負担がかかる。 | (14) 春休みに家族で北陸をリョコウする予定だ。 |
| (7) 新しい発想が、研究を大きくヒヤクさせた。 | (15) 水中の物体には、上向きのフリョクが働く。 |
| (8) 毎朝の軽いウンドウを、無理のない範囲で続けている。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 倒壊 | (17) 伸長 | (18) 来訪 | (19) 去来 | (20) 転倒 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

変化の途中を見る

変化は、いつも目に見えやすい形で起こるとは限らない。町の風景が大きく変わるときも、最初は小さな移動や、少しの方針転換から始まることがある。たとえば、駅前に人が集まるようになり、店の並びが少しずつ変わり、やがて町全体の動きが変わっていく。

駅前広場の試験運用では、人の歩行と車の走行を時間ごとに記録した。朝は駅へ進む流れが強く、昼には来訪者が増える。夕方は人が去る方向へ動きが転じた。数字が上昇した時刻だけでなく、いったん停止した理由も調べた。

【一日の記録】8時：通勤者が集中。12時：ベンチ利用が増加。16時：工事車両のため通路を一時変更。

人の考え方も同じである。ある言葉との出会いが、すぐに行動を変えるわけではない。しかし、その言葉が心に残り、何度も思い出されるうちに、考え方の変化を促すことがある。反対に、強い感情に動かされすぎないように、自分を抑制することが必要な場面もある。

文章を読むときにも、ただ話が進行していることだけを追うのでは足りない。どこで考えが転換したのか、何が沈み、何が浮上してきたのかを見つめる必要がある。読むとは、言葉の動きを追いながら、見えにくい変化に気づくことでもある。

計画を進める人は、勢いだけを促せばよいのではない。混雑を抑え、危険なら後退し、倒れそうな案内板を直す。小さな修正を重ねることで、利用者の動きは無理なく伸びていった。

変化の途中には、沈む意見もあれば、あとから浮上する提案もある。目立つ飛躍だけでなく、起きては止まる小さな動きを追うと、方針がどのように転換したかが見えてくる。

完成図だけを見れば、変更は一本の線に見える。しかし記録には、迷い、試し、元へ戻した跡が残る。変化を理解するには、結果と同じくらい経過が大切なのである。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「方向や方針を変えること」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「シンコウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「促す」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 完全に止める
- イ 昔を思い出す
- ウ きれいに洗う
- エ そうなるようにうながす

(4) 本文中の「抑制」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 勢いや感情をおさえること
- イ 急に高く上がること
- ウ 知らない言葉を調べること
- エ 人の失敗を笑うこと

(5) 班が人の数の増減だけでなく、動きが止まった理由も調べたのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「変化」「途中」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| (1) ウ 場所や状態がうつる | (4) ア 方向や方針などを変えること。 |
| (2) ア 早く進むようにうながす | (5) ウ 勢いや感情などをおさえること。 |
| (3) ウ 前へ進むことと、後ろへ下がること | (6) ア 生き生きと動いている様子。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 移動 | (8) 躍動 |
| (2) 進行 | (9) 行動 |
| (3) 後退 | (10) 起動 |
| (4) 転換 | (11) 停止 |
| (5) 変化 | (12) 沈下 |
| (6) 促進 | (13) 浮上 |
| (7) 抑制 | (14) 倒壊 |

使い分けを確かめよう：移動は場所が変わることに使いやすく、移行は制度や状態が別の段階へ移ることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 移動は場所が変わることに使いやすく、移行は制度や状態が別の段階へ移ることに使いやすい。

例：机を移動する／新制度へ移行する

(2) **ウ** 進行は物事が進むこと、促進は物事が進むようにうながすことに使いやすい。

例：工事が進行する／交流を促進する

(3) **エ** 抑制は勢いなどをおさえること、停止は動きが止まることである。

例：感情を抑制する／機械を停止する

(4) **ア** 変化は何かが変わることを広く表し、転換は方向や方針が切り替わる感じが強い。

(5) **ウ** A＝移動、B＝移行。(1)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝抑制、B＝停止。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 移転

(11) 中止

(2) 変動

(12) 競走

(3) 進歩

(13) 沈黙

(4) 催促

(14) 旅行

(5) 退場

(15) 浮力

(6) 抑圧

(16) とうかい

(7) 飛躍

(17) しんちょう

(8) 運動

(18) らいほう

(9) 起床

(19) きょらい

(10) 歩道

(20) てんとう

七 文章の中で考えよう

(1) **転換** 本文中では「転換」と表されている。

(2) **進行**

(3) **エ** そうなるようにうながす

(4) **ア** 勢いや感情をおさえること

(5) **解答例** (45 字)

数字の変化だけでなく、その背景を確かめることで、広場で起きた動きの意味まで理解できるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (73 字)

変化は突然完成するのではなく、小さな移動や停止、方針の修正が重なって進む。目立つ結果だけでなく途中の動きを追うと、考えが転換した理由も見えてくる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第五回

形と境目

広さ・境界・奥行きから、ものの構造を捉える。

今日の中心漢字

域 境 限 幅 層 端 隅 奥

いっしょに覚える漢字

形	線	面	角	辺	側
内	外	間	区	積	構

範囲や形を表す漢字を学び、表面と深層、内側と外側の関係を確認したあと、境目の意味を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
域 境 限 幅	イキ	ある範囲・場所 地域・領域・区域・域内	層	ソウ	重なり／段階 地層・階層・深層・層
	キョウ・さかい	さかため／まわりの状態 境界・境目・環境・国境	端	タン・はし	はし／ものの先 先端・端末・極端・端
	ゲン・かぎる	ここまでという区切り 限界・制限・期限・限定	隅	グウ・すみ	すみ／中心から離れた所 片隅・四隅・隅々
	フク・はば	横の広がり／物事の広がり 横幅・幅員・振幅・幅広い	奥	オウ・おく	深く入ったところ 奥行き・奥底・奥義・奥

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
形 線 面 角 辺 側	ケイ・かた	かたち 形状・形式・図形	内	ナイ・うち	うち 内部・内容・内側
	セン・すじ	すじ・区切り 直線・曲線・境界線	外	ガイ・そと	そと 外部・外側・除外
	メン・おも	ひろがった部分 表面・場面・面積	間	カン・あいだ	あいだ 空間・時間・間隔
	カク・かど	かど・すみ 角度・三角・角	区	ク	分ける 区別・区分・区域
	ヘン・あたり	まわり・はし 周辺・辺境・辺り	積	セキ・つむ	広さ・重なり 面積・体積・蓄積
	ソク・かわ	そば・がわ 側面・内側・外側	構	コウ・かまえる	組み立て 構造・構成・構想

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「域」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 強い感情
- イ 水の流れ
- ウ 昔の記録
- エ ある範囲

(2) 「境界」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物を高く持ち上げること。
- イ ものごとのさかいめ。
- ウ 人の気持ちを強くすること。
- エ 古いものをなつかしむこと。

(3) 「限界」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 中心から離れたすみ。
- イ 物事がまだ始まっていない状態。
- ウ 形が完全に消えること。
- エ ここまでというぎりぎりのところ。

(4) 「階層」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 一直線に進むこと。
- イ ものごとが段階や重なりを持っていること。
- ウ 外側をきれいに洗うこと。
- エ すぐに怒り出すこと。

(5) 「極端」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 中心に近いこと。
- イ 少しだけ違うこと。
- ウ ちょうど中間であること。
- エ 普通の範囲から大きく外れていること。

(6) 「奥行き」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものの外側についた汚れ。
- イ 表面から奥へ向かう深さや広がり。
- ウ 短い時間で終わること。
- エ 人前で笑うこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 地域 領域 境界 環境 限界 制限 横幅 階層 先端 片隅 奥行き 図形 表面 構造

(1) この町では、()の人々が協力して祭りを支えている。

(8) 社会には、年齢や仕事によってさまざまな()がある。

(2) 医学や法律など、専門的な()には独自の言葉が多い。

(9) 新しい技術の()にふれる展示を見に行った。

(3) 二つの国の()を越えて、人や物が行き来する。

(10) 教室の()に、小さな掲示板が置かれていた。

(4) 植物を育てるには、温度や水などの()を整える必要がある。

(11) この絵は、近くで見るより少し離れた方が()を感じる。

(5) 無理を続けていると、体力の()に近づいてしまう。

(12) 三角形や四角形などの()をノートに描いた。

(6) 図書館では、大きな声で話すことが()されている。

(13) 池の()に、夕方の空が静かに映っていた。

(7) 机の()を測って、部屋に入るか確認した。

(14) 文章の()をつかむと、筆者の考えの流れが見えやすくなる。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「地域」と「領域」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 領域は実際の場所や土地のまとまりに使いやすく、地域は学問や活動の範囲にも使いやすい。
- イ 地域は「研究の（ ）」だけに、領域は「海沿いの（ ）」だけに使う。
- ウ 「海沿いの（ ）」と「研究の（ ）」では、地域と領域を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 地域は実際の場所や土地のまとまりに使いやすく、領域は学問や活動の範囲にも使いやすい。

(2) 「境界」と「環境」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 境界はさかいめ、環境はまわりを取り巻く条件や状態を表す。
- イ 環境はさかいめ、境界はまわりを取り巻く条件や状態を表す。
- ウ 境界は「学習しやすい（ ）」だけに、環境は「敷地の（ ）」だけに使う。
- エ 「敷地の（ ）」と「学習しやすい（ ）」では、境界と環境を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「制限」と「限界」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 限界は一定の範囲を決めておさえること、制限はそれ以上進みにくいぎりぎりのところである。
- イ 制限は一定の範囲を決めておさえること、限界はそれ以上進みにくいぎりぎりのところである。
- ウ 制限は「体力の（ ）」だけに、限界は「人数を（ ）する」だけに使う。
- エ 「人数を（ ）する」と「体力の（ ）」では、制限と限界を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「表面」と「深層」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 深層は外から見える部分、表面は奥にある見えにくい部分を表す。
- イ 表面と深層は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 表面は外から見える部分、深層は奥にある見えにくい部分を表す。
- エ 表面は深層の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「敷地の（A）」 B「学習しやすい（B）」

- ア A＝境界／B＝環境 イ A＝環境／B＝境界
- ウ A＝境界／B＝境界 エ A＝環境／B＝環境

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「海沿いの（A）」 B「研究の（B）」

- ア A＝領域／B＝地域 イ A＝地域／B＝領域
- ウ A＝地域／B＝地域 エ A＝領域／B＝領域

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| (1) 工事のため、立入禁止のクイキが地図に示された。 | (9) 出土した器のケイジョウを、図に記録した。 |
| (2) 表面の発言だけでなく、心のシンソウにも目を向けた。 | (10) 施設のガイブからは、内部の構造が見えない。 |
| (3) 二つの土地のサカイメに、低い石垣が続いている。 | (11) 机の配置を変えると、教室のクウカンが広く感じられた。 |
| (4) 新しいタンマツに、学習用の資料を保存した。 | (12) 事実と推測をクベツして、調査ノートに書いた。 |
| (5) 提出のキゲンを確かめ、余裕をもって仕上げた。 | (13) 容器に入る水のタイセキを計算した。 |
| (6) 額縁のヨスミが直角になっているか測った。 | (14) 建物のソクメンに、細長い窓が並んでいる。 |
| (7) 道路のフクインが狭いため、車はゆっくり進んだ。 | (15) 序論・本論・結論のコウセイを先に考えた。 |
| (8) 胸のオクソコにしまっていた思いを、初めて話した。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 直線 | (17) 角度 | (18) 周辺 | (19) 内部 | (20) 面積 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

地図に引かれた一本の線

ものを見るとき、私たちはつい表面に目を向ける。建物なら外側の形、文章なら最初に目に入る言葉、友人ならその日の表情。もちろん、表面は大切である。そこには、何かを理解するための手がかりが現れているからだ。

新しい広場の区域を決めるため、班は地図に境界線を引いた。道路から川辺までの幅、建物の角から木までの距離、休憩場所の面積を測る。ところが、一本の線で内側と外側を分けると、毎日使われてきた小径の一部が外へ出てしまった。

「地図の端は、暮らしの端と同じではない」

しかし、表面だけでは分からないことも多い。町には地域ごとの歴史があり、人には心の奥行きがあり、文章には考えの構造がある。それらはすぐに見えるものではないが、境界や変化に注意して読むことで、少しずつ見えてくる。どこからどこまでが一つのまとまりなのか、どの部分が中心で、どの部分が端にあるのかを考えることが大切である。

図形を見るときにも、文章を読むときにも、ただ全体をながめるだけでは足りない。線や面、内側と外側、中心と隅の関係を見つめることで、形の意味が分かってくる。読むとは、言葉の表面から奥へ入り、見えにくい構造をたどることでもある。

地域の歴史には、目に見える表層と、記憶が重なる深層がある。図面の形式だけで考えると、片隅の小さな使い方を除外してしまう。班は利用の範囲を調べ、制限の理由も書き添えた。

線、面、角度、周辺との間隔を確かめることは必要である。ただし、構造を知るとは数値を積み上げるだけではない。人がどこで立ち止まり、どの辺りを通るのかまで見ると、地図の奥行きが変わって見えた。

班は最後に、線を引いた理由を凡例へ書いた。境目を示すだけでなく、なぜそこを区切ったのかを伝えることで、地図は命令ではなく、話し合える案になった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「外から見える部分」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「コウゾウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「奥行き」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 表面から奥へ向かう深さや広がり

イ すぐに見える外側だけの様子

ウ ものが完全に消えてしまうこと

エ 文字を大きく書くこと

(4) 本文中の「境界」に注目する理由として最も適切なものを選びなさい。

ア すべての言葉を同じ意味にできるから。

イ ものごとのまとまりや区切りが見えやすくなるから。

ウ 文章を読まなくても内容が分かるから。

エ 形や意味の違いをなくすことができるから。

(5) 班が地図上の境界線を引き直したのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「境界」「構造」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| (1) エ ある範囲 | (4) イ ものごとが段階や重なりを持っていること。 |
| (2) イ ものごとのさかいめ。 | (5) エ 普通の範囲から大きく外れていること。 |
| (3) エ ここまでというぎりぎりのところ。 | (6) イ 表面から奥へ向かう深さや広がり。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|----------|
| (1) 地域 | (8) 階層 |
| (2) 領域 | (9) 先端 |
| (3) 境界 | (10) 片隅 |
| (4) 環境 | (11) 奥行き |
| (5) 限界 | (12) 図形 |
| (6) 制限 | (13) 表面 |
| (7) 横幅 | (14) 構造 |

使い分けを確かめよう：地域は実際の場所や土地のまとまりに使いやすく、領域は学問や活動の範囲にも使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

- (1) **エ** 地域は実際の場所や土地のまとまりに使いやすく、領域は学問や活動の範囲にも使いやすい。
 例：海沿いの地域／研究の領域
- (2) **ア** 境界はさかいめ、環境はまわりを取り巻く条件や状態を表す。
 例：敷地の境界／学習しやすい環境
- (3) **イ** 制限は一定の範囲を決めておさえること、限界はそれ以上進みにくいぎりぎりのところである。
 例：人数を制限する／体力の限界
- (4) **ウ** 表面は外から見える部分、深層は奥にある見えにくい部分を表す。
- (5) **ア** A＝境界、B＝環境。(2)の使い分けを参照。
- (6) **イ** A＝地域、B＝領域。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 区域	(11) 空間
(2) 深層	(12) 区別
(3) 境目	(13) 体積
(4) 端末	(14) 側面
(5) 期限	(15) 構成
(6) 四隅	(16) ちよくせん
(7) 幅員	(17) かくど
(8) 奥底	(18) しゅうへん
(9) 形状	(19) ないぶ
(10) 外部	(20) めんせき

七 文章の中で考えよう

- (1) **表面** 本文中では「表面」と表されている。
- (2) **構造**
- (3) **ア** 表面から奥へ向かう深さや広がり
- (4) **イ** ものごとのまとまりや区切りが見えやすくなるから。
- (5) **解答例** (45 字)

最初の線では、住民が日常的に使ってきた小径が区域外となり、暮らしの実態を表せなかったから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (72 字)

境界を定めるには、距離や面積だけでなく、人の動きや記憶も見る必要がある。表面の形と奥の暮らしを丁寧に結ぶことで、地域の構造が立体的に見えてくる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第六回

関係を結ぶ

違いを消さずに、人や言葉のつながりを組み立てる。

今日の中心漢字

伴 接 結 絡 応 対 交 属

いっしょに覚える漢字

係	関	合	別	同	共
協	連	友	仲	隣	縁

関係・対応・対話などの言葉を使い分けたあと、人と人、文と文の間に生まれるつながりを考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
伴	ハン・ともなう	そばにいて、ともにする 伴走・同伴・伴奏・伴う	応	オウ・あたる	相手や状況にこたえる 応答・対応・反応・応用
接	セツ・つぐ	ふれる／つながる 接触・接続・接近・面接	対	タイ・あいて	向かい合う 対話・対立・対応・反対
結	ケツ・むすぶ	むすぶ／まとまる 結合・結論・結果・結ぶ	交	コウ・まじわる	まじわる／行き来する 交流・交差・交替・交渉
絡	ラク・からむ	からむ／関わる 連絡・絡む・絡み合う・脈絡	属	ゾク・さかん	ある集まりや種類に入る 所属・属性・従属・金属

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
係	ケイ・かかる	つながり／役割 関係・係員・係る	協	キョウ	力を合わせる 協力・協調・協議
関	カン・せき	かかわる 関係・関心・関連	連	レン・つらなる	つらなる 連絡・連続・関連
合	ゴウ・あう	あわせる 結合・合同・都合	友	ユウ・とも	ともだち 友人・友情・親友
別	ベツ・わかれる	分ける／はなれる 区別・別人・別離	仲	チュウ・なか	人とのあいだ 仲間・仲裁・仲良し
同	ドウ・おなじ	おなじ 同時・同意・共同	隣	リン・となる	となり 隣人・近隣・隣接
共	キョウ・とも	ともに 共通・共同・共感	縁	エン・ふち	つながり・めぐりあわせ 縁故・血縁・縁

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「伴う」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア そばについて一緒に進む
- イ すぐに忘れる
- ウ 細かく分ける
- エ 強く拒む

(2) 「接」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 昔をなつかしむ
- イ 高く上がる
- ウ ふれる／つながる
- エ 水にしずむ

(3) 「結論」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 考えを進めたあとにまとめた答え。
- イ だれかを強く怒らせること。
- ウ ものの表面を洗うこと。
- エ 何も考えずに動くこと。

(4) 「対応」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものを高く積み上げること。
- イ 過去の記憶をすべて消すこと。
- ウ 起きたことや相手に合わせてこたえること。
- エ 必ず相手に反対すること。

(5) 「交流」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人やものが行き来し、関わり合うこと。
- イ 一人だけで黙っていること。
- ウ 動きを完全に止めること。
- エ 考えをまったく持たないこと。

(6) 「所属」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 遠くへ逃げること。
- イ 音を聞き分けること。
- ウ ある集まりや組織に入っていること。
- エ 道をまっすぐ進むこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 同伴 接近 接続 結論 結果 連絡 脈絡 対応 反応 対話 対立 交流 交差 所属

(1) 小学生の弟は、母の（ ）で会場に入った。

(8) 急な質問にも、落ち着いて（ ）した。

(2) 台風が日本列島に（ ）している。

(9) 薬を飲んだあと、体にどんな（ ）が出るか注意する。

(3) パソコンとプリンターを正しく（ ）する。

(10) 相手の考えを知るためには、まず静かに（ ）することが大切だ。

(4) 話し合いを重ね、ようやく一つの（ ）にたどり着いた。

(11) 二つの意見が強く（ ）し、話し合いは難しくなった。

(5) 努力したからといって、いつも望んだ（ ）が出るとは限らない。

(12) 外国の生徒との（ ）を通して、新しい考え方を知った。

(6) 欠席するときは、学校へ早めに（ ）する。

(13) 二本の道が駅前で（ ）している。

(7) 前後の（ ）を考えると、その言葉の意味が分かりやすくなる。

(14) 彼は中学校ではサッカー部に（ ）している。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「関係」と「関連」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 関連は人や物事のつながりを広く表し、関係はある物事と別の物事とのかかわりを表しやすい。
- イ 関係は人や物事のつながりを広く表し、関連はある物事と別の物事とのかかわりを表しやすい。
- ウ 関係は「事件に（ ）する資料」だけに、関連は「人間（ ）」だけに使う。
- エ 「人間（ ）」と「事件に（ ）する資料」では、関係と関連を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「対応」と「反応」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 反応は状況に合わせてこたえること、対応は刺激や出来事に対して何かが起こることに使いやすい。
- イ 対応は「音に（ ）する」だけに、反応は「質問に（ ）する」だけに使う。
- ウ 対応は状況に合わせてこたえること、反応は刺激や出来事に対して何かが起こることに使いやすい。
- エ 「質問に（ ）する」と「音に（ ）する」では、対応と反応を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「対話」と「対立」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 対立は向かい合って言葉を交わすこと、対話は意見や立場が合わず向かい合うことに使いやすい。
- イ 対話は「意見が（ ）する」だけに、対立は「（ ）を重ねる」だけに使う。
- ウ 「（ ）を重ねる」と「意見が（ ）する」では、対話と対立を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 対話は向かい合って言葉を交わすこと、対立は意見や立場が合わず向かい合うことに使いやすい。

(4) 「共通」と「共同」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 共通は複数のものに同じ点があること、共同は複数の人や団体が一緒に行うことに使いやすい。
- イ 共同は複数のものに同じ点があること、共通は複数の人や団体が一緒に行うことに使いやすい。
- ウ 共通と共同は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 共通は共同の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「(A)を重ねる」 B「意見が(B)する」

- ア A=対立／B=対話 イ A=対話／B=対話
- ウ A=対話／B=対立 エ A=対立／B=対立

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「質問に(A)する」 B「音に(B)する」

- ア A=反応／B=対応 イ A=対応／B=対応
- ウ A=反応／B=反応 エ A=対応／B=反応

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) 長距離走では、友人が選手の横でバンソウした。 | (9) 小さな成功をレンゾクさせると、自信につながる。 |
| (2) 呼びかけにすぐオウトウがあり、無事を確認できた。 | (10) 二つの学校がゴウドウで防災訓練を行った。 |
| (3) 薬品が皮膚にセッシュクしないよう、手袋を着けた。 | (11) 久しぶりに会ったユウジンと、近況を語り合った。 |
| (4) 提案にハantaiする理由も、最後まで丁寧聞いた。 | (12) 困ったときに支え合えるナカマがいる。 |
| (5) 二つの部品を強くケツゴウし、一つの粹にした。 | (13) 三つの案にキョウツウする目的を見つけた。 |
| (6) 疲れをためないよう、担当を一時間ごとにコウタイした。 | (14) 採用では能力を見て、エンコに頼らないことが大切だ。 |
| (7) 色や硬さは、この素材が持つゾクセイの一つである。 | (15) 入口のカカリインに、会場までの道を尋ねた。 |
| (8) 地域の歴史にカンシンを持つ人が、講座へ集まった。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 関係 | (17) 区別 | (18) 同意 | (19) 協力 | (20) 隣接 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

つながりは、間に生まれる

人と人との関係は、ただ近くにいるだけで生まれるものではない。同じ教室にいても、言葉を交わさなければ、相手の考えは分からない。反対に、少し離れた場所にいても、手紙や連絡を通して、心が近づくこともある。つながりとは、距離だけで決まるものではないのである。

広場づくりの協議には、町内会、学校、近隣の店、川を守る団体が参加した。所属も年齢も別々で、最初は話題が交差するばかりだった。進行役は、反対意見を急いで一つに合わせず、共通する関心を黒板に書いた。

【話し合いで見えた共通点】 子どもが安全に過ごせること／水辺の環境を守ること／災害時に連絡しやすいこと

対話には、相手と向かい合うという意味がある。しかし、向かい合うことは、必ずしも対立することではない。むしろ、相手の言葉にどう対応するかを考え、自分の考えを結び直すことで、新しい理解が生まれることもある。そこには、意見の違いをただ消すのではなく、違いを含んだまま関係を作る力が必要である。

文章を読むときも同じである。一つ一つの文は、ばらばらに置かれているのではない。前の文と後の文、具体例と結論、問いと答えが、互いに関係しながら意味を作っている。読むとは、言葉どうしの脈絡をたどり、どのように考えが結ばれているのかを見つけることでもある。

友人と仲間は同じではなく、隣り合えば自動的に縁が生まれるわけでもない。それでも、相手の言葉に応答し、自分の案との接点を探すと、協力できる部分が見つかる。伴走するとは、相手と同じ速さを強いることではない。

係の人は結論だけでなく、そこへ至る脈絡も記録した。関係は完成した形ではなく、連絡し、対話し、違いを結び直すたびに作られる。文と文のつながりも、人のつながりも、その間の働きによって意味を持つ。

会議のあと、互いに反対だと思っていた二人が、同じ川を守りたいと話していた。立場の隔たりが消えなくても、共同で始められる小さな仕事はある。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「相手と向かい合って言葉を交わすこと」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「レンラク」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「対応」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア すべての関係を断つこと
- イ 相手や状況に合わせてこたえること
- ウ ものを高く積み上げること
- エ 昔の出来事をなつかしむこと

(4) 本文中の「対立」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 同じ場所に集まること
- イ 急に走り出すこと
- ウ 意見や立場が合わず向かい合うこと
- エ 言葉をすべて忘れること

(5) 進行役が反対意見を急いで一つにまとめなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「対話」「関係」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| (1) ア そばについて一緒に進む | (4) ウ 起きたことや相手に合わせてこたえること。 |
| (2) ウ ふれる／つながる | (5) ア 人やものが行き来し、関わり合うこと。 |
| (3) ア 考えを進めたあとにまとまった答え。 | (6) ウ ある集まりや組織に入っていること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 同伴 | (8) 対応 |
| (2) 接近 | (9) 反応 |
| (3) 接続 | (10) 対話 |
| (4) 結論 | (11) 対立 |
| (5) 結果 | (12) 交流 |
| (6) 連絡 | (13) 交差 |
| (7) 脈絡 | (14) 所属 |

使い分けを確かめよう：関係は人や物事のつながりを広く表し、関連はある物事と別の物事とのかかわりを表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

- (1) **イ** 関係は人や物事のつながりを広く表し、関連はある物事と別の物事とのかかわりを表しやすい。
例：人間関係／事件に関連する資料
- (2) **ウ** 対応は状況に合わせてこたえること、反応は刺激や出来事に対して何かが起こることに使いやすい。
例：質問に対応する／音に反応する
- (3) **エ** 対話は向かい合って言葉を交わすこと、対立は意見や立場が合わず向かい合うことに使いやすい。
例：対話を重ねる／意見が対立する
- (4) **ア** 共通は複数のものに同じ点があること、共同は複数の人や団体が一緒に行うことに使いやすい。
- (5) **ウ** A＝対話、B＝対立。(3)の使い分けを参照。
- (6) **エ** A＝対応、B＝反応。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 伴走	(11) 友人
(2) 応答	(12) 仲間
(3) 接触	(13) 共通
(4) 反対	(14) 縁故
(5) 結合	(15) 係員
(6) 交替	(16) かんけい
(7) 属性	(17) くべつ
(8) 関心	(18) どうい
(9) 連続	(19) きょうりょく
(10) 合同	(20) りんせつ

七 文章の中で考えよう

(1) **対話** 本文中では「対話」と表されている。

(2) **連絡**

(3) **イ** 相手や状況に合わせてこたえること

(4) **ウ** 意見や立場が合わず向かい合うこと

(5) **解答例** (45 字)

立場の違いを残したまま共通する関心を探す方が、各案を生かした協力の接点を見つけられるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (70 字)

対話は違いを消して同じ意見にすることではない。相手の言葉に応答し、共通点と接点を探して結び直す過程によって、人や文の関係は新しい意味を持つ。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第七回

強さと弱さ

堅さだけではない強さと、しなやかさの働きを考える。

今日の中心漢字

硬 軟 堅 柔 剛 弱 耐 崩

いっしょに覚える漢字

強	力	勢	激	緩	厳
固	粗	細	厚	薄	傾

硬い・堅い、柔軟・軟弱などの違いを確かめたあと、材料と考え方の両面から強さを考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
硬	コウ・かたい	かたい／変わりにくい 硬化・硬直・硬質・硬い	剛	ゴウ	強くてしっかりしている 剛健・剛直・剛性・剛
軟	ナン・やわらか	やわらかい／きびしくない 軟化・軟弱・柔軟・軟らかい	弱	ジャク・よわい	力が足りない／もろい 弱点・弱気・弱体・弱い
堅	ケン・かたい	しっかりしている／くずれにくい 堅実・堅固・堅持・堅い	耐	タイ・たえる	苦しさや圧力にたえる 忍耐・耐久・耐性・耐える
柔	ジュウ・やわらか	やわらかい／しなやか 柔軟・柔和・柔道・柔らかい	崩	ホウ・くずれる	形や状態がくずれる 崩壊・崩落・雪崩・崩れる

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
強	キョウ・つよい	つよい 強力・強調・強制	固	コ・かためる	かたい／動かない 固定・固有・固体
力	リョク・ちから	ちから 努力・能力・勢力	粗	ソ・あらい	あらい 粗雑・粗大・粗い
勢	セイ・いきおい	いきおい 勢力・勢い・情勢	細	サイ・ほそい	こまかい 細部・細心・詳細
激	ゲキ・はげしい	はげしい 激変・激怒・刺激	厚	コウ・あつい	あつい 厚意・厚紙・重厚
緩	カン・ゆるい	ゆるやか 緩和・緩急・緩む	薄	ハク・うすい	うすい 薄弱・薄情・希薄
厳	ゲン・おごそか	きびしい 厳格・厳重・厳しい	傾	ケイ・かたむく	かたむく 傾向・傾斜・傾く

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「硬」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア すぐに消える
- イ かたい／変わりにくい
- ウ やわらかく広がる
- エ 遠くへ移動する

(2) 「柔軟」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア かたくなで、まったく変わらないこと。
- イ 古いものを残しておくこと。
- ウ ものを高く積み上げること。
- エ 状況に合わせて、しなやかに変われること。

(3) 「堅実」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 感情が激しく乱れること。
- イ 無理をせず、しっかり確かに進めること。
- ウ ものが急にくずれ落ちること。
- エ 相手の話を聞かずに走り出すこと。

(4) 「弱点」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア もっとも強い部分。
- イ とても厚い部分。
- ウ 楽しく心地よい気持ち。
- エ 足りないところや苦手なところ。

(5) 「耐える」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 物事をすぐに忘れる。
- イ 苦しさや圧力をこらえる。
- ウ 高く舞い上がる。
- エ ものを細かく分ける。

(6) 「崩壊」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものごとを丁寧に整えること。
- イ 考えが深くなること。
- ウ 人と人が仲良くなること。
- エ 形や仕組みがくずれてこわれること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 硬化 軟化 堅実 柔軟 剛健 弱点 忍耐 崩壊 強調 勢力 激変 緩和 厳格 細部

(1) 寒さで土が（ ）し、地面がかたくなった。

(8) 大雨で山の斜面がくずれ、古い道が（ ）した。

(2) 時間がたつにつれて、相手の態度が少しずつ（ ）した。

(9) 発表では、特に大事な点を何度も（ ）した。

(3) 無理に大きな成功をねらわず、（ ）な計画を立てる。

(10) 新しい国が力をつけ、周辺地域で大きな（ ）を持つようになった。

(4) 予定どおりにいかないときほど、（ ）に考えることが大切だ。

(11) 技術の進歩によって、生活の形が短期間で（ ）した。

(5) 祖父は年をとっても背筋が伸び、（ ）な印象を受ける。

(12) 話し合いによって、二人の対立は少しずつ（ ）された。

(6) 自分の（ ）を知ることは、成長の第一歩である。

(13) その先生は時間に（ ）で、遅刻には特に厳しかった。

(7) すぐに結果が出なくても、（ ）して続ける力が必要だ。

(14) 文章を読むときは、全体だけでなく（ ）にも注意したい。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「硬い」と「堅い」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 堅いは物の性質としてかたいことに使いやすく、硬いは考えや守りがしっかりしていることにも使いやすい。
イ 硬いは「() 守り」だけに、堅いは「() 金属」だけに使う。
ウ 「() 金属」と「() 守り」では、硬いと堅いを意味の違いなく入れ替えられる。
エ 硬いは物の性質としてかたいことに使いやすく、堅いは考えや守りがしっかりしていることにも使いやすい。

(2) 「柔軟」と「軟弱」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 柔軟はしなやかに対応できる良い意味で使いやすく、軟弱は弱くて頼りない意味で使いやすい。
イ 軟弱はしなやかに対応できる良い意味で使いやすく、柔軟は弱くて頼りない意味で使いやすい。
ウ 柔軟は「() な地盤」だけに、軟弱は「() に対応する」だけに使う。
エ 「() に対応する」と「() な地盤」では、柔軟と軟弱を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「強調」と「強制」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 強制は大事な点を目立たせること、強調は相手に無理にさせることに使いやすい。
イ 強調は大事な点を目立たせること、強制は相手に無理にさせることに使いやすい。
ウ 強調は「参加を() する」だけに、強制は「要点を() する」だけに使う。
エ 「要点を() する」と「参加を() する」では、強調と強制を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「緩和」と「緩慢」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 緩慢はきびしさや痛みなどをやわらげること、緩和は動きがゆっくりでのろいことに使いやすい。
イ 緩和と緩慢は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
ウ 緩和はきびしさや痛みなどをやわらげること、緩慢は動きがゆっくりでのろいことに使いやすい。
エ 緩和は緩慢の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「(A) 金属」 B「(B) 守り」

- ア A=硬い／B=堅い イ A=堅い／B=硬い
ウ A=硬い／B=硬い エ A=堅い／B=堅い

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「要点を(A) する」 B「参加を(B) する」

- ア A=強制／B=強調 イ A=強調／B=強制
ウ A=強調／B=強調 エ A=強制／B=強制

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) 緊張で体がコウチョクし、最初の一步が出なかった。 | (9) 小型でもキョウリョクな磁石を実験に使った。 |
| (2) 彼は曲がったことを嫌うゴウチョクな性格である。 | (10) 結果が出るまで、毎日のドリョクを重ねた。 |
| (3) 根拠のないナンジャクな計画では、困難を越えられない。 | (11) 海外の動きも含め、今後のジョウセイを見極める。 |
| (4) 一度の失敗でヨワキにならず、もう一度挑んだ。 | (12) 壊れやすい器を、サイシンの注意を払って運んだ。 |
| (5) 石造りの門は、長い年月にも耐えるほどケンゴだった。 | (13) 助けてもらった人のコウイを、ありがたく受け取った。 |
| (6) 橋のタイキュウ性を確かめる試験が行われた。 | (14) 坂のカンキュウに合わせて、自転車の速度を変えた。 |
| (7) 祖母は穏やかでニュウワな表情を浮かべていた。 | (15) 薬品はゲンジュウに管理された棚へ保管する。 |
| (8) 大雨で斜面がハウラクし、道路が通れなくなった。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 薄弱 | (17) 固定 | (18) 粗雑 | (19) 傾向 | (20) 刺激 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

折れないための柔らかさ

強さというと、ただ硬く、少しも動かないものを思い浮かべるかもしれない。たしかに、堅固な壁や剛健な体には、簡単には崩れない強さがある。しかし、どんな力にも限界がある。硬いものは衝撃に耐えることができる一方で、あまりに硬直していると、かえって小さな変化に対応できなくなることもある。

広場のベンチを選ぶ実験では、厚い板、薄い板、表面の粗い材、細く加工した材を比べた。硬質な材は傷に強いが、急な衝撃で割れるものもある。柔らかな材は力を受け流す一方、支え方が悪いと傾きやすかった。

【材料試験】耐久性／座ったときの感触／雨のあと乾く速さ／修理のしやすさ、の四点で比較した。

反対に、柔らかいものは弱いだけだろうか。木の枝は風に揺れながらも、すぐには折れない。人の考え方も同じである。自分の考えを強く持つことは大切だが、相手の言葉を受け入れる柔軟さがなければ、話し合いは進まない。弱点を知り、それを補おうとする姿勢にも、別の強さがある。

文章を読むときにも、強く決めつけすぎる読み方は危うい。最初の印象にこだわりすぎると、細部の違いに気づけなくなる。読むとは、考えをしっかりと保ちながらも、必要に応じて見方を少しずつ変えていくことでもある。堅さと柔らかさの両方があってこそ、言葉を深く受け止めることができる。

安全に関わる基準は厳格でなければならない。しかし、使う人の声まで強制的に一つへそろえる必要はない。激しい雨の日と穏やかな日では条件が違いため、設計には緩急が要る。

堅固さと柔軟さは、どちらか一方を選ぶ関係ではなかった。弱点を認め、必要な部分を補強すれば、全体の崩壊を防げる。強さとは、変化を拒むことなく、耐えながら形を変えられる余地を持つことでもある。

最終案では、荷重を支える部分を厚くし、人の肌が触れる縁は丸くした。役割に応じて材の性質を使い分けると、一脚のベンチに異なる強さが共存した。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「簡単にはくずれない、しっかりした」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「ジュウナン」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「硬直」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 柔らかく変わりやすいこと
- イ 何かを大きく喜ぶこと
- ウ 考えや状態がかたくなって動きにくいこと
- エ 相手に深く同情すること

(4) 本文中の「弱点を知り、それを補おうとする姿勢」に近い説明を選びなさい。

- ア 弱さを隠して、何も変えようとしないこと。
- イ 相手の意見をすべて否定すること。
- ウ 最初の考えを必ず押し通すこと。
- エ 自分の足りないところを見つめ、よくしようとすること。

(5) 材料を硬さだけで選ばなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「強さ」「柔軟」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| (1) イ かたい／変わりにくい | (4) エ 足りないところや苦手なところ。 |
| (2) エ 状況に合わせて、しなやかに変われること。 | (5) イ 苦しさや圧力をこらえる。 |
| (3) イ 無理をせず、しっかり確かに進めること。 | (6) エ 形や仕組みがくずれてこわれること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 硬化 | (8) 崩壊 |
| (2) 軟化 | (9) 強調 |
| (3) 堅実 | (10) 勢力 |
| (4) 柔軟 | (11) 激変 |
| (5) 剛健 | (12) 緩和 |
| (6) 弱点 | (13) 厳格 |
| (7) 忍耐 | (14) 細部 |

使い分けを確かめよう：硬いは物の性質としてかたいことに使いやすく、堅いは考えや守りがしっかりしていることにも使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 硬いは物の性質としてかたいことに使いやすく、堅いは考えや守りがしっかりしていることにも使いやすい。

例：硬い金属／堅い守り

(2) **ア** 柔軟はしなやかに対応できる良い意味で使いやすく、軟弱は弱くて頼りない意味で使いやすい。

例：柔軟に対応する／軟弱な地盤

(3) **イ** 強調は大事な点を目立たせること、強制は相手に無理にさせることに使いやすい。

例：要点を強調する／参加を強制する

(4) **ウ** 緩和はきびしさや痛みなどをやわらげること、緩慢は動きがゆっくりでのろいことに使いやすい。

(5) **ア** A＝硬い、B＝堅い。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝強調、B＝強制。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 硬直

(11) 情勢

(2) 剛直

(12) 細心

(3) 軟弱

(13) 厚意

(4) 弱気

(14) 緩急

(5) 堅固

(15) 嚴重

(6) 耐久

(16) はくじゃく

(7) 柔和

(17) こてい

(8) 崩落

(18) そぞつ

(9) 強力

(19) けいこう

(10) 努力

(20) しげき

七 文章の中で考えよう

- (1) **堅固** 本文中では「堅固」と表されている。
- (2) **柔軟**
- (3) **ウ** 考えや状態がかたくなって動きにくいこと
- (4) **エ** 自分の足りないところを見つめ、よくしようとする事。
- (5) **解答例** (50 字)

硬い材にも割れやすさがあり、感触や乾き方、修理のしやすさなど、使う条件を合わせて見る必要があるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (72 字)

強さは硬く変わらないことだけではない。弱点を知って補い、条件に応じて力を受け流す柔軟さを持つことで、材料も人の考え方も全体として崩れにくくなる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第八回

水と流れ

水の経路をたどり、流れが形づくる関係を見る。

今日の中心漢字

流 漂 沸 漏 濁 潤 滴 泌

いっしょに覚える漢字

水	河	海	波	湖	泉
湯	油	液	溶	洗	清

水や流れに関わる言葉を学び、濁る・潤うなどの違いを確かめたあと、広場の水の経路を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
流	リュウ・ながれる	水や物事がながれる 流水・流行・流動・流れる	濁	ダク・にごる	にごる／すっきりしない 濁流・濁音・混濁・濁る
漂	ヒョウ・ただよう	水や空気の中をただよう 漂流・漂着・漂白・漂う	潤	ジュン・うるおう	うるおう／なめらかになる 潤滑・潤色・潤う
沸	フツ・わく	水などがわく 沸騰・沸点・沸く	滴	テキ・しずく	しずく／少しずつ落ちる 水滴・点滴・滴下・滴る
漏	ロウ・もる	外へもれる 漏水・漏電・漏出・漏れる	泌	ヒツ	体内から液などを出す 分泌・泌尿・泌出

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
水	スイ・みず	みず 水面・水分・水流	湯	トウ・ゆ	ゆ 湯気・熱湯・湯船
河	カ・かわ	大きな川 河川・河口・運河	油	ユ・あぶら	あぶら 石油・油断・油絵
海	カイ・うみ	うみ 海辺・海岸・海洋	液	エキ	液状のもの 液体・溶液・血液
波	ハ・なみ	なみ 波音・波長・余波	溶	ヨウ・とける	とける 溶液・溶解・溶ける
湖	コ・みずうみ	みずうみ 湖畔・湖水・湖面	洗	セン・あらう	あらう 洗浄・洗面・洗う
泉	セン・いずみ	わき出る水 温泉・泉水・源泉	清	セイ・きよい	きよい 清流・清潔・清らか

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「流」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア かたく固まる
- イ 強く怒る
- ウ 水や物事がながれる
- エ 上へ高くのぼる

(2) 「漂流」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 水の上などをただよい流されること。
- イ 水を熱してわかすこと。
- ウ 汚れをきれいに洗い落とすこと。
- エ 体の中から液を出すこと。

(3) 「沸騰」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物事が静かに止まること。
- イ 水が少しずつしみこむこと。
- ウ 液体が熱せられてさかんにわくこと。
- エ ものが白く漂うこと。

(4) 「漏れる」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 外へもれ出る。
- イ 中へ深くしみこむ。
- ウ まっすぐ前へ進む。
- エ きれいに整える。

(5) 「濁流」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 静かにすんだ水の流れ。
- イ あたたかい湯のけむり。
- ウ 土や砂を含んでにごった水の流れ。
- エ 少しずつ落ちるしずく。

(6) 「潤滑」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア すべりをよくし、動きをなめらかにすること。
- イ 外へ水がもれること。
- ウ 言葉の意味が分からなくなること。
- エ 水が氷になること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 流水 流行 漂流 漂着 沸騰 沸点 漏水 漏電 濁流 混濁 潤滑 水滴 分泌 清流

(1) 山の中を冷たい（ ）が勢いよく流れていた。

(8) 機械の故障は、雨による（ ）が原因だった。

(2) その言葉は若者の間で急に（ ）した。

(9) 大雨のあと、川は茶色い（ ）となって流れた。

(3) 小さな船が風に流され、海を長く（ ）した。

(10) 薬を入れると、液体が白く（ ）した。

(4) 浜辺には、遠くから流れてきた木片が（ ）していた。

(11) 機械をなめらかに動かすため、部品に油をさして（ ）をよくした。

(5) やかんの水が（ ）し、白い湯気が立ちのぼった。

(12) 窓ガラスに細かな（ ）がついていた。

(6) 水がわき始める温度を（ ）という。

(13) 体は必要に応じて、さまざまな液を（ ）する。

(7) 古い水道管から（ ）して、床がぬれていた。

(14) 山あいには、底まで見えるほど澄んだ（ ）が流れていた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「流行」と「流動」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 流動は広くはやること、流行は一か所に固定されず動くことに使いやすい。
- イ 流行は広くはやること、流動は一か所に固定されず動くことに使いやすい。
- ウ 流行は「資金が（ ）する」だけに、流動は「言葉が（ ）する」だけに使う。
- エ 「言葉が（ ）する」と「資金が（ ）する」では、流行と流動を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「漂流」と「漂着」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 漂着は水上などを流されること、漂流は流されたものが岸などに着くことを表す。
- イ 漂流は「海岸に（ ）する」だけに、漂着は「海上を（ ）する」だけに使う。
- ウ 漂流は水上などを流されること、漂着は流されたものが岸などに着くことを表す。
- エ 「海上を（ ）する」と「海岸に（ ）する」では、漂流と漂着を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「濁る」と「汚れる」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 汚れるは透明さが失われることに使いやすく、濁るはごみやよごれがつくことを広く表す。
- イ 濁るは「服が（ ）」だけに、汚れるは「水が（ ）」だけに使う。
- ウ 「水が（ ）」と「服が（ ）」では、濁ると汚れるを意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 濁るは透明さが失われることに使いやすく、汚れるはごみやよごれがつくことを広く表す。

(4) 「潤う」と「湿る」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 潤うは水分や利益などによって満たされる感じがあり、湿るは水気を帯びることに使いやすい。
- イ 湿るは水分や利益などによって満たされる感じがあり、潤うは水気を帯びることに使いやすい。
- ウ 潤うと湿るは意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 潤うは湿るの改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「海上を（A）する」 B「海岸に（B）する」

- ア A=漂着／B=漂流 イ A=漂流／B=漂流
- ウ A=漂流／B=漂着 エ A=漂着／B=漂着

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「言葉が（A）する」 B「資金が（B）する」

- ア A=流動／B=流行 イ A=流行／B=流行
- ウ A=流動／B=流動 エ A=流行／B=流動

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| (1) 人口のリュウドウが、町の商店街にも影響している。 | (9) 氷は温めると、やがてエキタイの水になる。 |
| (2) 「が」と「か」は、声帯の振動で分かれるダクオンである。 | (10) 砂糖が水にヨウカイする様子を観察した。 |
| (3) 白い布を日光に当て、自然にヒョウハクした。 | (11) 湖のコハンに沿って、細い遊歩道が延びている。 |
| (4) 伝聞をジュンショクして語ると、事実から離れてしまう。 | (12) 旅館では、山あいのオンセンで体を温めた。 |
| (5) 脱水を防ぐため、病院でテンテキを受けた。 | (13) 調理台をいつもセイケツに保つ。 |
| (6) 配管から薬品がロウシュツし、周囲を立入禁止にした。 | (14) やかんのネットウに触れないよう注意した。 |
| (7) 風がやむと、湖のスイメンが鏡のように静まった。 | (15) この地域では、海底からセキユが採れる。 |
| (8) 大雨のあと、県内のカセンの水位が上がった。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 海辺 | (17) 波音 | (18) 湯気 | (19) 油断 | (20) 洗淨 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

広場を通る水の道

水は、形を変えながら動いていく。山の奥で生まれた小さな流れは、やがて川となり、町を通り、海へ向かう。途中で濁流になることもあれば、清流として人々の目を楽しませることもある。同じ水でも、場所や状況によって、まったく違う表情を見せるのである。

広場では、雨水がどこを流れるかを確かめるため、色のついた一滴の水を高い所から落とした。水は舗装の溝を通り、地下の貯留槽へ入る。途中で落ち葉が詰まると、漏水が起き、濁った水が歩道へ漂い出した。

【水の経路】屋根 → 雨どい → 貯留槽 → 花壇。大雨のときだけ、余った水を河川側の排水路へ流す。

言葉も、どこか水に似ている。一つの言葉が人から人へ伝わるうちに、流行となって広がることがある。反対に、意味が濁り、最初の意図が見えにくくなることもある。だから、言葉を受け取るときには、それがどこから流れてきたのか、どのように変わってきたのかを考える必要がある。

文章を読むときも同じである。筆者の考えは、いきなり結論だけとして現れるのではない。小さな一滴のような言葉が重なり、流れを作り、やがて大きな意味へとつながっていく。読むとは、言葉の流れをたどりながら、濁った部分と澄んだ部分を見分けていくことでもある。

集めた水は、花壇を潤し、夏には地面の熱をやわらげる。泉のように湧く設備ではないが、水滴が土へしみこむことで、乾いた場所に小さな循環が生まれる。清流に見えても、油や洗剤が溶けた液体を流してはならない。

水は沸けば湯気となり、冷えれば滴に戻る。湖面の波や海へ漂着する物まで考えると、広場の一滴も遠い場所と無関係ではない。体から分泌される汗と同じく、見えにくい流れにも入口と出口がある。

班は晴れた日にも経路を歩き、乾いた溝に残る泥を調べた。水がないときの跡を読むことで、大雨のときにどこへ力が集まるかを予測できた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「土や砂を含んでにごった水の流れ」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「リュウコウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「一滴」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 水が完全になくなった状態
- イ 水が熱せられてわくこと
- ウ 外へもれ出ること
- エ 一つの小さなしずく

(4) 本文中の「意味が濁り」とは、どのようなことを表しているか。

- ア 意味がはっきりせず、最初の意図が見えにくくなること。
- イ 意味が強くなり、はっきりしすぎること。
- ウ 意味が水に変わること。
- エ 意味がすべて消えてしまうこと。

(5) 広場で雨水の経路を確かめたのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「一滴」「流れ」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| (1) ウ 水や物事がながれる | (4) ア 外へもれ出る。 |
| (2) ア 水の上などをただよい流されること。 | (5) ウ 土や砂を含んでにごった水の流れ。 |
| (3) ウ 液体が熱せられてさかんにわくこと。 | (6) ア すべりをよくし、動きをなめらかにすること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 流水 | (8) 漏電 |
| (2) 流行 | (9) 濁流 |
| (3) 漂流 | (10) 混濁 |
| (4) 漂着 | (11) 潤滑 |
| (5) 沸騰 | (12) 水滴 |
| (6) 沸点 | (13) 分泌 |
| (7) 漏水 | (14) 清流 |

使い分けを確かめよう：流行は広くはやること、流動は一か所に固定されず動くことに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 流行は広くはやること、流動は一か所に固定されず動くことに使いやすい。

例：言葉が流行する／資金が流動する

(2) **ウ** 漂流は水上などを流されること、漂着は流されたものが岸などに着くことを表す。

例：海上を漂流する／海岸に漂着する

(3) **エ** 濁るは透明さが失われることに使いやすく、汚れるはごみやよごれがつくことを広く表す。

例：水が濁る／服が汚れる

(4) **ア** 潤うは水分や利益などによって満たされる感じがあり、湿るは水気を帯びることに使いやすい。

(5) **ウ** A＝漂流、B＝漂着。(2)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝流行、B＝流動。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 流動

(11) 湖畔

(2) 濁音

(12) 温泉

(3) 漂白

(13) 清潔

(4) 潤色

(14) 熱湯

(5) 点滴

(15) 石油

(6) 漏出

(16) うみべ

(7) 水面

(17) なみおと

(8) 河川

(18) ゆげ

(9) 液体

(19) ゆだん

(10) 溶解

(20) せんじょう

七 文章の中で考えよう

- (1) **濁流** 本文中では「濁流」と表されている。
- (2) **流行**
- (3) **エ** 一つの小さなしずく
- (4) **ア** 意味がはっきりせず、最初の意図が見えにくくなること。
- (5) **解答例** (44 字)

落ち葉による詰まりや漏水の場所を見つけ、雨水を安全にためて花壇へ生かす流れを整えるため。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (72 字)

一滴の水も、溝や貯留槽、土、河川を通して遠い場所へつながる。入口と出口を丁寧にたどり、濁りの原因を確かめることで、見えにくい流れと循環が分かる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第九回

残す・失う

限りのある中で、何を残し、何を手放すかを考える。

今日の中心漢字

失 亡 滅 没 忘 保 存 捨

いっしょに覚える漢字

留	消	離	喪	廃	命
死	生	老	久	永	末

失うことと残すことを表す言葉を使い分けたあと、記録を保存するための取捨について考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
失	シツ・うしなう	なくす／うしなう 失敗・失望・喪失・失う	忘	ボウ・わすれる	心にとどめなくなる 忘却・忘年・忘れる
亡	ボウ・ない	なくなる／死ぬ／その場を離れる 死亡・亡失・亡命・滅亡	保	ホ・たもつ	たもつ／守る 保存・保護・保持・保つ
滅	メツ・ほろびる	ほろびる／消えてなくなる 滅亡・消滅・壊滅・滅びる	存	ソン・ながらえる	ある／残っている 存在・存続・保存・依存
没	ボツ・おぼれる	しずむ／姿を消す／深く入りこむ 沈没・没落・没頭・没収	捨	シャ・すてる	すてる／選ばずに外す 捨てる・取捨・捨象・放捨

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
留	リュウ・とめる	とどまる／とどめる 留守・留学・保留	死	シ・しぬ	しぬ 死亡・死角・死活
消	ショウ・きえる	きえる 消失・消滅・消去	生	セイ・いきる	いきる／うまれる 生活・生命・再生
離	リ・はなれる	はなれる 分離・距離・離別	老	ロウ・おいる	年をとる 老人・老化・長老
喪	ソウ・も	うしなう／死をいたむ 喪失・喪中・喪服	久	キュウ・ひさしい	長く続く 持久・久遠・久しぶり
廃	ハイ・すたれる	やめる／すたれる 廃止・廃棄・荒廃	永	エイ・ながい	ながい 永遠・永久・永続
命	メイ・いのち	いのち／いいつけ 生命・寿命・命令	末	マツ・すえ	おわり／はし 末尾・末期・結末

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「失」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 高く上がる
- イ 強く結ぶ
- ウ 水が流れる
- エ なくす／うしなう

(2) 「滅亡」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 同じ場所にとどまること。
- イ ほろびてなくなること。
- ウ 新しく生まれること。
- エ ものを細かく分けること。

(3) 「没頭」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 途中でやめること。
- イ 遠くへ逃げること。
- ウ ものを捨てること。
- エ 何かに深く集中すること。

(4) 「保存」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものを完全に消すこと。
- イ 失われないように保って残すこと。
- ウ 大きな声で知らせること。
- エ 人と人を離すこと。

(5) 「取捨」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 昔のことをなつかしむこと。
- イ 急に怒り出すこと。
- ウ すべてを同じ形にすること。
- エ 必要なものを取り、不要なものを捨てること。

(6) 「存在」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 気持ちが乱れること。
- イ 何かがそこにあること。
- ウ きれいに洗うこと。
- エ 遠くへ歩くこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 失敗 失望 亡命 滅亡 沈没 没頭 忘却 保存 存在 存続 取捨 保留 消失 喪失

(1) 何度も () しながら、少しずつ方法を覚えていった。

(8) 古い手紙を箱に入れて、大切に () した。

(2) 期待していた結果が出ず、彼は深く () した。

(9) 目には見えなくても、そこに人の思いが () していることがある。

(3) 政治的な理由で、国を離れて () した人々がいる。

(10) 小さな店が地域で () するには、人とのつながりも必要だ。

(4) その国は長い戦争の末に () した。

(11) 限られた時間の中で、情報を () する力が求められる。

(5) 嵐の中で船が岩にぶつかり、ついに () した。

(12) 結論を急がず、その問題はいったん () することにした。

(6) 弟は本を読み始めると、時間を忘れるほど () する。

(13) 強い日差しの中で、朝まで残っていた雪はすっかり () した。

(7) 年月がたつにつれて、細かな記憶は少しずつ () されていく。

(14) 大切な人との別れは、深い () の感覚を残した。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「失敗」と「失望」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 失望は物事がうまくいかないこと、失敗は期待が外れてがっかりすることに使いやすい。
- イ 失敗は「結果に（ ）する」だけに、失望は「計画に（ ）する」だけに使う。
- ウ 「計画に（ ）する」と「結果に（ ）する」では、失敗と失望を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 失敗は物事がうまくいかないこと、失望は期待が外れてがっかりすることに使いやすい。

(2) 「消失」と「消滅」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 消失は姿や所在が分からなくなること、消滅は存在そのものがなくなることにより使いやすい。
- イ 消滅は姿や所在が分からなくなること、消失は存在そのものがなくなることにより使いやすい。
- ウ 消失は「生物が（ ）する」だけに、消滅は「記録が（ ）する」だけに使う。
- エ 「記録が（ ）する」と「生物が（ ）する」では、消失と消滅を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「保存」と「保留」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 保留は失われないように保つこと、保存はいったん決めずにそのままにしておくことに使いやすい。
- イ 保存は失われないように保つこと、保留はいったん決めずにそのままにしておくことに使いやすい。
- ウ 保存は「判断を（ ）する」だけに、保留は「資料を（ ）する」だけに使う。
- エ 「資料を（ ）する」と「判断を（ ）する」では、保存と保留を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「喪失」と「忘却」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 忘却は何かを失うこと、喪失は記憶から失われることに使いやすい。
- イ 喪失と忘却は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 喪失は何かを失うこと、忘却は記憶から失われることに使いやすい。
- エ 喪失は忘却の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「資料を（A）する」 B「判断を（B）する」

- ア A＝保存／B＝保留 イ A＝保留／B＝保存
- ウ A＝保存／B＝保存 エ A＝保留／B＝保留

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「記録が（A）する」 B「生物が（B）する」

- ア A＝消滅／B＝消失 イ A＝消失／B＝消滅
- ウ A＝消失／B＝消失 エ A＝消滅／B＝消滅

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| (1) 一年の苦勞をねぎらうボウネン会が開かれた。 | (9) 柱の陰がシカクとなり、相手の姿が見えなかった。 |
| (2) 事故によるシボウ者を出さないよう、安全策を改めた。 | (10) 不要なデータを選び、端末からショウキョした。 |
| (3) 希少な植物をホゴするため、立入りを制限した。 | (11) 祖父を亡くしたため、今年はモチュウである。 |
| (4) 灯りが完全にショウメツし、部屋が暗くなった。 | (12) 長距離を走るには、一定のジキュウ力が必要だ。 |
| (5) 一つの情報だけにイゾンせず、複数の資料を確かめた。 | (13) 利用者が減った路線は、来春ハイシされる。 |
| (6) 名門だった家も、争いを機にボツラクした。 | (14) 電池にも使える期間があり、やがてジュミョウを迎える。 |
| (7) 細部をいったんシャショウし、全体の形を考えた。 | (15) 土地の気候に合わせたセイカツの知恵が受け継がれた。 |
| (8) 配達に備え、午後は家をルスにしない。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 生命 | (17) 老化 | (18) 永遠 | (19) 末尾 | (20) 離別 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

残すために選ぶ

何かを失うことは、ただ物がなくなることだけを意味しない。大切にしていた本をなくせば、その本を読んだ時間や、そのときの気持ちまで遠くなるように感じることもある。反対に、古い写真や手紙を保存しておくことで、過去の出来事が今もそこに存在しているように感じられることもある。

広場の倉庫には、計画途中の図面や写真が増えていた。すべてを永久に保つのは難しい。担当者が亡くなったあとも必要な記録、工事が終われば廃棄できる控え、判断を保留すべき資料を分けることになった。

【保存の基準】 命や安全に関わる記録は残す／同じ内容の写しは整理する／個人情報を含む資料は扱いを再検討する

しかし、すべてを残しておくことはできない。ものにも場所にも時間にも限りがある。だから私たちは、何を保ち、何を捨てるのかを考えなければならない。大切なのは、古いものを何でも保存することではなく、そこに残す意味があるかどうかを見つめることだ。

文章を読むときも同じである。すべての言葉を同じ重さで覚えようとする、かえって大事なことが見えにくくなる。読むとは、細かな言葉に注意しながらも、何を残し、何をいったん脇に置くかを選ぶ作業でもある。忘れてよいものと、忘れてはいけないものを見分けることで、文章の中心が少しずつ残っていく。

なくすことにも違いがある。物が見つからない紛失、火災で消滅すること、沈没して回収できないこと、関係が離れて記憶が薄れること。生命の終わりや人の死、離別には、単なる消失とは異なる喪失がある。

一方、忘却は必ず失敗ではない。細部をいったん捨てるから、要点が残る場合もある。老化した紙を守り、長く存続させたい記録を選ぶことは、末まで全部を抱えることなく、何を未来へ生かすかを決める作業である。

班は捨てた資料の題名だけを一覧に残した。現物を保管しなくても、かつて存在したことを示す記録は残せる。保存には、段階と方法の違いがある。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「失われないように保って残すこと」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「ソンザイ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「捨てる」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 必要でないものとして手放すこと

イ 何かを高く積み上げること

ウ ものを細かく観察すること

エ 相手に言葉を返すこと

(4) 本文中の「すべてを残しておくことはできない」とある理由として最も適切なものを選びなさい。

ア 古いものには意味がまったくないから。

イ ものにも場所にも時間にも限りがあるから。

ウ 人は必ずすべてを覚えられるから。

エ 文章には中心が存在しないから。

(5) 担当者が資料を三つの扱いに分けたのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「保存」「捨てる」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| (1) エ なくす／うしなう | (4) イ 失われないように保って残すこと。 |
| (2) イ ほろびてなくなること。 | (5) エ 必要なものを取り、不要なものを捨てること。 |
| (3) エ 何かに深く集中すること。 | (6) イ 何かがそこにあること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 失敗 | (8) 保存 |
| (2) 失望 | (9) 存在 |
| (3) 亡命 | (10) 存続 |
| (4) 滅亡 | (11) 取捨 |
| (5) 沈没 | (12) 保留 |
| (6) 没頭 | (13) 消失 |
| (7) 忘却 | (14) 喪失 |

使い分けを確かめよう：失敗は物事がうまくいかないこと、失望は期待が外れてがっかりすることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

- (1) **エ** 失敗は物事がうまくいかないこと、失望は期待が外れてがっかりすることに使いやすい。
例：計画に失敗する／結果に失望する
- (2) **ア** 消失は姿や所在が分からなくなること、消滅は存在そのものがなくなること使いやすい。
例：記録が消失する／生物が消滅する
- (3) **イ** 保存は失われないように保つこと、保留はいったん決めずにそのままにしておくことに使いやすい。
例：資料を保存する／判断を保留する
- (4) **ウ** 喪失は何かを失うこと、忘却は記憶から失われることに使いやすい。
- (5) **ア** A＝保存、B＝保留。(3)の使い分けを参照。
- (6) **イ** A＝消失、B＝消滅。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 忘年	(11) 喪中
(2) 死亡	(12) 持久
(3) 保護	(13) 廃止
(4) 消滅	(14) 寿命
(5) 依存	(15) 生活
(6) 没落	(16) せいめい
(7) 捨象	(17) ろうか
(8) 留守	(18) えいえん
(9) 死角	(19) まっぴ
(10) 消去	(20) リベツ

七 文章の中で考えよう

- (1) **保存** 本文中では「保存」と表されている。
- (2) **存在**
- (3) **ア** 必要でないものとして手放すこと
- (4) **イ** ものにも場所にも時間にも限りがあるから。
- (5) **解答例** (47 字)

限りある場所で重要な記録を守りつつ、重複する控えを整理し、判断の難しい資料は検討を続けるため。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (73 字)

すべてを保存することはできないため、未来へ生かす意味を考えて資料を選ぶ必要がある。細部を捨てることも、重要な記録や文章の要点を残す働きになり得る。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十回

言葉を整える

短くすることと、伝わるように整えることの違いを考える。

今日の中心漢字

述 訳 訂 削 詞 句 諭 謄

いっしょに覚える漢字

文	字	名	題	書	話
声	音	答	問	説	表

この回では、漢字の意味を確かめたあと、似た語を使い分け、短文で書き、最後に案内文の推敲を題材とした文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
述	ジュツ・のべる	考えや内容を言葉で表す 述べる・記述・前述	詞	シ	言葉／言葉の種類 名詞・動詞・品詞・歌詞
訳	ヤク・わけ	別の言葉へ移す／事情・意味 翻訳・通訳・訳語	句	ク	ひとまとまりの言葉 語句・句点・俳句
訂	テイ	誤りを正しく直す 訂正・改訂	諭	ユ・さとす	分かるように言い聞かせる 説諭・諭す
削	サク・けずる	けずる／不要な部分を除く 削除・削減・添削	謄	トウ	原本どおりに書き写す 謄写・謄本

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
文	ブン・ふみ	言葉で書いたもの 文章・本文・作文	声	セイ・こえ	人や動物が出す音 音声・声量・発声
字	ジ・あざ	文字／表記の単位 文字・漢字・字形	音	オン・おと	耳に聞こえるもの 音読・発音・音声
名	メイ・な	名前を表す 名称・名作・名詞	答	トウ・こたえる	問いに応じる 答案・解答・応答
題	ダイ	表題／取り組む問い 題名・問題・課題	問	モン・とう	たずねる／確かめる 問題・質問・疑問
書	ショ・かく	書く／書かれたもの 書写・読書・文書	説	セツ・とく	意味や考えを明らかにする 説明・説得・小説
話	ワ・はなす	言葉で伝え合う 会話・話題・対話	表	ヒョウ・あらわす	外に示す／おもて 表現・発表・表面

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「記述・陳述・前述」の「述」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 原本どおりに写す
- イ 不要な部分を取り除く
- ウ 考えや内容を言葉で表す
- エ 別の言語へ意味を移す

(2) 「翻訳・通訳・訳語」に共通する働きとして最も近いものを選びなさい。

- ア ある言語の意味を、別の言語で伝える
- イ 言葉の誤りを必ず残す
- ウ 文章の題名を決める
- エ 声の大きさを整える

(3) 「訂正」と「改訂」の関係として最も適切なものを選びなさい。

- ア 訂正は音だけ、改訂は文字だけを直す
- イ 二語は反対の意味である
- ウ 訂正は書き写すこと、改訂は読み上げること
- エ どちらも直す働きを持つが、改訂は文書や規則を改める場合に使いやすい

(4) 「削除」と「削減」の違いとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 削除は付け加えること、削減は写すこと
- イ 削除は対象を取り除き、削減は量や数を減らす
- ウ 削除は人だけ、削減は場所だけに使う
- エ 二語は「訂正」と同じ意味である

(5) 「品詞・歌詞・名詞」の「詞」が表すものとして最も近いものを選びなさい。

- ア 言葉
- イ 建物
- ウ 道具
- エ 時間

(6) 「謄本」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 話した内容を短く省いたもの
- イ 誤字を直すための記号
- ウ 原本の内容を写して作った文書
- エ 外国語を聞き取るための音声

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 記述 訳語 訂正 削除 名詞 語句 説諭 謄写 題名 書写 話題 音声 答案 表現

(1) 調査で分かったことを、根拠とともに
() する。

(8) 保存用に、古い名簿を丁寧に () する。

(2) 英語の waterfront に合う日本語の
() を検討した。

(9) 文章全体の内容をよく表す () を付ける。

(3) 日時の誤りを見つけ、案内文を () した。

(10) 手本を見ながら、短い詩を () する。

(4) 内容の重なる一文を () した。

(11) 会議では、案内板の言い回しが () になった。

(5) 「広場」「記憶」は、ものや事柄を表す
() である。

(12) 文字を読みにくい人のため、 () 案内を付ける。

(6) 意味の取りにくい () を、分かりやすく言い換える。

(13) 提出前に、自分の () を読み返す。

(7) 先生は危険な使い方をした生徒を、落ち着いて
() した。

(14) 同じ内容でも、 () が変われば印象も変わる。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「記述」と「説明」の違いとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 「記述」は事実・考えなどを書き表すこと。「説明」は、意味や理由を相手に分かるように述べること。
- イ 「説明」は事実・考えなどを書き表すこと。「記述」は、意味や理由を相手に分かるように述べること。
- ウ 記述は「道具の仕組みを（ ）する」だけに、説明は「観察結果を（ ）する」だけに使う。
- エ 「観察結果を（ ）する」と「道具の仕組みを（ ）する」では、記述と説明を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「訂正」と「添削」の違いとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 「添削」は誤りを正すこと。「訂正」は文章を直し、よりよい表現にするための助言も加えること。
- イ 訂正は「作文を（ ）する」だけに、添削は「日付を（ ）する」だけに使う。
- ウ 「日付を（ ）する」と「作文を（ ）する」では、訂正と添削を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 「訂正」は誤りを正すこと。「添削」は文章を直し、よりよい表現にするための助言も加えること。

(3) 「削除」と「省略」の違いとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 「省略」は対象を取り除くこと。「削除」は、文脈上なくてもよい部分をはぶいて示さないこと。
- イ 「削除」は対象を取り除くこと。「省略」は、文脈上なくてもよい部分をはぶいて示さないこと。
- ウ 削除は「途中の説明を（ ）する」だけに、省略は「登録情報を（ ）する」だけに使う。
- エ 「登録情報を（ ）する」と「途中の説明を（ ）する」では、削除と省略を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「題名」と「課題」の違いとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 「課題」は文章・作品に付ける名。「題名」は、解決すべき問題や取り組むべき事柄を表す。
- イ 題名と課題は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 「題名」は文章・作品に付ける名。「課題」は、解決すべき問題や取り組むべき事柄を表す。
- エ 題名は課題の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「観察結果を（A）する」 B「道具の仕組みを（B）する」

- ア A＝説明／B＝記述 イ A＝記述／B＝記述
- ウ A＝記述／B＝説明 エ A＝説明／B＝説明

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「登録情報を（A）する」 B「途中の説明を（B）する」

- ア A＝省略／B＝削除 イ A＝削除／B＝削除
- ウ A＝省略／B＝省略 エ A＝削除／B＝省略

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| (1) 「走る」は、動作を表すドウシである。 | (9) 式だけでなく、途中の考え方もカイトウに書いた。 |
| (2) 講演では、海外の研究者の発言をツウヤクした。 | (10) 一つのモンダイを、複数の方法で解いてみた。 |
| (3) 古くなった案内書を、最新情報に合わせてカイテイした。 | (11) 眠る前に少しドクショする習慣がある。 |
| (4) 無駄な工程を見直し、費用をサクゲンした。 | (12) 数字を示して説明すると、相手をセツクしやすい。 |
| (5) 戸籍のトウホンを役所の窓口で受け取った。 | (13) 互いの表情を見ながらカイワを続けた。 |
| (6) 短いブンショウでも、主語と述語の関係を確かめる。 | (14) 調査の結果を、図表を使ってハッピーウした。 |
| (7) 古文を声に出してオンドクし、調子を味わった。 | (15) 季節の移ろいを詠んだハイクを味わった。 |
| (8) 新しい施設のメイショウを公募で決めた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 文字 | (17) 質問 | (18) 声量 | (19) 句点 | (20) 前述 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

残す一文、削る一文

広場の開設を一週間後に控え、真琴たちは入口に置く案内板の文章を任された。題名は「川辺の小さな広場」。名称の由来、利用時間、災害時の役割まで記述した初稿は、事実の誤りこそ少なかったが、文字がびっしり並び、声に出して読むと息が続かない。話し合いで翔が「説明は多いのに、何を一番伝えたいのか答えにくい」と述べると、真琴も同じ問題を感じた。

まず、同じ内容を繰り返す語句を削除し、長い一文を二つに分けた。開設年の誤りは訂正した。ただし、短くするほどよいわけではない。「昔、この場所には『水音の庭』と呼ばれた休憩所があった」という一文まで削ろうとしたとき、町会の佐伯さんが、古い文書の謄写本を机に置いた。そこには、その名を新しい広場にも残してほしいという住民の願いが書かれていた。

「今すぐ役立つ情報だけが、大切な情報とは限らないよ」

佐伯さんは穏やかに諭した。案内板は規則を表すだけでなく、この場所がどんな時間を受け継いだかを伝えるものでもある。真琴たちは、その一文を残し、代わりに意味の重なる修飾語を減らした。

一方、外国語版を担当したリナは、英語に翻訳しにくい表現を二つ挙げた。「憩い」と「寄り合い」である。辞書の訳語をそのまま当てても、町の人を感じる温かさまでは届かない。名詞を置き換えるだけでなく、どんな場面を指すのかを短く説明する必要がある。そこで案内板の下に音声案内への二次元コードを添え、話し言葉でも補えるようにした。

【初稿の一部】 この広場は、住民相互の交流促進及び緊急時の一時避難のために設置された施設であり、利用者は別記の注意事項を遵守して利用してください。

【改稿の一部】 ふだんは、人が集い、休むための広場です。災害時には、一時避難場所になります。安全のため、次の約束を守ってください。

改稿を読み比べると、情報は減っていても、役割はかえって見えやすい。掲示の前日、真琴たちは小学生と高齢者に試し読みを頼んだ。小学生は「水音の庭って何」と質問し、高齢者は文字の大きさについて意見を述べた。二つの声を受けて、由来の一文には短い補足を加え、注意事項は箇条書きに改めた。

真琴は、削った字数の多さが推敲の成果なのではないと気づいた。訂正や削除は、文章を細くするためだけの作業ではない。読み手が何を知り、どこで立ち止まり、どんな問いを持つかを想像しながら、残す言葉を選び直すこと。その過程で、書き手自身も伝えたかったことを確かめ直すのである。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文と二つの案内文を根拠にして答えなさい。

(1) 佐伯さんが机に置いた、原本を書き写したものを表す三字の語句を、本文中から抜き出しなさい。

(2) 「ホンヤク」を漢字二字で書きなさい。

(3) 初稿の問題として、本文に最もよく合うものを選びなさい。

- ア 事実の誤りが多く、名称も書かれていなかった。
- イ 情報は多いが中心がつかみにくく、声に出しても読みづらかった。
- ウ 説明が短すぎて、利用時間しか分からなかった。
- エ 外国語版だけが先に完成し、日本語版がなかった。

(4) 真琴たちが「水音の庭」の一文を残した理由として、最も適切なものを選びなさい。

- ア 古い文書にある文章は、一字も変えてはいけないから。
- イ 案内板をできるだけ長くし、読む時間を増やしたかったから。
- ウ その名称に場所の記憶と住民の願いがあり、読み手の問いにもつながるから。
- エ その一文だけが外国語へ簡単に翻訳できたから。

(5) 初稿から改稿へ、案内文はどのように整えられましたか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「削る」「読み手」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **ウ** 「述」は、考えや内容を言葉として外に表す働きを持つ。

(4) **イ** 削除は対象を取り除くこと、削減は量や数を減らすこと。

(2) **ア** 「訳」は、意味を別の言語へ移して伝える働きを持つ。

(5) **ア** 「詞」は言葉を表し、品詞や名詞のような語を作る。

(3) **エ** 「訂」は直すこと。改訂は書物・規則・文章などを改める場合に使いやすい。

(6) **ウ** 謄本は、原本の内容を写して作られた文書をいう。

四 熟語を広げよう

(1) 記述

(8) 謄写

(2) 訳語

(9) 題名

(3) 訂正

(10) 書写

(4) 削除

(11) 話題

(5) 名詞

(12) 音声

(6) 語句

(13) 答案

(7) 説諭

(14) 表現

確かめよう：誤りを直すのは「訂正」、文章をよくするために直し助言するのは「添削」。対象を取り除くのは「削除」、一部をはぶくのは「省略」。

五 似た語を使い分けよう

(1) **ア** 「記述」は事実・考えなどを書き表すこと。「説明」は、意味や理由を相手に分かるように述べること。

例：観察結果を記述する／道具の仕組みを説明する

(2) **エ** 「訂正」は誤りを正すこと。「添削」は文章を直し、よりよい表現にするための助言も加えること。

例：日付を訂正する／作文を添削する

(3) **イ** 「削除」は対象を取り除くこと。「省略」は、文脈上なくてもよい部分をはぶいて示さないこと。

例：登録情報を削除する／途中の説明を省略する

(4) **ウ** 「題名」は文章・作品に付ける名。「課題」は、解決すべき問題や取り組むべき事柄を表す。

(5) **ウ** A＝記述、B＝説明。(1)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝削除、B＝省略。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 動詞	(11) 読書
(2) 通訳	(12) 説得
(3) 改訂	(13) 会話
(4) 削減	(14) 発表
(5) 謄本	(15) 俳句
(6) 文章	(16) もじ
(7) 音読	(17) しつもん
(8) 名称	(18) せいりょう
(9) 解答	(19) くてん
(10) 問題	(20) ぜんじゅつ

七 文章の中で考えよう

- (1) **謄写本** 「謄」は、原本どおりに写すという意味を持つ。
- (2) **翻訳** 「訳」は、別の言語へ意味を移して伝える働きを持つ。
- (3) **イ** 初稿は情報が多く、中心がつかみにくいうえ、音読もしづらかった。
- (4) **ウ** 古い名称には場所の記憶と住民の願いがあり、読み手の質問を生む働きもあった。
- (5) **解答例** (45 字)

重なる説明を削り、長い一文を分けながら、広場の役割と名称の由来が読み手に伝わる形へ改めた。

見る点：重なりを削ったこと／長い文を分けたこと／役割と由来を残したこと

- (6) **解答例** (73 字)

文章を整えるとは、単に言葉を削ることではなく、何を残せば読み手に必要な情報や場所の記憶が届くかを考え、反応を確かめながら表現を選び直すことである。

見る点：「削る」「読み手」を用いたこと／単なる短縮ではないと捉えたこと／反応を確かめて表現を選び直す過程を含めたこと

第十一回

学ぶ・試す・伸ばす

試した結果を次の工夫へつなぎ、力を育てる。

今日の中心漢字

習 練 試 験 励 努 成 達

いっしょに覚える漢字

学	教	育	校	師	課
業	策	案	功	研	究

学習・練習・試行などの違いを確かめたあと、試し読みの結果を改善へつなぐ過程を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
習	シュウ・ならう	くり返して身につける 学習・習慣・復習・習う	励	レイ・はげむ	力づける／力を尽くす 激励・奨励・励行・励む
練	レン・ねる	くり返して力を高める 練習・訓練・熟練・練る	努	ド・つとめる	力を尽くす 努力・努める
試	シ・ころみる	ためす 試験・試行・試作・試す	成	セイ・なる	できあがる／育つ 成功・成長・完成・達成
験	ケン・あかし	ためして確かめる／しるし 試験・実験・経験・受験	達	タツ・-たち	あるところまで届く 達成・到達・上達・伝達

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
学	ガク・まなぶ	まなぶ 学校・学問・学力	業	ギョウ・わざ	仕事・学び 授業・作業・職業
教	キョウ・おしえる	おしえる 教育・教室・指導	策	サク	方法・はかりごと 対策・政策・方策
育	イク・そだつ	そだてる 教育・育成・体育	案	アン・つくえ	考えた内容 案内・提案・答案
校	コウ	学びの場 学校・校舎・校正	功	コウ・いさお	なしとげたよい結果 成功・功績・功劳
師	シ・いくさ	教える人 教師・師弟・師匠	研	ケン・とぐ	深く調べる 研究・研修・研ぐ
課	カ	取り組むべきこと 課題・課程・日課	究	キュウ・きわめる	深くきわめる 研究・究明・探究

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「習」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 急に忘れる
- イ くり返して身につける
- ウ 遠くへ逃げる
- エ ものを水に沈める

(2) 「練習」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 何もせずに結果を待つこと。
- イ 古いものをそのまま保存すること。
- ウ 相手を強く怒らせること。
- エ くり返して、力や技術を高めること。

(3) 「試行」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア すべてを完全に終えること。
- イ ためしにやってみること。
- ウ 人の意見を必ず否定すること。
- エ 言葉を声に出して読むこと。

(4) 「経験」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア まだ一度もしたことがないこと。
- イ 文章の表面だけを見ること。
- ウ 水が外にもれ出ること。
- エ 実際に見たり行ったりして得たこと。

(5) 「激励」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を見捨てて離れること。
- イ 人を力づけ、はげますこと。
- ウ ものを細かく削ること。
- エ 古い制度をやめること。

(6) 「達成」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 問題を途中で投げ出すこと。
- イ 考えがまとまらず迷うこと。
- ウ 水をきれいにすること。
- エ 目標などをなしとげること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 学習 復習 練習 訓練 試行 試験 経験 激励 努力 成功 成長 達成 課題 研究

(1) 新しい漢字を覚えるには、毎日の（ ）が大切である。

(8) 大会前、先生は緊張している生徒たちを（ ）した。

(2) 授業で習った内容を、その日のうちに（ ）する。

(9) 結果が出るまで、地道な（ ）を続ける。

(3) 発表の前に、声の大きさや話す速さを何度も（ ）した。

(10) 何度も直した作文が完成し、小さな（ ）を感じた。

(4) 災害に備えて、学校で避難の（ ）を行った。

(11) 以前より落ち着いて読めるようになり、自分の（ ）を実感した。

(5) すぐに決めず、いくつかの方法を（ ）してみる。

(12) 三か月かけて立てた目標を、ようやく（ ）した。

(6) 明日は英語の（ ）があるので、早めに準備をした。

(13) 今の自分に足りないところを、次の（ ）として考える。

(7) 失敗も含めて、自分の（ ）から学ぶことは多い。

(14) 身近な水の使われ方について、班で（ ）を進めた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「学習」と「練習」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 練習は知識や考え方を身につけること、学習は技能や動作をくり返して高めることに使いやすい。
- イ 学習は「発音を（ ）する」だけに、練習は「歴史を（ ）する」だけに使う。
- ウ 「歴史を（ ）する」と「発音を（ ）する」では、学習と練習を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 学習は知識や考え方を身につけること、練習は技能や動作をくり返して高めることに使いやすい。

(2) 「試行」と「試験」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 試行はためしにやってみること、試験は力や理解をためして確かめることに使いやすい。
- イ 試験はためしにやってみること、試行は力や理解をためして確かめることに使いやすい。
- ウ 試行は「理解を（ ）する」だけに、試験は「方法を（ ）する」だけに使う。
- エ 「方法を（ ）する」と「理解を（ ）する」では、試行と試験を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「努力」と「根性」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 根性は目的に向けて力を尽くすこと、努力は困難に負けずにやり通す気持ちに使いやすい。
- イ 努力は目的に向けて力を尽くすこと、根性は困難に負けずにやり通す気持ちに使いやすい。
- ウ 努力は「（ ）で耐える」だけに、根性は「（ ）を重ねる」だけに使う。
- エ 「（ ）を重ねる」と「（ ）で耐える」では、努力と根性を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「成功」と「達成」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 達成は物事がうまくいくこと、成功は目標に届き、なしとげること、に使いやすい。
- イ 成功と達成は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 成功は物事がうまくいくこと、達成は目標に届き、なしとげること、に使いやすい。
- エ 成功は達成の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「方法を（A）する」 B「理解を（B）する」

- ア A＝試行／B＝試験 イ A＝試験／B＝試行
- ウ A＝試行／B＝試行 エ A＝試験／B＝試験

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「歴史を（A）する」 B「発音を（B）する」

- ア A＝練習／B＝学習 イ A＝学習／B＝練習
- ウ A＝学習／B＝学習 エ A＝練習／B＝練習

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| (1) 朝の散歩を毎日のシュウカンにしている。 | (9) 若い技術者をイクセイする研修が始まった。 |
| (2) 市は公共交通の利用をショウレイしている。 | (10) 受付の人が、展示室までアンナイしてくれた。 |
| (3) 長年のジユクレンによって、細かな作業も正確になった。 | (11) 古いコウシャを改修し、地域の施設として残した。 |
| (4) 本番の前に模型をシサクし、使いやすさを確かめた。 | (12) 新人は三日間のケンシュウで、基本操作を学んだ。 |
| (5) 半年かけた作品が、ようやくカンセイした。 | (13) 高校の教育カテイには、複数の選択科目がある。 |
| (6) 液体の色が変わるか、理科室でジッケンした。 | (14) 事故の原因をキュウメイするため、記録を調べた。 |
| (7) 夕方、登山隊は無事に山頂ヘトウタツした。 | (15) 今日のジュギョウでは、文章の要点をまとめた。 |
| (8) ガッコウの図書室で、郷土史を調べた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 教育 | (17) 教師 | (18) 作業 | (19) 対策 | (20) 功績 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

試して分かったこと

学ぶことは、ただ知識を増やすことだけではない。新しいことを知ると、自分がまだ分かっていない部分も見えてくる。分からないことに気づくからこそ、次の課題が生まれるのである。

完成した案内文を校内で試すと、教師と生徒で読み方が違った。先生には通じた表現が、低学年には難しい。教育の場では、正解を教えるだけでなく、どこで理解が止まったかを調べる必要がある。班は読み上げの速さも変えて実験した。

【試し読みの結果】 題名は伝わった／利用時間を見落とす人が多い／音声案内の場所が分かりにくい

練習や試行も同じである。一度やってみて失敗すると、どこを直せばよいのかが少し見えてくる。失敗は、すぐに成功へつながるとは限らない。しかし、経験をもとに考え直し、もう一度試すことで、力は少しずつ成長していく。努力とは、同じことをただくり返すことではなく、経験から学びながら続けることでもある。

文章を読むときにも、この姿勢は大切である。一度読んで分からなかったからといって、読む力がないと決めつける必要はない。どこで分からなくなったのかを見つけ、言葉のつながりを確認し、もう一度読んでみる。読む力は、問いと試みを重ねる中で少しずつ達成されていくのである。

係の人は、失敗を責める代わりに「次の方策が見えた」と班を励ました。文章の校正、表示位置の研究、音声案内の試作。それぞれを日課のように練習すると、作業は少しずつ熟練していった。

努力は、同じ案を守り続けることではない。結果を検討し、別の案を練り、もう一度試行する。学習も授業も、問いを究める途中にある。小さな改善を積み重ねたこと自体が、班にとって一つの達成になった。

完成後も、案内文は終わりではない。新しい利用者の反応を記録し、必要なら改訂する。学んだ力とは、正しい形を保管する力より、問い直せる力なのかもしれない。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「取り組むべきこと」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「ケイケン」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「試行」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものを遠くへ運ぶこと
- イ すべてを忘れること
- ウ ためしにやってみること
- エ 水をきれいにすること

(4) 本文中の「努力とは、同じことをただくり返すことではなく」とあるが、本文ではどのようなことが努力だと考えられているか。

- ア 何も考えず、失敗を見ないこと。
- イ 一度失敗したらすぐにやめること。
- ウ 分からないところをすべて無視すること。
- エ 経験から学びながら続けること。

(5) 試し読みの結果が「失敗」ではなく次の方策になったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「試行」「成長」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) イ くり返して身につける | (4) エ 実際に見たり行ったりして得たこと。 |
| (2) エ くり返して、力や技術を高めること。 | (5) イ 人を力づけ、はげますこと。 |
| (3) イ ためしにやってみること。 | (6) エ 目標などをなしとげること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 学習 | (8) 激励 |
| (2) 復習 | (9) 努力 |
| (3) 練習 | (10) 成功 |
| (4) 訓練 | (11) 成長 |
| (5) 試行 | (12) 達成 |
| (6) 試験 | (13) 課題 |
| (7) 経験 | (14) 研究 |

使い分けを確かめよう：学習は知識や考え方を身につけること、練習は技能や動作をくり返して高めることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 学習は知識や考え方を身につけること、練習は技能や動作をくり返して高めることに使いやすい。

例：歴史を学習する／発音を練習する

(2) **ア** 試行はためしにやってみること、試験は力や理解をためして確かめることに使いやすい。

例：方法を試行する／理解を試験する

(3) **イ** 努力は目的に向けて力を尽くすこと、根性は困難に負けずにやり通す気持ちに使いやすい。

例：努力を重ねる／根性で耐える

(4) **ウ** 成功は物事がうまくいくこと、達成は目標に届き、なしとげることによりやすい。

(5) **ア** A＝試行、B＝試験。(2)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝学習、B＝練習。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 習慣	(11) 校舎
(2) 奨励	(12) 研修
(3) 熟練	(13) 課程
(4) 試作	(14) 究明
(5) 完成	(15) 授業
(6) 実験	(16) きょういく
(7) 到達	(17) きょうし
(8) 学校	(18) さぎょう
(9) 育成	(19) たいさく
(10) 案内	(20) こうせき

七 文章の中で考えよう

(1) **課題** 本文中では「課題」と表されている。

(2) **経験**

(3) **ウ** ためしにやってみること

(4) **エ** 経験から学びながら続けること。

(5) **解答例** (46 字)

読み手が迷った箇所を具体的に知ること、表示位置や言葉をどのように改善すべきか分かったから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (71 字)

学びは正解を一度で出すことなく、試行の結果から課題を見つけ、別の案を練って試し直す過程にある。その積み重ねが技術と考え方の成長につながる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十二回

一日の暮らし

何気ない一日の細部から、暮らしの形を読み取る。

今日の中心漢字

暮 飯 鍋 衣 履 眠 忙 暇

いっしょに覚える漢字

朝	昼	夜	家	室	机
席	床	服	靴	住	食

衣食住や一日の時間に関わる言葉を学んだあと、朝から夜までの広場の使われ方をたどる文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
暮	ボ・くれる	日々を過ごす／日がくれる 暮らし・日暮れ・暮色・暮れる	履	リ・はく	足につける／実行する 履物・履歴・履修・履行
飯	ハン・めし	食べ物／炊いた米 ご飯・炊飯・夕飯・飯店	眠	ミン・ねむる	ねむる／意識を休める 睡眠・安眠・不眠・眠る
鍋	カ・なべ	食べ物を煮る器具 土鍋・鍋料理・鍋物・鍋	忙	ボウ・いそがしい	いそがしい 多忙・繁忙・忙殺・忙しい
衣	イ・ころも	ころも／身にまとうもの 衣服・衣食住・衣類・衣	暇	カ・ひま	ひま／時間のゆとり 余暇・休暇・暇・暇人

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
朝	チョウ・あさ	あさ 朝食・早朝・朝日	席	セキ・むしろ	すわる場所 座席・出席・欠席
昼	チュウ・ひる	ひる 昼食・昼間・昼休み	床	ショウ・とこ	ゆか／寝る場所 床下・床面・病床
夜	ヤ・よ	よる 夜間・深夜・夜空	服	フク	きるもの 衣服・制服・服装
家	カ・いえ	いえ 家族・家庭・家屋	靴	カ・くつ	くつ 靴下・革靴・靴音
室	シツ・むろ	へや 教室・室内・個室	住	ジュウ・すむ	すむ 住所・住居・住民
机	キ・つくえ	つくえ 机上・学習机	食	ショク・くう	たべる 食事・食卓・食欲

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「暮らし」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 水が外へもれること
- イ 物を高く積むこと
- ウ 人が日々を過ごすこと
- エ 遠くへ移動すること

(2) 「炊飯」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 米を炊いて飯にすること。
- イ 靴をきれいに並べること。
- ウ 夜に空を見上げること。
- エ 部屋を広く使うこと。

(3) 「衣食住」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 文章を書くときの三つの方法。
- イ 朝・昼・夜の三つの時間。
- ウ 人が生活するために必要な、着ること・食べること・住むこと。
- エ 机・席・床の三つの場所。

(4) 「履歴」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア これまでに通ってきた経歴や記録。
- イ 鍋で料理を作ること。
- ウ 眠っている時間。
- エ 人が多く集まる場所。

(5) 「不眠」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 食事を作ること。
- イ ゆっくり休むこと。
- ウ 眠れないこと。
- エ 忙しく動き回ること。

(6) 「余暇」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 仕事や勉強以外の、自由に使える時間。
- イ 強く相手を責める言葉。
- ウ ものがこわれて崩れること。
- エ 文章の最後に置く記号。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 暮らし 日暮れ 炊飯 夕飯 土鍋 衣服 衣食住 履物 履歴 睡眠 不眠 多忙 余暇 休暇

(1) 町の小さな店には、そこに住む人々の（ ）が感じられた。

(8) 玄関で（ ）をそろえてから、部屋に上がった。

(2) 冬の（ ）は早く、学校を出るところには空が暗くなっていた。

(9) 申込書には、これまでの学習や活動の（ ）を書く欄があった。

(3) 家庭科の授業で、米の量と水の量を確認しながら（ ）した。

(10) 十分な（ ）をとると、次の日の集中力が変わる。

(4) 家族そろって（ ）を食べる時間を、母は大切にしている。

(11) 心配ごとが続き、数日間（ ）に悩まされた。

(5) 寒い夜、食卓の中央に置かれた（ ）から湯気が上がっていた。

(12) 父は仕事が（ ）で、帰宅が遅くなる日が多い。

(6) 季節に合った（ ）を選ぶことも、体調を整える助けになる。

(13) 休日の（ ）を使って、久しぶりに図書館へ行った。

(7) 人が生きるためには、（ ）の安定が欠かせない。

(14) 夏の（ ）には、祖父母の家でゆっくり過ごす予定だ。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「暮らし」と「生活」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 生活は日々を過ごす実感を含みやすく、暮らしは日常の営み全体を広く表しやすい。
- イ 暮らしは日々を過ごす実感を含みやすく、生活は日常の営み全体を広く表しやすい。
- ウ 暮らしは「健康な（ ）」だけに、生活は「町での（ ）」だけに使う。
- エ 「町での（ ）」と「健康な（ ）」では、暮らしと生活を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「衣服」と「服装」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 服装は着るものそのもの、衣服は身につけたものの様子や組み合わせに使いやすい。
- イ 衣服は「式典の（ ）」だけに、服装は「冬の（ ）」だけに使う。
- ウ 衣服は着るものそのもの、服装は身につけたものの様子や組み合わせに使いやすい。
- エ 「冬の（ ）」と「式典の（ ）」では、衣服と服装を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「履歴」と「経歴」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 経歴はこれまでの記録、履歴は学業・仕事・活動などの歩みを表しやすい。
- イ 履歴は「教師としての（ ）」だけに、経歴は「検索の（ ）」だけに使う。
- ウ 「検索の（ ）」と「教師としての（ ）」では、履歴と経歴を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 履歴はこれまでの記録、経歴は学業・仕事・活動などの歩みを表しやすい。

(4) 「多忙」と「繁忙」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 多忙は個人が忙しいこと、繁忙は仕事や時期などが立てこんでいることに使いやすい。
- イ 繁忙は個人が忙しいこと、多忙は仕事や時期などが立てこんでいることに使いやすい。
- ウ 多忙と繁忙は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 多忙は繁忙の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「検索の(A)」 B「教師としての(B)」

- ア A＝経歴／B＝履歴 イ A＝履歴／B＝履歴
- ウ A＝履歴／B＝経歴 エ A＝経歴／B＝経歴

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「冬の(A)」 B「式典の(B)」

- ア A＝服装／B＝衣服 イ A＝衣服／B＝衣服
- ウ A＝服装／B＝服装 エ A＝衣服／B＝服装

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| (1) 山の端に日が沈み、町は青いボショクに包まれた。 | (9) 忙しい日ほど、簡単でもチョウショクを取る。 |
| (2) 来年度は歴史学の講義をリシュウする予定だ。 | (10) 式典では、全員が同じセイフクを着用した。 |
| (3) 旅先のハンテンで、温かい麺料理を食べた。 | (11) 休日はカゾクで食卓を囲んだ。 |
| (4) 静かな音楽を聴くと、夜もアンミンできる。 | (12) 冷えないよう、厚手のクツシタをはいた。 |
| (5) 寒い夕食には、野菜たっぷりのナベモノがうれしい。 | (13) 放課後のキョウシツに、夕日が差し込んだ。 |
| (6) 年末は店がハンボウ期を迎え、客が増える。 | (14) 計画はまだキジョウの案で、実行には移していない。 |
| (7) 季節の変わり目に、イルイを入れ替えた。 | (15) 一日のショクジを記録し、栄養の偏りを見直した。 |
| (8) 平日の昼間でも公園にはヒマジンが集まっていた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 昼食 | (17) 夜間 | (18) 座席 | (19) 床下 | (20) 住民 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

広場の一日

毎日の暮らしは、特別な出来事だけでできているわけではない。朝起きて、顔を洗い、食卓につき、靴を履いて家を出る。そうした小さな動作のくり返しが、私たちの一日を形づくっている。あまりに身近なことほど、ふだんは意識されにくい。

開場後の広場を一日観察すると、朝は通勤前に飯を食べる人、昼は鍋を囲む催しの相談をする住民、夕方は靴音を響かせて帰る子どもがいた。夜には照明の下で本を読む人もいる。時間によって、同じ場所の表情は変わる。

【ある日の利用記録】 7時：清掃／12時：昼休みの座席が満席／16時：子どもの遊び／19時：小さな読書会

しかし、日常の中には、その人の考え方や大切にしているものが表れる。たとえば、忙しい朝でも家族と朝食をとる人がいる。眠る前に少しだけ本を読む人もいる。余暇を何に使うか、部屋をどのように整えるか、どんな服装を選ぶか。そうした小さな選択が、その人の暮らしの形を作っていく。

文章を読むときも、目立つ出来事だけを追っていると、かえって大事なものを見落とすことがある。人物の何気ない行動や、部屋に置かれた机、食事の場面、眠れない夜の描写には、その人物の心や生活がにじんでいることがある。読むとは、日常の細部から、その奥にある意味を受け取ることでもある。

雨の日には、室内の休憩所へ机と椅子を移す。床がぬれていれば拭き、衣服が冷えた人には温かい飲み物を渡す。忙しい時間と暇な時間の差を知ること、必要な準備も見えてきた。

暮らしは、特別な行事だけで成り立たない。服を選び、席に座り、食事をし、家へ帰って眠る。その繰り返しを支える場所だからこそ、広場は住民の日常に少しずつなじんでいった。

記録係は、人数だけでなく、滞在の仕方も書き留めた。一人で静かに過ごす時間も、家族で話す時間も、同じ広場に必要暮らしの一部だった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「日々を過ごすこと」という意味で使われている語を抜き出さない。

(2) 「スイミン」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「余暇」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 食事を作るための道具
- イ 眠れない夜のこと
- ウ 人の過去の記録
- エ 仕事や勉強以外の、自由に使える時間

(4) 本文中の「服装」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 身につけた衣服の様子や組み合わせ。
- イ 食べ物を煮る道具。
- ウ 机の上に置かれた本。
- エ 忙しくて休めない状態。

(5) 広場の使われ方を時間ごとに記録したのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「日常」「細部」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--|---------------------------------|
| (1) ウ 人が日々を過ごすこと | (4) ア これまでに通ってきた経歴や記録。 |
| (2) ア 米を炊いて飯にすること。 | (5) ウ 眠れないこと。 |
| (3) ウ 人が生活するために必要な、着ること・食
べること・住むこと。 | (6) ア 仕事や勉強以外の、自由に使える時間。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|---------|---------|
| (1) 暮らし | (8) 履物 |
| (2) 日暮れ | (9) 履歴 |
| (3) 炊飯 | (10) 睡眠 |
| (4) 夕飯 | (11) 不眠 |
| (5) 土鍋 | (12) 多忙 |
| (6) 衣服 | (13) 余暇 |
| (7) 衣食住 | (14) 休暇 |

使い分けを確かめよう：暮らしは日々を過ごす実感を含みやすく、生活は日常の営み全体を広く表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 暮らしは日々を過ごす実感を含みやすく、生活は日常の営み全体を広く表しやすい。

例：町での暮らし／健康な生活

(2) **ウ** 衣服は着るものそのもの、服装は身につけたものの様子や組み合わせに使いやすい。

例：冬の上服／式典の服装

(3) **エ** 履歴はこれまでの記録、経歴は学業・仕事・活動などの歩みを表しやすい。

例：検索の履歴／教師としての経歴

(4) **ア** 多忙は個人が忙しいこと、繁忙は仕事や時期などが立てこんでいることに使いやすい。

(5) **ウ** A＝履歴、B＝経歴。(3) の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝衣服、B＝服装。(2) の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 暮色

(11) 家族

(2) 履修

(12) 靴下

(3) 飯店

(13) 教室

(4) 安眠

(14) 机上

(5) 鍋物

(15) 食事

(6) 繁忙

(16) ちゅうしょく

(7) 衣類

(17) やかん

(8) 暇人

(18) ざせき

(9) 朝食

(19) ゆかした

(10) 制服

(20) じゅうみん

七 文章の中で考えよう

(1) **暮らし** 本文中では「暮らし」と表されている。

(2) **睡眠**

(3) **エ** 仕事や勉強以外の、自由に使える時間

(4) **ア** 身につけた衣服の様子や組み合わせ。

(5) **解答例** (45 字)

朝昼夜で利用者と活動が変わるため、それぞれの時間に必要な席や準備、手入れを考えられるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (73 字)

暮らしは、食事や服、休息など小さな行為の重なりで形づくられる。目立つ出来事だけでなく日常の細部を見ると、人や場所が大切にしていることが見えてくる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十三回

身体と感覚

言葉になる前の変化を、身体の詳細部から受け取る。

今日の中心漢字

膚 腰 膝 肘 胸 腹 舌 匂

いっしょに覚える漢字

身	体	顔	目	耳	鼻
口	手	足	肌	骨	血

身体の部位や感覚に関わる言葉を確認したあと、姿勢や声、表情から見えにくい状態を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
膚	フ・はだ	体の表面をおおうもの 皮膚・肌膚・皮膚感覚	胸	キョウ・むね	体の前面上部／心の中 胸中・胸囲・胸痛・胸
腰	ヨウ・こし	体の中央あたり／物事に向かう姿勢 腰痛・腰掛け・本腰・中腰	腹	フク・はら	体の前面下部／心の中の考え 腹部・空腹・腹案・腹
膝	シツ・ひざ	足の曲がる部分 膝下・膝頭・膝小僧	舌	ゼツ・した	口の中の器官／話し方 舌先・弁舌・毒舌・舌
肘	チュウ・ひじ	腕の曲がる部分 肘掛け・肘打ち・肘	匂	におう	におい／気配 匂い・匂う・匂わせる

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
身	シン・み	からだ／自分 身体・身近・自身	口	コウ・くち	くち 口調・入口・出口
体	タイ・からだ	からだ／まとまり 体調・体験・体力	手	シュ・て	て／方法 手足・手段・相手
顔	ガン・かお	かお 顔色・笑顔・顔面	足	ソク・あし	あし／足りる 足元・不足・遠足
目	モク・め	め／見る点 目線・注目・目的	肌	キ・はだ	はだ 肌寒い・肌色・肌身
耳	ジ・みみ	みみ 耳元・耳目・聴覚	骨	コツ・ほね	ほね／中心 骨格・骨折・骨子
鼻	ビ・はな	はな 鼻音・鼻先・鼻血	血	ケツ・ち	ち 血液・血縁・出血

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「皮膚」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 遠くへ移動するための道具。
- イ 文章の最後に置く言葉。
- ウ 水がわき出る場所。
- エ 体の表面をおおっている部分。

(2) 「本腰を入れる」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 体を横にして眠る。
- イ 物事に本気で取り組む。
- ウ 膝を強く打つ。
- エ 口を閉じて何も言わない。

(3) 「胸中」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 胸の大きさ。
- イ 食事の量。
- ウ 足りないものを補うこと。
- エ 心の中にある思い。

(4) 「腹案」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 食事のあとに眠ること。
- イ まだ外に出していない、心の中の案。
- ウ 人の言葉をすべて忘れること。
- エ 体の表面を洗うこと。

(5) 「弁舌」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 腕を曲げる部分。
- イ 水がにごって流れること。
- ウ 文字を大きく書くこと。
- エ 物事を説明したり話したりする力や話しぶり。

(6) 「匂わせる」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 何も考えずに走り出す。
- イ はっきり言わずに、それとなく感じさせる。
- ウ すべてを完全に消す。
- エ 大きな音を出して知らせる。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 皮膚 腰痛 膝下 肘掛け 胸中 腹部 空腹 弁舌 毒舌 匂い 身体 体調 顔色 骨子

(1) 冬になると、乾燥して（ ）がかゆくなることがある。

(8) その人は豊かな（ ）で、聞く人を引きつけた。

(2) 長時間同じ姿勢で座っていたため、軽い（ ）を感じた。

(9) 冗談のつもりでも、きつい（ ）は人を傷つけることがある。

(3) ズボンのすそが短く、（ ）が少し見えていた。

(10) 台所から、焼き魚のよい（ ）がしてきた。

(4) 古い椅子には木の（ ）がついていた。

(11) 心と（ ）の両方を休める時間でもある必要である。

(5) 発表の前、彼の（ ）には不安と期待が入りまじっていた。

(12) 寝不足が続いて、今日は少し（ ）が悪い。

(6) 運動中に転んで、（ ）を強く打った。

(13) 友人の（ ）を見て、何か心配ごとがあるのだと気づいた。

(7) 朝食を抜いたので、昼前には強い（ ）を感じた。

(14) 発表の前に、話の（ ）をノートにまとめておいた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「身体」と「体」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 体は人のからだ全体をやや改まって表し、身体はより広く日常的にも使いやすい。
- イ 身体は「()を動かす」だけに、体は「()の状態」だけに使う。
- ウ 「()の状態」と「()を動かす」では、身体と体を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 身体は人のからだ全体をやや改まって表し、体はより広く日常的にも使いやすい。

(2) 「胸中」と「腹案」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 胸中は心の中の思い、腹案はまだ外に出していない考えや案に使いやすい。
- イ 腹案は心の中の思い、胸中はまだ外に出していない考えや案に使いやすい。
- ウ 胸中は「()を練る」だけに、腹案は「()を明かす」だけに使う。
- エ 「()を明かす」と「()を練る」では、胸中と腹案を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「口調」と「弁舌」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 弁舌は話し方の調子、口調は説明したり話したりする力や話しぶりを表しやすい。
- イ 口調は話し方の調子、弁舌は説明したり話したりする力や話しぶりを表しやすい。
- ウ 口調は「巧みな()」だけに、弁舌は「穏やかな()」だけに使う。
- エ 「穏やかな()」と「巧みな()」では、口調と弁舌を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「骨子」と「詳細」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 詳細は話や文章の中心となる大まかな組み立て、骨子は細かな内容を表す。
- イ 骨子と詳細は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 骨子は話や文章の中心となる大まかな組み立て、詳細は細かな内容を表す。
- エ 骨子は詳細の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「(A)の状態」 B「(B)を動かす」

- ア A=身体/B=体 イ A=体/B=身体
- ウ A=身体/B=身体 エ A=体/B=体

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「穏やかな(A)」 B「巧みな(B)」

- ア A=弁舌/B=口調 イ A=口調/B=弁舌
- ウ A=口調/B=口調 エ A=弁舌/B=弁舌

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| (1) 検診で胸の周りのキョウイを測った。 | (9) 暗い道では、まずアシモトを確かめた。 |
| (2) 課題の解決にホンゴシを入れて取り組む。 | (10) 絵の具を混せて、自然なハダイロを作った。 |
| (3) 転んでヒザガシラを打ち、しばらく冷やした。 | (11) 建物のコッカクとなる柱を、太く設計した。 |
| (4) シタサキだけの約束では、信頼は得られない。 | (12) 強い光からガンメンを守るため、帽子をかぶった。 |
| (5) 図書館は、暮らしにミヂカな学びの場である。 | (13) 話題の作品にチュウモクが集まっている。 |
| (6) 穏やかなクチョウで話すと、相手も聞きやすい。 | (14) 新しい制度は、国内外のジモクを集めた。 |
| (7) 陶芸を初めてタイケンし、土の感触を味わった。 | (15) 鼻から出す音を、音声学ではビオンと呼ぶ。 |
| (8) 子どもは裸足になり、テアシを伸ばして遊んだ。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| (16) 顔色 | (17) 目線 | (18) 耳元 | (19) 鼻血 | (20) 血縁 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

身体が知らせること

前の授業で、先生は「日常の細部を読むことが大切だ」と話した。それから悠人は、自分の身近な出来事にも少し注意を向けるようになった。朝、教室に入ったとき、友人の顔色がいつもより暗いことに気づいた。声をかけようとして、なぜか胸のあたりが少し重くなった。

広場の安全講習では、身体感覚を確かめる練習もした。長く中腰で掃除をすると腰に負担がかかり、冷たい手すりへ肘をつくとき皮膚が痛む。膝や足の向き、手の力、胸と腹の呼吸を意識すると、無理な姿勢に気づきやすい。

【体調を確かめる合図】 顔色／息の速さ／返事の声／手足の冷たさ。異変を感じたら、本人の言葉を待ちながら安全な場所へ移る。

友人は「何でもない」と言ったが、その口調はふだんより硬かった。机に置かれた手は落ち着きなく動き、膝も小さくゆれている。はっきりした言葉はなくても、身体は何かを語っているのかもしれない。悠人はそう思い、すぐに理由をたずねるのではなく、隣の席で静かにノートを開いた。

しばらくすると、友人の方から「昨日、家で少しあって」と話し始めた。言葉になる前の不安は、顔色や手の動きや声の匂いのようなものに、少しずつ表れていたのだと悠人は感じた。文章を読むときも同じかもしれない。はっきり書かれた言葉だけでなく、表情のような細部に目を向けることで、見えにくい心の動きに近づけることがある。

感覚は目だけから入るのではない。耳で聞く声、鼻で感じる匂い、舌に残る味、肌に触れる風にも情報がある。転んで骨や血に関わるけがが疑われるときは、見た印象だけで軽いと決めてはいけない。

悠人は、相手の胸中を勝手に読み切ったつもりにならず、口調や身体の変化を手がかりにして待った。細部を見ることは詮索ではない。言葉になる前の合図を受け取り、相手が話せる余地を守ることなのである。

ただし、合図は答えそのものではない。同じ動作でも、寒さ、疲れ、緊張など原因は異なる。感じ取ったことを確かめるには、最後は本人の言葉を尊重しなければならない。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「心の中にある思い」という意味に近い体の部分を含む表現を抜き出さない。

(2) 「カオイロ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「口調」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 話し方の調子
- イ 足の曲がる部分
- ウ 机の表面の広さ
- エ 水が流れる方向

(4) 本文中の「身体は何かを語っている」とは、どのようなことか。

- ア 体が実際に声を出して話すということ。
- イ 言葉にしなくても、動きや様子に気持ちが表れることがあるということ。
- ウ 人の気持ちは、体の様子にはまったく表れないということ。
- エ 文章を読むときは、細部を見なくてよいということ。

(5) 悠人が友人へすぐ理由を尋ねなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「身体」「言葉」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| (1) エ 体の表面をおおっている部分。 | (4) イ まだ外に出していない、心の中の案。 |
| (2) イ 物事に本気で取り組む。 | (5) エ 物事を説明したり話したりする力や話しぶり。 |
| (3) エ 心の中にある思い。 | (6) イ はっきり言わずに、それとなく感じさせる。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|---------|---------|
| (1) 皮膚 | (8) 弁舌 |
| (2) 腰痛 | (9) 毒舌 |
| (3) 膝下 | (10) 匂い |
| (4) 肘掛け | (11) 身体 |
| (5) 胸中 | (12) 体調 |
| (6) 腹部 | (13) 顔色 |
| (7) 空腹 | (14) 骨子 |

使い分けを確かめよう：身体は人のからだ全体をやや改まって表し、体はより広く日常的にも使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 身体は人のからだ全体をやや改まって表し、体はより広く日常的にも使いやすい。

例：身体の状態／体を動かす

(2) **ア** 胸中は心の中の思い、腹案はまだ外に出していない考えや案に使いやすい。

例：胸中を明かす／腹案を練る

(3) **イ** 口調は話し方の調子、弁舌は説明したり話したりする力や話しぶりを表しやすい。

例：穏やかな口調／巧みな弁舌

(4) **ウ** 骨子は話や文章の中心となる大まかな組み立て、詳細は細かな内容を表す。

(5) **ア** A＝身体、B＝体。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝口調、B＝弁舌。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 胸囲	(11) 骨格
(2) 本腰	(12) 顔面
(3) 膝頭	(13) 注目
(4) 舌先	(14) 耳目
(5) 身近	(15) 鼻音
(6) 口調	(16) かおいろ
(7) 体験	(17) めせん
(8) 手足	(18) みみもと
(9) 足元	(19) はなぢ
(10) 肌色	(20) けつえん

七 文章の中で考えよう

(1) **胸のあたりが少し重くなった** 本文中では「胸のあたりが少し重くなった」と表されている。

(2) **顔色**

(3) **ア** 話し方の調子

(4) **イ** 言葉にしなくても、動きや様子に気持ちが表れることがあるということ。

(5) **解答例** (46 字)

身体の変化に気づいても気持ちを決めつけず、友人が自分から話せる時間と余地を守ろうとしたから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (73 字)

身体は、顔色や姿勢、声、呼吸を通して、まだ言葉にならない状態を知らせる。細部を手がかりにしつつ決めつけず、相手が話せる余地を待つことが大切である。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十四回

場所と道

目的地だけでなく、そこへ至る道筋にも目を向ける。

今日の中心漢字

路 途 径 峠 岸 畔 郊 廊

いっしょに覚える漢字

道	橋	駅	町	村	都
庭	門	場	所	地	方

道路・途中・岸辺などの言葉を使い分けたあと、広場までの道案内を見直す文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
路	ロ・-じ	人や物が通る道 道路・路地・進路・経路	岸	ガン・きし	水ぎわの土地 海岸・岸辺・沿岸・対岸
途	ト・みち	途中の道／目的へ向かう道 途中・途上・前途・用途	畔	ハン・ほとり	水辺／田のあぜ 湖畔・河畔・畔
径	ケイ・みち	細い道／まっすぐ通る線 小径・直径・半径・径路	郊	コウ	町の外側・周辺 郊外・近郊・郊野
峠	とうげ	山道の高い所／物事の山場 峠道・峠・峠を越す	廊	ロウ	建物の中の長い通路 廊下・回廊・画廊

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
道	ドウ・みち	みち 道路・道筋・通学路	庭	テイ・にわ	にわ 庭園・校庭・中庭
橋	キョウ・はし	はし 橋上・鉄橋・橋渡し	門	モン・かど	もん 正門・校門・門前
駅	エキ	えき 駅前・駅舎・終着駅	場	ジョウ・ば	ところ 場所・会場・立場
町	チョウ・まち	まち 町内・市町村・町並み	所	ショ・ところ	ところ 住所・場所・近所
村	ソン・むら	むら 村落・村人・市町村	地	チ	ち／ところ 地面・地域・土地
都	ト・みやこ	みやこ／大きな町 都市・都会・都心	方	ホウ・かた	むき／やりかた 方向・地方・方法

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「路」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 人や物が通る道
- イ 体の表面
- ウ 水がわく場所
- エ 考えを忘れること

(2) 「途中」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア すべてが終わったあとの結果。
- イ 人の気持ちが強く怒ること。
- ウ ものごとの始まりから終わりまでのあいだ。
- エ 水の中へ沈むこと。

(3) 「直径」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 円の中心を通過して、端から端まで引いた線。
- イ 山を越えるための細い道。
- ウ 町の外側にある地域。
- エ 建物の中の長い通路。

(4) 「峠を越す」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものを水に流す。
- イ 人の名前を覚える。
- ウ 苦しい山場を過ぎる。
- エ 文章をすべて消す。

(5) 「湖畔」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 湖のほとり。
- イ 町の中心にある駅。
- ウ 建物の中の部屋。
- エ 道の終わりにある門。

(6) 「廊下」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 海に面した土地。
- イ 人の考えをまとめた文章。
- ウ 家や学校などの中にある、部屋と部屋をつなぐ通路。
- エ 手に持って使う道具。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 道路 路地 進路 経路 途中 前途 直径 峠道 海岸 対岸 湖畔 郊外 廊下 駅前

(1) 雨の日は、車の多い（ ）を歩くときに特に注意する。

(8) 細い（ ）を登ると、町全体が見える場所に出た。

(2) 古い家々の間を通る細い（ ）を抜けると、小さな神社があった。

(9) 夏休みに、家族で夕方の（ ）を歩いた。

(3) 将来の（ ）について、先生と相談した。

(10) 川の（ ）に見える建物は、昔の倉庫だそうだ。

(4) 目的地までの（ ）を地図で確認した。

(11) 静かな（ ）に立つと、水面に山の影が映っていた。

(5) 学校へ向かう（ ）で、友人に会った。

(12) 町の中心から少し離れた（ ）に、新しい図書館ができた。

(6) 新しい生活を始める生徒たちの（ ）を願う。

(13) 授業が終わると、生徒たちの足音が（ ）に響いた。

(7) 円の（ ）を測って、面積を求める準備をした。

(14) 朝の（ ）は、人や自転車でにぎわっていた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「道路」と「路地」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 路地は人や車が通る道を広く表し、道路は建物の間などの細い道に使いやすい。
- イ 道路は人や車が通る道を広く表し、路地は建物の間などの細い道に使いやすい。
- ウ 道路は「細い（ ）」だけに、路地は「広い（ ）」だけに使う。
- エ 「広い（ ）」と「細い（ ）」では、道路と路地を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「途中」と「途上」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 途上は物事の進んでいる最中を広く表し、途中は目的に向かって進んでいる段階に使いやすい。
- イ 途中は「発展の（ ）」だけに、途上は「帰る（ ）」だけに使う。
- ウ 途中は物事の進んでいる最中を広く表し、途上は目的に向かって進んでいる段階に使いやすい。
- エ 「帰る（ ）」と「発展の（ ）」では、途中と途上を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「岸边」と「湖畔」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 湖畔は水ぎわを広く表し、岸边は湖のほとりに使う。
- イ 岸边は「（ ）の宿」だけに、湖畔は「川の（ ）」だけに使う。
- ウ 「川の（ ）」と「（ ）の宿」では、岸边と湖畔を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 岸边は水ぎわを広く表し、湖畔は湖のほとりに使う。

(4) 「場所」と「立場」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 場所は物や人があるところ、立場はものの見方や置かれた状況を表しやすい。
- イ 立場は物や人があるところ、場所はものの見方や置かれた状況を表しやすい。
- ウ 場所と立場は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 場所は立場の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「帰る（A）」 B「発展の（B）」

- ア A＝途上／B＝途中 イ A＝途中／B＝途中
- ウ A＝途中／B＝途上 エ A＝途上／B＝途上

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「広い（A）」 B「細い（B）」

- ア A＝路地／B＝道路 イ A＝道路／B＝道路
- ウ A＝路地／B＝路地 エ A＝道路／B＝路地

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| (1) 夕暮れのキシベを、波の音を聞きながら歩いた。 | (9) 列車は長いテッキョウを渡り、川の対岸へ進んだ。 |
| (2) その制度は、まだ整備のトジョウにある。 | (10) 改築されたエキシャには、木材が多く使われている。 |
| (3) 春になると、カハンの桜が一斉に咲く。 | (11) 申込書には、現在のジュウショを正確に書いた。 |
| (4) 林の中のショウケイをたどり、池へ出た。 | (12) 山間のソンラクに、伝統的な祭りが残っている。 |
| (5) 市のキンコウでは、畑や林が多く残っている。 | (13) 人口が集中するトシでは、交通の整備が欠かせない。 |
| (6) 石造りのカイロウが、中庭を囲んでいる。 | (14) 遅刻しないよう、始業前にセイモンを通った。 |
| (7) 目標までのミチスジを、順序立てて説明した。 | (15) 発表のカイジョウには、早くから観客が集まった。 |
| (8) 古い屋敷のテイエンには、大きな池がある。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 校門 | (17) 場所 | (18) 地域 | (19) 方向 | (20) 町並み |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

迷わない道案内

前回の授業のあと、悠人は友人と並んで校門を出た。いつもなら駅前大きな道路を歩いて帰る。しかしその日は、友人が「少し遠回りしてもいい？」と言ったので、二人は古い家の間に続く細い路地へ入った。そこは、悠人がふだん通らない道だった。

広場への案内図には、駅からの道路だけでなく、川沿いの小径、古い橋、町村の境にある門も描いた。郊外から来る人には、峠を越えるバスの経路が分かりにくい。都市の地図に慣れた人と、近所を歩く人では目印が違う。

【道案内の試作】 駅前を東へ → 二つ目の橋を渡る → 湖畔ではなく河畔の遊歩道へ → 中庭のある建物を右へ

路地を抜けると、小さな橋があり、その下をゆるやかな川が流れていた。橋の上から対岸を見ると、古い倉庫の壁に夕日が当たっていた。友人は「昔、祖父とよくこの川岸を歩いた」と言った。その声は静かだったが、前の日より少しやわらかく聞こえた。場所には、人の記憶が残ることがあるのだと、悠人は思った。

さらに歩くと、町の郊外にある古い図書館に着いた。長い廊下には、昔の町並みを写した写真が並んでいた。道は、ただ目的地へ行くためだけにあるのではない。どの道を通るかによって、見える景色も、思い出すことも変わる。文章を読むときも同じかもしれない。結論だけに急がず、途中の言葉や場面をたどることで、考えの道筋が見えてくることがある。

「直径百メートルの範囲」という説明は正確でも、歩く人には距離を想像しにくい。そこで、途中に見える画廊や長い廊下、対岸の倉庫を目印として加えた。場所を示すには、方向と同時に、そこへ至る体験も必要だった。

道は目的地までの空白ではない。どの途上を選ぶかで、見える町並みも記憶も変わる。文章でも、結論へ急ぐだけでなく、問いから答えまでの道筋をたどると、筆者の立場が見えてくる。

案内図を初めて使う人に歩いてもらおうと、作った側には当然だった曲がり角で迷った。道案内は、知っている人の地図を、知らない人の目で読み直す作業でもある。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「建物の間などにある細い道」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「コウガイ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「対岸」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 建物の中にある長い通路
- イ 川や海などをはさんだ向こう側の岸
- ウ 駅の前にある広場
- エ 山道のいちばん高いところ

(4) 本文中の「場所には、人の記憶が残ることがある」とは、どのようなことか。

- ア 場所には必ず文字が書かれているということ。
- イ 道を歩くと、すべての記憶が消えるということ。
- ウ ある場所が、そこで過ごした時間や人の思いを思い出させることがあるということ。
- エ 町の郊外には、記憶がまったく存在しないということ。

(5) 案内図に目印となる建物や景色を加えたのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「道筋」「途中」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **ア** 人や物が通る道

(4) **ウ** 苦しい山場を過ぎる。

(2) **ウ** ものごとの始まりから終わりまでのあいだ。

(5) **ア** 湖のほとり。

(3) **ア** 円の中心をって、端から端まで引いた線。

(6) **ウ** 家や学校などの中にある、部屋と部屋をつなぐ通路。

四 熟語を広げよう

(1) 道路

(8) 峠道

(2) 路地

(9) 海岸

(3) 進路

(10) 対岸

(4) 経路

(11) 湖畔

(5) 途中

(12) 郊外

(6) 前途

(13) 廊下

(7) 直径

(14) 駅前

使い分けを確かめよう：道路は人や車が通る道を広く表し、路地は建物の間などの細い道に使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

- (1) **イ** 道路は人や車が通る道を広く表し、路地は建物の間などの細い道に使いやすい。
 例：広い道路／細い路地
- (2) **ウ** 途中は物事の進んでいる最中を広く表し、途上は目的に向かって進んでいる段階に使いやすい。
 例：帰る途中／発展の途上
- (3) **エ** 岸边は水ぎわを広く表し、湖畔は湖のほとりに使う。
 例：川の岸边／湖畔の宿
- (4) **ア** 場所は物や人があるところ、立場はものの見方や置かれた状況を表しやすい。
- (5) **ウ** A＝途中、B＝途上。(2)の使い分けを参照。
- (6) **エ** A＝道路、B＝路地。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 岸边	(11) 住所
(2) 途上	(12) 村落
(3) 河畔	(13) 都市
(4) 小径	(14) 正門
(5) 近郊	(15) 会場
(6) 回廊	(16) こうもん
(7) 道筋	(17) ばしょ
(8) 庭園	(18) ちいき
(9) 鉄橋	(19) ほうこう
(10) 駅舎	(20) まちなみ

七 文章の中で考えよう

- (1) **路地** 本文中では「路地」と表されている。
- (2) **郊外**
- (3) **イ** 川や海などをはさんだ向こう側の岸
- (4) **ウ** ある場所が、そこで過ごした時間や人の思いを思い出させることがあるということ。
- (5) **解答例** (49 字)

正確な距離だけでは歩く人が道を想像しにくく、途中で実際に見えるものが方向を確かめる助けになるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (72 字)

道案内では目的地だけでなく、途中に見える目印や利用者の立場を考える必要がある。文章も結論へ急がず道筋を丁寧にたどると、考えの進み方が見えてくる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十五回

整える・直す・守る

片づけ、修復し、使い続けられる状態をつくる。

今日の中心漢字

汚 乱 整 散 破 壊 修 補

いっしょに覚える漢字

潔	純	雑	混	荒	磨
掃	拭	塗	替	除	片

汚れ・整理・破損・修復などの違いを確かめたあと、広場を長く使うための手入れを考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
汚	オ・けがす	よごれる／きたなくなる 汚れ・汚す・汚染・汚点	破	ハ・やぶる	やぶれる／こわれる 破る・破れる・破損・破片
乱	ラン・みだれる	みだれる／まとまりがなくなる 乱れる・混乱・乱雑・乱暴	壊	カイ・こわす	こわれる／こわす 壊れる・壊す・破壊・崩壊
整	セイ・ととのえる	そろえる／きちんとする 整える・整理・整頓・調整	修	シュウ・おさめる	なおす／学び身につける 修理・修復・修正・研修
散	サン・ちる	ちらばる／ばらばらになる 散る・散らす・散乱・分散	補	ホ・おぎなう	足りないものをおぎなう 補う・補足・補修・補助

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
潔	ケツ・いさぎよい	けがれがない／いさぎよい 清潔・潔白・不潔	掃	ソウ・はく	はいてきれいにする 掃く・掃除・清掃
純	ジュン	まじりけがない 純粹・純白・純情	拭	シヨク・ぬぐう	ふいて取りのぞく 拭く・払拭
雑	ザツ・まじえる	まじる／まとまりがない 雑音・雑草・雑誌	塗	ト・ぬる	表面にぬる 塗る・塗装・塗料
混	コン・まじる	まじり合う 混じる・混合・混乱	替	タイ・かえる	入れかえる 替える・交換・代替
荒	コウ・あらす	あれる／手入れされていない 荒れる・荒野・荒地	除	ジョ・のぞく	取りのぞく 除く・除外・掃除
磨	マ・みがく	みがく／表面をきれいにする 磨く・研磨・歯磨き	片	ヘン・かた-	一部／整理する 片づけ・破片・片側

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「汚」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 物事を高く評価すること
- イ よごれること、きたなくなること
- ウ 道をまっすぐ進むこと
- エ 足りないものをつけ加えること

(2) 「乱雑」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 表面をみがいて、光るようにすること。
- イ こわれたものを元に近い形へなおすこと。
- ウ 説明を少しつけ加えること。
- エ ものがきちんと整っておらず、まとまりがないこと。

(3) 「整理」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人の気持ちを強く怒らせること。
- イ 乱れているものを分けたり並べたりして整えること。
- ウ 山道の高い所を越えること。
- エ 水辺の土地に立つこと。

(4) 「散乱」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物の価値を比べること。
- イ 文字を声に出して読むこと。
- ウ 道の途中で人に会うこと。
- エ ものがあちこちに散らばっていること。

(5) 「破損」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 考えがまとまって、はっきりすること。
- イ 物がこわれたり、傷ついたりすること。
- ウ 人が集まって、会を開くこと。
- エ 水がゆっくり流れること。

(6) 「補足」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 建物の中の長い通路。
- イ 町の外側にある地域。
- ウ 人や物が通る広い道。
- エ 足りない説明や内容をつけ加えること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 汚染 汚点 混乱 乱雑 整理 整頓 散乱 分散 破損 破片 破壊 修理 修復 補足

(1) 川の水の（ ）を防ぐため、工場から出る水をきびしく調べている。

(8) 一つの場所に集まりすぎないように、人数をいくつかの班に（ ）した。

(2) 大切な記録に（ ）を残さないよう、最後まで注意して確認した。

(9) 古い本の表紙に（ ）があったので、そっと開いた。

(3) 突然予定が変わり、教室の中は少し（ ）した。

(10) 割れたガラスの（ ）を、けがをしないように集めた。

(4) 机の上が（ ）になっていると、必要な資料を見付けにくい。

(11) 強い地震によって、古い建物が（ ）されてしまった。

(5) 古い写真を年代ごとに（ ）して、箱にしまった。

(12) 止まっていた時計を、店に出して（ ）してもらった。

(6) 使い終わった道具は、元の場所に（ ）しておく。

(13) 破れた絵を、専門の人が時間をかけて（ ）した。

(7) 風で紙が床に（ ）し、部屋の中が白く見えた。

(14) 説明が短すぎたので、先生が少し（ ）してくれた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「汚れ」と「汚染」の違いとして自然なものを選びなさい。

ア 汚染は物の表面などがきたなくなることを広く表し、汚れは水・空気・土などが有害なものでよごれる場合に使いやすい。

イ 汚れは「水質の（ ）」だけに、汚染は「机の（ ）」だけに使う。

ウ 「机の（ ）」と「水質の（ ）」では、汚れと汚染を意味の違いなく入れ替えられる。

エ 汚れは物の表面などがきたなくなることを広く表し、汚染は水・空気・土などが有害なものでよごれる場合に使いやすい。

(2) 「整理」と「整頓」の違いとして自然なものを選びなさい。

ア 整理は不要なものを分けたり内容をまとめたりすることにも使い、整頓は物をきちんと並べることに使いやすい。

イ 整頓は不要なものを分けたり内容をまとめたりすることにも使い、整理は物をきちんと並べることに使いやすい。

ウ 整理は「机上を（ ）する」だけに、整頓は「資料を（ ）する」だけに使う。

エ 「資料を（ ）する」と「机上を（ ）する」では、整理と整頓を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「破損」と「破壊」の違いとして自然なものを選びなさい。

ア 破壊は物の一部がこわれたり傷ついたりすること、破損は物や仕組みを大きくこわすことに使いやすい。

イ 破損は物の一部がこわれたり傷ついたりすること、破壊は物や仕組みを大きくこわすことに使いやすい。

ウ 破損は「建物を（ ）する」だけに、破壊は「箱が（ ）する」だけに使う。

エ 「箱が（ ）する」と「建物を（ ）する」では、破損と破壊を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「修理」と「修復」の違いとして自然なものを選びなさい。

ア 修復は機械や道具などを使えるようになおすこと、修理は傷んだものを元に近い状態へなおすことに使いやすい。

イ 修理と修復は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。

ウ 修理は機械や道具などを使えるようになおすこと、修復は傷んだものを元に近い状態へなおすことに使いやすい。

エ 修理は修復の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「箱が（A）する」 B「建物を（B）する」

ア A＝破損／B＝破壊 イ A＝破壊／B＝破損

ウ A＝破損／B＝破損 エ A＝破壊／B＝破壊

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「資料を（A）する」 B「机上を（B）する」

ア A＝整頓／B＝整理 イ A＝整理／B＝整頓

ウ A＝整理／B＝整理 エ A＝整頓／B＝整頓

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| (1) 人を傷つけるランボウな言葉は慎みたい。 | (9) 欠席者のダイタイとして、別の委員が会議に出た。 |
| (2) 長雨で石垣の一部がホウカイした。 | (10) 見渡す限りのアラノに、一本の道が続いていた。 |
| (3) 全員の予定を見て、会議の日程をチョウセイした。 | (11) 部品の表面をケンマシ、滑らかに仕上げた。 |
| (4) 数字の誤りを見つけ、表をシュウセイした。 | (12) 歩道のカタガワだけ、工事のため通れない。 |
| (5) ひび割れた外壁をホシュウし、安全を確かめた。 | (13) 地域の人々が協力して、公園をセイソウした。 |
| (6) 調査の結果、担当者のケツパクが証明された。 | (14) 山頂には、冬になるとジュンパクの雪が積もる。 |
| (7) 新しい活動で、町の古い印象をフッシュョクしたい。 | (15) 庭のザッソウを抜き、花壇を整えた。 |
| (8) 金属の門を塗り直し、さびに強いトソウを施した。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 純粹 | (17) 雑音 | (18) 混合 | (19) 掃除 | (20) 除外 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

使い続けるための手入れ

前回、悠人と友人は町の郊外にある古い図書館へ行った。長い廊下に並んだ写真を見ているうちに、二人は館内の奥にある資料室へ案内された。そこは長い間使われていなかったらしく、机の上にはほこりが積もり、古い新聞や写真が床に散乱していた。窓の近くの壁は少し汚れ、木の箱の一つは角が壊れていた。

開場から一か月後、班は手入れの日を設けた。純白だった案内板には汚れが付き、花壇には雑草が混じり、塗装の一部も荒れている。掃除をすれば清潔になるが、壊れた部品まで元へ戻るわけではない。

【点検表】 表面の汚れ／塗料のはがれ／木片の破損／ねじの緩み。掃除・補修・交換のどれが必要かを分ける。

係の人は、「この部屋には、昔の町の記録が残っています。ただ、まだ整理ができていないのです」と言った。悠人たちは、破れた写真を一枚ずつ集め、年代の分かるものと分からないものに分けた。友人は、写真の裏に書かれた短い文字を読みながら、「ばらばらに見えるものでも、並べ直すと、つながりが見えてくるんだね」と言った。

悠人はうなずいた。汚れた机を拭き、破損した箱をそっと動かし、足りない説明を紙に補足していくうちに、部屋の乱れが少しずつ整っていくように感じた。文章を書くときも、同じかもしれない。散らばった考えを整理し、壊れたつながりを修復し、足りない言葉を補うことで、伝えたいことの形が見えてくることがある。

机を拭き、床を掃き、金具を磨く。破片は取り除き、傷んだ板は替えた。すべてを新品へ交換するのではなく、使える部分を残して補修する方が、材料も記憶も生かせる場合がある。

乱れた状態を整えること、混乱した原因を調べること、大きな破壊になる前に小さな破損を修理することは別の働きである。潔く捨てる判断も必要だが、修復して使い続ける道もある。

手入れの記録には、直した場所と日付を残した。次に同じ傷みが出たとき、偶然の破損か、構造上の問題かを比べられるからである。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「ものがあちこちに散らばっていること」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「オセン」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「破損」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものをきれいに磨くこと
- イ 道の途中で立ち止まること
- ウ ものがこわれたり傷ついたりしていること
- エ 人の気持ちが明るくなること

(4) 本文中の「ばらばらに見えるものでも、並べ直すと、つながりが見えてくる」とは、どのようなことか。

- ア 古い写真は、どれも同じ日に撮られたものだということ。
- イ 写真をすべて捨てれば、部屋がすぐにきれいになるということ。
- ウ 文字を読まなくても、資料の意味は必ず分かるということ。
- エ 一つ一つでは関係が分かりにくい資料も、順番や内容を整えると、意味のつながりが分かることがあるということ。

(5) 班がすべてを新品へ交換しなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「整理」「修復」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| (1) イ よごれること、きたなくなること | (4) エ ものがあちこちに散らばっていること。 |
| (2) エ ものがきちんと整っておらず、まとまりがないこと。 | (5) イ 物がこわれたり、傷ついたりすること。 |
| (3) イ 乱れているものを分けたり並べたりして整えること。 | (6) エ 足りない説明や内容をつけ加えること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 汚染 | (8) 分散 |
| (2) 汚点 | (9) 破損 |
| (3) 混乱 | (10) 破片 |
| (4) 乱雑 | (11) 破壊 |
| (5) 整理 | (12) 修理 |
| (6) 整頓 | (13) 修復 |
| (7) 散乱 | (14) 補足 |

使い分けを確かめよう：汚れは物の表面などがきたなくなることを広く表し、汚染は水・空気・土などが有害なものでよごれる場合に使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 汚れは物の表面などがきたなくなることを広く表し、汚染は水・空気・土などが有害なものでよごれる場合に使いやすい。

例：机の汚れ／水質の汚染

(2) **ア** 整理は不要なものを分けたり内容をまとめたりすることにも使い、整頓は物をきちんと並べることに使いやすい。

例：資料を整理する／机上を整頓する

(3) **イ** 破損は物の一部がこわれたり傷ついたりすること、破壊は物や仕組みを大きくこわすことに使いやすい。

例：箱が破損する／建物を破壊する

(4) **ウ** 修理は機械や道具などを使えるようになおすこと、修復は傷んだものを元に近い状態へなおすことに使いやすい。

(5) **ア** A＝破損、B＝破壊。(3)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝整理、B＝整頓。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 乱暴	(11) 研磨
(2) 崩壊	(12) 片側
(3) 調整	(13) 清掃
(4) 修正	(14) 純白
(5) 補修	(15) 雑草
(6) 潔白	(16) じゅんすい
(7) 払拭	(17) ざつおん
(8) 塗装	(18) こんごう
(9) 代替	(19) そうじ
(10) 荒野	(20) じょがい

七 文章の中で考えよう

(1) **散乱** 本文中では「散乱」と表されている。

(2) **汚染**

(3) **ウ** ものがこわれたり傷ついたりしていること

(4) **エ** 一つ一つでは関係が分かりにくい資料も、順番や内容を整えると、意味のつながりが分かることがあるということ。

(5) **解答例** (44 字)

使える部分を残して補修すれば、材料を無駄にせず、広場に重なった時間や記憶も生かせるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (72 字)

手入れでは、汚れを落とすこと、乱れを整理すること、破損を修復することを分けて考える。状態と原因に合う方法を選ぶことで、場所を長く使い続けられる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十六回

価値をはかる

値段や見た目だけでなく、記憶と意味から価値を見る。

今日の中心漢字

価 値 貴 尊 珍 妙 優 劣

いっしょに覚える漢字

良	悪	美	醜	高	低
多	少	比	較	選	賞

価値・値段、貴重・珍しいなどの違いを確かめたあと、資料を選ぶ基準について考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
価	カ・あたい	ねうち／どれほど大切か 価値・価格・評価・定価	珍	チン・めずらしい	めずらしい 珍しい・珍品・珍客・珍重
値	チ・ね	ねだん／数で表した量 値段・数値・価値・値する	妙	ミョウ・たえ	不思議なほどよい／変わっている 妙案・奇妙・絶妙・珍妙
貴	キ・たつとい	とうとい／大切に重い 貴重・高貴・貴族・貴金属	優	ユウ・やさしい	すぐれている／やさしい 優秀・優先・優勝・優劣
尊	ソン・とうとい	敬い、大切にする 尊重・尊敬・尊い	劣	レツ・おとる	おとっている 劣る・劣等・劣化・優劣

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
良	リョウ・よい	よい 良い・良心・良質	多	タ・おおい	おおい 多い・多数・多少
悪	アク・わるい	わるい 悪い・悪化・善悪	少	ショウ・すくない	すくない 少ない・少数・多少
美	ビ・うつくしい	うつくしい 美しい・美術・美点	比	ヒ・くらべる	くらべる 比べる・比較・比率
醜	シュウ・みにくい	みにくい 醜い・美醜・醜態	較	カク・くらべる	くらべる 比較・較差
高	コウ・たかい	たかい 高い・高価・高低	選	セン・えらぶ	えらぶ 選ぶ・選択・選手
低	テイ・ひくい	ひくい 低い・低下・高低	賞	ショウ・ほめる	よさを認める 賞・賞品・賞賛

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「価」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものを水で洗うこと
- イ 山道の高いところ
- ウ 人や物のねうちを表すこと
- エ ものがばらばらに散ること

(2) 「数値」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものごとの量や大きさなどを、数で表したもの。
- イ 古い道を歩いて目的地へ向かうこと。
- ウ こわれたものを元に近い形へなおすこと。
- エ 人の気持ちが急に怒ること。

(3) 「貴重」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア まとまりがなく、乱れていること。
- イ ものの表面がよごれていること。
- ウ めったになく、大切にする価値があること。
- エ ありふれていて、特に意味がないこと。

(4) 「尊重」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 人や意見の価値を認め、大切に扱うこと。
- イ 値段の高い物だけを選び、ほかを退けること。
- ウ 文章を声に出して読み、音量を比べること。
- エ 物を細かく分けて、数値だけで並べること。

(5) 「妙案」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 机の上に散らばった紙。
- イ 川の向こう側の岸。
- ウ うまく考えられた、よい案。
- エ 人の名前につける番号。

(6) 「優劣」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア すぐれているか、おとっているかの違い。
- イ ものがきたなくよごれること。
- ウ 建物の中の長い通路。
- エ 途中で目的地を変えること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 価値 評価 値段 数値 貴重 高貴 尊重 珍品 珍妙 妙案 優秀 劣化 優劣 比較

(1) 古い写真には、町の歴史を知るうえで大きな
() がある。

(8) 資料室の奥から、昔の道具と思われる () が
見つかった。

(2) 発表のあと、先生は内容だけでなく話し方も含め
て () した。

(9) その形は少し () だったが、使い道を考えると
面白かった。

(3) 店で本の () を確かめてから、買うかどうかを
決めた。

(10) 困っていた係の人に、友人が思いがけない ()
を出した。

(4) 気温や降水量の () を見れば、季節の変化が分
かりやすい。

(11) 調査を手伝った生徒たちは、どの班も () な働
きをした。

(5) この記録は一冊しか残っていないので、とても
() な資料だ。

(12) 長い年月がたつと、紙や写真は少しずつ () し
ていく。

(6) その人の落ち着いた態度には、どこか () な雰
囲気があった。

(13) 二つの案の () を決める前に、それぞれのよさ
を確かめた。

(7) 相手の意見を () しながら、自分の考えも伝え
た。

(14) 昔の町並みと今の町並みを () すると、変化が
よく分かる。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「価値」と「値段」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 値段は大切さや意味の大きさを表し、価値は売り買いの金額を表しやすい。
- イ 価値は大切さや意味の大きさを表し、値段は売り買いの金額を表しやすい。
- ウ 価値は「商品の（ ）」だけに、値段は「歴史的な（ ）」だけに使う。
- エ 「歴史的な（ ）」と「商品の（ ）」では、価値と値段を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「貴重」と「珍しい」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 珍しいはめったになく大切であること、貴重はあまり見かけないことを表しやすい。
- イ 貴重は「（ ）形」だけに、珍しいは「（ ）な資料」だけに使う。
- ウ 貴重はめったになく大切であること、珍しいはあまり見かけないことを表しやすい。
- エ 「（ ）な資料」と「（ ）形」では、貴重と珍しいを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「妙案」と「奇妙」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 奇妙はうまい考え、妙案は普通と違って不思議な様子を表しやすい。
- イ 妙案は「（ ）な音がする」だけに、奇妙は「（ ）を思いつく」だけに使う。
- ウ 「（ ）を思いつく」と「（ ）な音がする」では、妙案と奇妙を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 妙案はうまい考え、奇妙は普通と違って不思議な様子を表しやすい。

(4) 「優秀」と「優先」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 優秀は能力や出来がすぐれていること、優先はほかより先に扱うことを表しやすい。
- イ 優先は能力や出来がすぐれていること、優秀はほかより先に扱うことを表しやすい。
- ウ 優秀と優先は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 優秀は優先の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「歴史的な(A)」 B「商品の(B)」

- ア A=値段/B=価値 イ A=価値/B=価値
- ウ A=価値/B=値段 エ A=値段/B=値段

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「(A)を思いつく」 B「(B)な音がする」

- ア A=奇妙/B=妙案 イ A=妙案/B=妙案
- ウ A=奇妙/B=奇妙 エ A=妙案/B=奇妙

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) 店頭で品質とカカクを比べてから選んだ。 | (9) 週末に、近代絵画のビジュツ展を訪れた。 |
| (2) 予定になかったチンキヤクを、家族で迎えた。 | (10) 地図の縮尺を使い、実際の距離とのヒリツを求めた。 |
| (3) 森の奥から、キミョウな鳴き声が聞こえた。 | (11) 都市と農村の所得のカクサを資料から読んだ。 |
| (4) 中世のキゾクが暮らした館を見学した。 | (12) 県の代表に選ばれたセンシュが、決勝へ進んだ。 |
| (5) 緊急の仕事をユウセンし、ほかは翌日に回した。 | (13) 気温のテイカに備え、上着を用意した。 |
| (6) 異なる文化を理解し、互いにソンケイする。 | (14) 大会の優勝者には記念のショウヒンが贈られた。 |
| (7) 一度の失敗で、自分をレットウだと決めつけない。 | (15) 約束を破ったことが、今もリョウシンに痛む。 |
| (8) 参加者はショウスウだったが、議論は深まった。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (16) 良質 | (17) 悪化 | (18) 美醜 | (19) 高低 | (20) 多少 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

展示する一枚を選ぶ

前回、悠人たちは古い図書館の資料室で、散乱していた写真や新聞を整理した。破れた写真を修復し、足りない説明を補足していくうちに、ばらばらだった資料のつながりが少しずつ見えてきた。その作業の続きとして、今日は小さな展示に出す資料を選ぶことになった。

選考では、多数の人が選んだ資料だけを優先する案も出た。けれど、声の大きさと価値は同じではない。手紙を書いた人の気持ちを尊重し、資料が生まれた背景まで読んでから比較する必要があった。

【展示候補票】 資料の状態／由来／地域との関係／公開してよい範囲。各項目を高低の数値だけでなく、短い理由でも記録する。

机の上には、古い町並みを写した写真、使いこまれた道具、昔の地図、町の人が書いた短い手紙が並んでいた。係の人は、「どれも大切ですが、すべてを展示することはできません」と言った。値段が高そうなものや、見た目が珍しいものだけを選べばよいわけではない。資料の価値は、そこにどんな記憶や意味が残っているかによって変わるのだと、悠人は思った。

友人は、一枚の写真を手に取った。写真そのものは少し劣化しており、色も薄くなっていた。しかし裏には、川岸の道を修理した人たちの名前が書かれていた。悠人は、見た目の美しさや新しさだけで優劣を決めるのは早すぎると感じた。古びたものの中にも、貴重な記録が残っていることがある。

文章を読むときも同じかもしれない。目立つ言葉だけにすぐ飛びつくのではなく、いくつかの表現を比較し、どの言葉が全体の考えを支えているのかを選ぶ必要がある。価値をはかるとは、ただ良い悪いを決めることではなく、何を大切だと見るのかを考えることなのだ。

見た目の美醜や価格だけなら、古びた写真は低い評価になるかもしれない。しかし、劣化した裏面の名前は、道を直した人々の仕事を伝えている。珍妙に見える道具にも、使い方を知れば妙なほど合理的な工夫があった。

結局、班は一番高価な品ではなく、異なる時代を結ぶ三点を選んだ。その選択は賞を競うためではない。良い資料と悪い資料を単純に分けず、それぞれの貴重さを言葉で説明することが、展示の役目だった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「時間がたって、ものの質や状態が悪くなること」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「キチョウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「価値」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものの表面についている汚れ
- イ 建物の中の長い通路
- ウ 山道のいちばん高いところ
- エ 人や物が持つ大切さや意味

(4) 本文中の「値段が高そうなものや、見た目が珍しいものだけを選べばよいわけではない」とは、どのようなことか。

- ア 金額や珍しさだけでなく、そこに残る記憶や意味も考えて選ぶ必要があるということ。
- イ 展示する資料は、必ず新しいものだけにしなければならないということ。
- ウ 高く売れそうなものだけが、歴史を伝える資料だということ。
- エ 資料はすべて同じ価値なので、選ぶ必要はまったくないということ。

(5) 班が多数の人に選ばれた資料だけを優先しなかったのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「価値」「尊重」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| (1) ウ 人や物のねうちを表すこと | (4) ア 人や意見の価値を認め、大切に扱うこと。 |
| (2) ア ものごとの量や大きさなどを、数で表したものの。 | (5) ウ うまく考えられた、よい案。 |
| (3) ウ めったになく、大切にする価値があること。 | (6) ア すぐれているか、おとっているかの違い。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 価値 | (8) 珍品 |
| (2) 評価 | (9) 珍妙 |
| (3) 値段 | (10) 妙案 |
| (4) 数値 | (11) 優秀 |
| (5) 貴重 | (12) 劣化 |
| (6) 高貴 | (13) 優劣 |
| (7) 尊重 | (14) 比較 |

使い分けを確かめよう：価値は大切さや意味の大きさを表し、値段は売り買いの金額を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 価値は大切さや意味の大きさを表し、値段は売り買いの金額を表しやすい。

例：歴史的な価値／商品の値段

(2) **ウ** 貴重はめったになく大切であること、珍しいはあまり見かけないことを表しやすい。

例：貴重な資料／珍しい形

(3) **エ** 妙案はうまい考え、奇妙は普通と違って不思議な様子を表しやすい。

例：妙案を思いつく／奇妙な音がする

(4) **ア** 優秀は能力や出来がすぐれていること、優先はほかより先に扱うことを表しやすい。

(5) **ウ** A＝価値、B＝値段。(1)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝妙案、B＝奇妙。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 価格	(11) 較差
(2) 珍客	(12) 選手
(3) 奇妙	(13) 低下
(4) 貴族	(14) 賞品
(5) 優先	(15) 良心
(6) 尊敬	(16) りょうしつ
(7) 劣等	(17) あっか
(8) 少数	(18) びしゅう
(9) 美術	(19) こうてい
(10) 比率	(20) たしょう

七 文章の中で考えよう

- (1) **劣化** 本文中では「劣化」と表されている。
- (2) **貴重**
- (3) **エ** 人や物が持つ大切さや意味
- (4) **ア** 金額や珍しさだけでなく、そこに残る記憶や意味も考えて選ぶ必要があるということ。
- (5) **解答例** (42 字)

人気や声の大きさだけでは資料の背景や記憶の価値を測れず、異なる大切さを見落とすから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (74 字)

資料の価値は、値段や見た目、人気の数値だけでは決まらない。由来や地域との関係、関わった人の思いを尊重し、何を大切と見るかを言葉で説明する必要がある。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十七回

見せながら守る

公開することと保護することを、同時に考える。

今日の中心漢字

守 防 遮 隠 伏 匿 避 護

いっしょに覚える漢字

壁	柵	城	塀	蔽	鎖
封	禁	危	安	逃	救

守る・防ぐ・隠すなどの働きを使い分けたあと、資料と人を守りながら展示する方法を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
守	シュ・まもる	大切なものをまもる 守る・守備・保守・留守	伏	フク・ふせる	ふせる／身を低くする／かくれる 伏せる・起伏・潜伏・伏線
防	ボウ・ふせぐ	ふせぐ／入ってこないようにする 防ぐ・防止・防災・予防	匿	トク・かくまう	かくす／人目につかないようにする 匿名・隠匿・秘匿・匿う
遮	シャ・さえぎる	さえぎる／途中で止める 遮る・遮断・遮光・遮蔽	避	ヒ・さける	さける／よける 避ける・避難・回避・避暑
隠	イン・かくす	かくれる／かくす 隠す・隠れる・隠居・隠語	護	ゴ・まもる	まもる／かばう 保護・護衛・看護・弁護

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
壁	ヘキ・かべ	へだてるもの 壁・外壁・壁面	封	フウ	閉じる／とじこめる 封じる・封筒・封印
柵	サク・しがらむ	入れないための囲い 柵・鉄柵・防護柵	禁	キン	してはいけない 禁じる・禁止・厳禁
城	ジョウ・しろ	守るための建物 城・城下町・城壁	危	キ・あぶない	あぶない 危ない・危険・危機
塀	ヘイ	外と内を分ける囲い 塀・土塀・板塀	安	アン・やすい	やすらか／あぶなくない 安い・安全・安心
蔽	ヘイ・おおう	おおってかくす 隠蔽・遮蔽	逃	トウ・にげる	にげる 逃げる・逃走・逃亡
鎖	サ・くさり	くさり／閉じる 鎖・閉鎖・連鎖	救	キュウ・すくう	たすける 救う・救助・救急

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「守」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものの値段を決めること
- イ 水辺の土地を表すこと
- ウ 文字を少し書き加えること
- エ 大切なものをまもること

(2) 「防止」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものがあちこちに散らばること。
- イ 悪いことや危ないことが起こらないようにふせぐこと。
- ウ 高いか低いかを比べること。
- エ 古いものを美しいと評価すること。

(3) 「遮断」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人の気持ちが明るくなること。
- イ 資料の値段を調べること。
- ウ 文章を声に出して読むこと。
- エ 道や光、音などをさえぎって通らないようにすること。

(4) 「潜伏」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 大きな声で意見を述べること。
- イ 人目につかないように、かくれていること。
- ウ 水をきれいに洗い流すこと。
- エ 道の途中で友人に会うこと。

(5) 「匿名」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 建物の中の長い通路。
- イ 円の中心を通る線。
- ウ 水がにごること。
- エ 本当の名前を出さないこと。

(6) 「保護」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものをこわして、ばらばらにすること。
- イ 大切なものや弱いものを守ること。
- ウ 文章の結論だけを急いで読むこと。
- エ 町の外側にある地域。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 守備 防止 防災 遮断 遮光 隠語 潜伏 伏線 匿名 秘匿 回避 避難 保護 護衛

(1) 試合では、相手に点を取られないように () を固めた。

(8) 物語の前半に出てきた小さな出来事が、後半への () になっていた。

(2) 資料の破損を () するため、手袋をつけて作業した。

(9) 名前を出さずに意見を書くことを () という。

(3) 地震や火事に備えて、町では () の訓練を行っている。

(10) 大切な情報を外に出さないように () する必要がある。

(4) 危険な場所へ人が入らないよう、通路を一時的に () した。

(11) 問題が大きくなる前に、危険を () する方法を考えた。

(5) 強い日差しを防ぐため、展示ケースには () の工夫がされている。

(12) 火事が起きたときは、落ち着いて安全な場所へ () する。

(6) 仲間だけに通じる特別な言葉を () ということがある。

(13) 古い資料を日光や湿気から () する。

(7) その動物は、冬の間、土の中に () していることがある。

(14) 大切な客を守るために、数人が () についた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「守る」と「防ぐ」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 防ぐは大切なものを失わないようにすること、守るは悪いことや危ないことが起こらないようにすることに使いやすい。
- イ 守るは「事故を（ ）」だけに、防ぐは「文化財を（ ）」だけに使う。
- ウ 「文化財を（ ）」と「事故を（ ）」では、守ると防ぐを意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 守るは大切なものを失わないようにすること、防ぐは悪いことや危ないことが起こらないようにすることに使いやすい。

(2) 「隠す」と「伏せる」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 隠すは見えないようにすること、伏せるは下向きにしたり、公表しないでおいたりすることにも使う。
- イ 伏せるは見えないようにすること、隠すは下向きにしたり、公表しないでおいたりすることにも使う。
- ウ 隠すは「名前を（ ）」だけに、伏せるは「箱を（ ）」だけに使う。
- エ 「箱を（ ）」と「名前を（ ）」では、隠すと伏せるを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「避難」と「逃走」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 逃走は危険から身を守るために安全な場所へ移ること、避難は追われたり責任をのがれたりして逃げることに使いやすい。
- イ 避難は危険から身を守るために安全な場所へ移ること、逃走は追われたり責任をのがれたりして逃げることに使いやすい。
- ウ 避難は「現場から（ ）する」だけに、逃走は「高台へ（ ）する」だけに使う。
- エ 「高台へ（ ）する」と「現場から（ ）する」では、避難と逃走を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「保護」と「護衛」の違いとして自然なものを選びなさい。

- ア 護衛は大切なものや弱いものを守ること、保護は人や物に付き添って危険から守ることに使いやすい。
- イ 保護と護衛は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 保護は大切なものや弱いものを守ること、護衛は人や物に付き添って危険から守ることに使いやすい。
- エ 保護は護衛の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「箱を（A）」 B「名前を（B）」

- ア A=隠す／B=伏せる イ A=伏せる／B=隠す
- ウ A=隠す／B=隠す エ A=伏せる／B=伏せる

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「文化財を（A）」 B「事故を（B）」

- ア A=防ぐ／B=守る イ A=守る／B=防ぐ
- ウ A=守る／B=守る エ A=防ぐ／B=防ぐ

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| (1) 伝統を守るホシュ的な立場からも意見が出た。 | (9) 手紙をフウトウに入れ、宛名を書いた。 |
| (2) 丘のキフクに沿って、道が緩やかに曲がる。 | (10) 城を中心に発達したジョウカマチを歩いた。 |
| (3) 病気をヨボウするには、手洗いと休養が大切だ。 | (11) 崖の近くはキケンなので、柵の内側へ入らない。 |
| (4) 証拠をイントクした疑いで、関係者が調べられた。 | (12) 古い寺を囲むドベイに、白いしっくいが塗られている。 |
| (5) 厚い雲が日光をシャヘイし、昼でも薄暗かった。 | (13) 都合の悪い事実をインペイしてはならない。 |
| (6) 夏の暑さを避け、山の別荘でヒショする。 | (14) 容疑者は車を捨て、徒歩でトウソウした。 |
| (7) 祖父は仕事を退き、郊外でインキョ生活を送った。 | (15) 川で流された人を、消防隊がキュウジョした。 |
| (8) けがをした人を、看護師が丁寧にカンゴした。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (16) 壁面 | (17) 鉄柵 | (18) 閉鎖 | (19) 禁止 | (20) 安全 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

見えるように、傷まないように

前回、悠人たちは図書館の資料室で、小さな展示に出す資料を選んだ。今日は、その資料をどのように守るかを考える日だった。古い写真や手紙は、見た目には静かに置かれているだけでも、光や湿気によって少しずつ劣化していく。係の人は、「展示することは、多くの人に見てもらうことです。でも、見せるためには、同時に守る工夫も必要です」と言った。

展示ケースの周りには低い柵を置き、古い城の図面は光を遮蔽する布で覆った。外壁や塀の写真は見せられるが、現在の住居が特定できる部分は隠す。安全のために禁止する行為も、理由とともに示した。

【展示の約束】 資料には触れない／非常口をふさがない／名前を匿名にした資料は撮影しない／困ったときは係員へ

机の上には、遮光のための薄い布や、封をするための袋、展示ケースにかける小さな鎖が用意されていた。壁には、資料に直接手を触れないよう知らせる紙が貼られている。資料を守るとは、ただ箱の中へ隠すことではない。必要な人には見えるようにしながら、危険から保護することなのだと、悠人は思った。

一方で、展示する説明文には、名前を伏せるべきところもあった。手紙を書いた人の名前や、家の場所が分かりすぎる内容は、そのまま出すと、今の家族に迷惑がかかるかもしれない。友人は、「全部を見せることが、いつも正しいわけではないんだね」と言った。悠人はうなずいた。大切なものを守るためには、時には一部を隠し、危険を避ける判断も必要になる。

文章を読むときも、似たことがある。表に出ている言葉だけでなく、あえて伏せられていることや、直接書かれていない気持ちに気づくことで、全体の意味が見えてくる。守ること、防ぐこと、隠すことは、ただ閉じこめるためではなく、何を大切にするかを考えるための働きでもある。

情報を秘匿することと、都合の悪い事実を隠蔽することは同じではない。前者は人を危険から守るために必要な場合があり、後者は検討を避けるために使われることがある。何を伏せるかには説明責任が伴う。

鎖や封だけで守れるものには限りがある。災害時には展示を閉鎖し、人を安全な場所へ逃がし、必要なら救助を求める。資料の保護より命を優先する判断も含めて、守る仕組みなのである。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「強い光をさえぎること」という意味で使われている熟語を抜き出ささい。

(2) 「ホゴ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「劣化」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 時間がたって、ものの質や状態が悪くなること

イ ものの値段が高くなること

ウ 部屋の中がきれいに整うこと

エ 道の途中で友人に会うこと

(4) 本文中の「展示することは、多くの人に見てもらうことです。でも、見せるためには、同時に守る工夫も必要です」とは、どのようなことか。

ア 資料は見せると必ず壊れるので、すべて捨てたほうがよいということ。

イ 資料を公開するときには、人に見てもらうことと、傷まないように保護することの両方を考える必要があるということ。

ウ 資料は値段が高いものだけを展示すればよいということ。

エ 展示では、説明文をまったく書いてはいけないということ。

(5) 展示で一部の名前や場所を伏せたのはなぜですか。40～55字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「見せる」「守る」の二語を必ず使い、70～90字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--|-----------------------------------|
| (1) エ 大切なものをまもること | (4) イ 人目につかないように、かくれていること。 |
| (2) イ 悪いことや危ないことが起こらないようにふせぐこと。 | (5) エ 本当の名前を出さないこと。 |
| (3) エ 道や光、音などをさえぎって通らないようにすること。 | (6) イ 大切なものや弱いものを守ること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 守備 | (8) 伏線 |
| (2) 防止 | (9) 匿名 |
| (3) 防災 | (10) 秘匿 |
| (4) 遮断 | (11) 回避 |
| (5) 遮光 | (12) 避難 |
| (6) 隠語 | (13) 保護 |
| (7) 潜伏 | (14) 護衛 |

使い分けを確かめよう：守るは大切なものを失わないようにすること、防ぐは悪いことや危ないことが起こらないようにすることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 守るは大切なものを失わないようにすること、防ぐは悪いことや危ないことが起こらないようにすることに使いやすい。

例：文化財を守る／事故を防ぐ

(2) **ア** 隠すは見えないようにすること、伏せるは下向きにしたり、公表しないでおいたりすることにも使う。

例：箱を隠す／名前を伏せる

(3) **イ** 避難は危険から身を守るために安全な場所へ移ること、逃走は追われたり責任をのがれたりして逃げることに使いやすい。

例：高台へ避難する／現場から逃走する

(4) **ウ** 保護は大切なものや弱いものを守ること、護衛は人や物に付き添って危険から守ることに使いやすい。

(5) **ア** A＝隠す、B＝伏せる。(2)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝守る、B＝防ぐ。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 保守	(11) 危険
(2) 起伏	(12) 土塀
(3) 予防	(13) 隠蔽
(4) 隠匿	(14) 逃走
(5) 遮蔽	(15) 救助
(6) 避暑	(16) へきめん
(7) 隠居	(17) てっさく
(8) 看護	(18) へいさ
(9) 封筒	(19) きんし
(10) 城下町	(20) あんぜん

七 文章の中で考えよう

(1) **遮光** 本文中では「遮光」と表されている。

(2) **保護**

(3) **ア** 時間がたって、ものの質や状態が悪くなること

(4) **イ** 資料を公開するときには、人に見てもらふことと、傷まないように保護することの両方を考える必要があるということ。

(5) **解答例** (45 字)

資料を公開する意義を保ちながら、現在の家族や住民が特定され、迷惑や危険が及ぶのを防ぐため。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (70 字)

展示では資料を見せることと、光や接触から守ることを同時に考える。人の安全や個人情報にも配慮し、何を隠すかの理由まで説明することが必要である。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十八回

考えをまとめる

具体例を結び、要点と主題を自分の言葉で表す。

今日の中心漢字

概 要 因 果 由 例 類 差

いっしょに覚える漢字

総	括	基	本	核	心
位	置	裏	近	遠	主

概要・要点・原因・理由などの違いを確かめたあと、これまでの学びから考えの核心を組み立てる文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
概要因果	ガイ・おおむね	大まかにまとめる 概要・概略・概念・概括	由例類差	ユ・よし	わけ／もとになるところ 理由・由来・経由・自由
	ヨウ・いる	大切なところ／必要なところ 要点・重要・必要・要約		レイ・たとえる	たとえ／実際の一つ 例・例文・具体例・例外
	イン・よる	もとになることがら 原因・要因・因果・因子		ルイ・たぐい	似たもの／同じ仲間 種類・類似・分類・類推
	カ・はたす	何かのあとに生じるもの 結果・成果・果実・因果		サ・さす	ちがい／へだたり 差・差異・格差・個人差

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
総括基本核心	ソウ・すべて	全体をまとめる 総合・総数・総体	位置裏近遠主	イ・くらい	場所／くらい 位置・順位・地位
	カツ・くくる	くくってまとめる 総括・一括・包括		チ・おく	ある場所におく 位置・配置・置く
	キ・もと	土台になるもの 基本・基礎・基準		リ・うら	表から見えにくい側 裏側・裏面・裏付け
	ホン・もと	もと／中心になるもの 本文・本質・根本		キン・ちかい	ちかい 近い・近所・最近
	カク	中心にある大事な部分 核心・中核・核		エン・とおい	とおい 遠い・遠方・遠近
	シン・こころ	まんなか／気持ち 中心・心情・核心		シュ・ぬし	中心になるもの 主題・主語・主人公

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「概要」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 全体の内容を大まかにまとめたもの。
- イ 細かい例をすべて順番に並べたもの。
- ウ 人の気持ちが強く怒ること。
- エ ものがあちこちに散らばること。

(2) 「要点」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 文章の中で、なくても意味が変わらない部分。
- イ 言葉の音だけを集めたもの。
- ウ 話や文章の中で、特に大切なところ。
- エ 古い道具についた汚れ。

(3) 「因果」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 原因と結果のつながり。
- イ 高いものと低いものの違い。
- ウ 水辺と山道の関係。
- エ 人の名前を隠すこと。

(4) 「由来」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものごとが完全に終わった後の成績。
- イ 似たものをいくつかの仲間に分けること。
- ウ ものごとがそこから始まったもとやわけ。
- エ 表からは見えない裏側。

(5) 「分類」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 共通点や違いをもとにして、仲間ごとに分けること。
- イ すべてのものを一つに混ぜて、区別しないこと。
- ウ 文章の一部をわざと隠すこと。
- エ 資料の値段を高くすること。

(6) 「差異」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 大切なものを危険から守ること。
- イ ものの表面をきれいに磨くこと。
- ウ 二つ以上のものの間にある違い。
- エ 考えを途中でやめること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 概要 要点 原因 結果 理由 由来 具体例 例外 種類 分類 類似 差異 個人差 総括

(1) 発表のはじめに、調べた内容の () を短く説明した。

(8) 多くの場合は同じ規則で考えられるが、この一つだけは () として扱う。

(2) 長い文章を読むときは、細かい部分だけでなく () をつかむことが大切だ。

(9) 図書館には、歴史、自然、文学など多くの () の本がある。

(3) 川の水がにごった () を調べるため、上流の様子を確認した。

(10) 集めた資料を、時代や場所ごとに () した。

(4) 話し合いの ()、三つの資料を展示することに決まった。

(11) 二つの意見には少し () しているところがある。

(5) その資料を選んだ () を、友人はていねいに説明した。

(12) 似ている二つの言葉の () を考えると、使い分けがしやすくなる。

(6) 町の名前の () を調べると、昔の地形に関係していることが分かった。

(13) 同じ文章を読んでも、感じ方には () がある。

(7) 先生は、抽象的な説明のあとに () を一つ挙げてくれた。

(14) 最後に先生が、今日の話し合いを短く () した。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「概要」と「要点」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 要点は全体の流れを大まかにまとめたもの、概要はその中でも特に大切な部分を表しやすい。
- イ 概要は全体の流れを大まかにまとめたもの、要点はその中でも特に大切な部分を表しやすい。
- ウ 概要は「議論の（ ）」だけに、要点は「計画の（ ）」だけに使う。
- エ 「計画の（ ）」と「議論の（ ）」では、概要と要点を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「原因」と「理由」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 理由は何かが起こるもとになった事柄を表し、原因は人がそう考えたり行動したりするわけにも使いやすい。
- イ 原因は「欠席の（ ）」だけに、理由は「故障の（ ）」だけに使う。
- ウ 原因は何かが起こるもとになった事柄を表し、理由は人がそう考えたり行動したりするわけにも使いやすい。
- エ 「故障の（ ）」と「欠席の（ ）」では、原因と理由を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「結果」と「成果」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 成果は原因や行動のあとに生じたことを広く表し、結果は努力や活動によって得られたよい結果を表しやすい。
- イ 結果は「練習の（ ）」だけに、成果は「実験の（ ）」だけに使う。
- ウ 「実験の（ ）」と「練習の（ ）」では、結果と成果を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 結果は原因や行動のあとに生じたことを広く表し、成果は努力や活動によって得られたよい結果を表しやすい。

(4) 「種類」と「分類」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 種類は一つ一つの仲間の分かれ方を表し、分類は基準にしたがって分けることや分けた結果を表しやすい。
- イ 分類は一つ一つの仲間の分かれ方を表し、種類は基準にしたがって分けることや分けた結果を表しやすい。
- ウ 種類と分類は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 種類は分類の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「実験の（A）」 B「練習の（B）」

- ア A=成果／B=結果 イ A=結果／B=結果
- ウ A=結果／B=成果 エ A=成果／B=成果

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「故障の（A）」 B「欠席の（B）」

- ア A=理由／B=原因 イ A=原因／B=原因
- ウ A=理由／B=理由 エ A=原因／B=理由

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| (1) 報告の冒頭で、計画のガイリャクを説明した。 | (9) 国語と歴史の知識をソウゴウして、資料を読み解いた。 |
| (2) 札幌をケイユして、道東へ向かう列車に乗った。 | (10) 申込書をまとめてイッカツで提出した。 |
| (3) 結論に関わるジュウヨウな資料を先に読んだ。 | (11) 展示物のハイチを変えると、見学しやすくなった。 |
| (4) 新しい語の使い方を、短いレイブンで確かめた。 | (12) 設問の根拠となる一文を、ホンブンから探した。 |
| (5) 人口減少のヨウインを、複数の資料から考えた。 | (13) キンジョの人と、災害時の連絡方法を決めた。 |
| (6) 一つの事例から全体をルイスイしすぎないように注意する。 | (14) 港は、町の物流を支えるチュウカクである。 |
| (7) 練習のセイカが、試合の落ち着いた動きに表れた。 | (15) 話し合いのチュウシンとなる問いを黒板に書いた。 |
| (8) 地域による教育機会のカクサを縮めたい。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (16) 基本 | (17) 位置 | (18) 裏側 | (19) 遠近 | (20) 主題 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一冊の学びを一文へ

図書館での展示が終わった次の週、国語の授業で、先生は一枚のプリントを配った。そこには、「この一冊で学んだことを、自分の言葉でまとめなさい」と書かれていた。悠人は、これまでの回を思い出した。心が動くこと、ものを見ること、道をたどること、乱れた資料を整えること、そして価値をはかり、守ること。いろいろな場面が浮かんだが、それをそのまま並べるだけでは、ただの概要になってしまいそうだった。

先生は、出来事を並べるだけでなく、その因果を考えるよう助言した。何が原因で見方が変わり、どの試みが次の結果を生んだのか。由来を調べたこと、資料を分類したこと、読み手の反応で案内文を直したことを線で結ぶと、学びの流れが見えた。

【まとめの下書き】 出発点：漢字の意味の芯／具体例：広場の案内文／要点：言葉は関係の中で働く／結論：読み直すことで考えも変わる

悠人は、まずノートに「要点」と書いた。自分が本当に学んだことは何だろう。漢字を一字ずつ覚えることも大切だが、それだけではない。ある言葉が、どのような理由で使われ、どんな結果を生むのか。似ている言葉にはどんな類似点があり、どんな差異があるのか。そう考えると、漢字の学習は、言葉の位置を確かめる練習でもあった。

友人は、隣の席で「具体例を入れると分かりやすいかも」と言った。悠人はうなずき、「価値」と「値段」の違い、「守る」と「隠す」の違いを例に挙げることにした。どちらも似ているようで、同じではない。言葉を分類し、比べることで、文章の裏にある考えの動きが少し見えてくる。

最後に悠人は、文章の主題を一文で書いた。「漢字を学ぶことは、字の形を覚えるだけでなく、言葉の核心に近づくことでもある。」書き終えたあと、先生は「よく総括できています」と言った。悠人は、これまでの一回一回が、遠く離れた別々の学習ではなく、一つの基本につながっていたのだと感じた。

概要は全体を見渡すために必要だが、概要だけでは自分の判断は見えにくい。具体例を選び、その例が主題とどう関係するかを説明すると、文章の中心が定まる。例外や差異も、考えを弱めるものではなく、条件を明確にする材料になる。

悠人は最後の一文を読み直した。遠く見えた各回は、根本でつながっている。言葉の位置と働きを確かめ、表と裏を行き来しながら核心へ近づくこと。それが、この一冊を通して身につけた基本の見方だった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「全体の内容を大まかにまとめたもの」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「リュウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「分類」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 文章のすべての言葉を消すこと。

イ ものごとを共通点や違いによって仲間に分けること。

ウ 資料を光から守ること。

エ 道の途中で立ち止まること。

(4) 本文中の「それをそのまま並べるだけでは、ただの概要になってしまいそうだった」とは、どのようなことか。

ア 学んだことを順番に書けば、必ず文章の核心まで分かるということ。

イ 概要を書くことは、いつも間違った読み方だということ。

ウ 学んだ場면을順番に挙げるだけでは、全体の流れは分かっても、自分が何を大切だと思ったのかまでは見えにくいということ。

エ これまでの学習には、共通するところがまったくなかったということ。

(5) 悠人が出来事を並べるだけでなく、因果を線で結んだのはなぜですか。40～55 字で説明しなさい。

(6) 本文全体を、「具体例」「核心」の二語を必ず使い、70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| (1) ア 全体の内容を大まかにまとめたもの。 | (4) ウ ものごとがそこから始まったもとやわけ。 |
| (2) ウ 話や文章の中で、特に大切なところ。 | (5) ア 共通点や違いをもとにして、仲間ごとに分けること。 |
| (3) ア 原因と結果のつながり。 | (6) ウ 二つ以上のものの間にある違い。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|---------|----------|
| (1) 概要 | (8) 例外 |
| (2) 要点 | (9) 種類 |
| (3) 原因 | (10) 分類 |
| (4) 結果 | (11) 類似 |
| (5) 理由 | (12) 差異 |
| (6) 由来 | (13) 個人差 |
| (7) 具体例 | (14) 総括 |

使い分けを確かめよう：概要は全体の流れを大まかにまとめたもの、要点はその中でも特に大切な部分を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

- (1) **イ** 概要は全体の流れを大まかにまとめたもの、要点は中でも特に大切な部分を表しやすい。
例：計画の概要／議論の要点
- (2) **ウ** 原因は何かが起こるもとになった事柄を表し、理由は人がそう考えたり行動したりするわけにも使いやすい。
例：故障の原因／欠席の理由
- (3) **エ** 結果は原因や行動のあとに生じたことを広く表し、成果は努力や活動によって得られたよい結果を表しやすい。
例：実験の結果／練習の成果
- (4) **ア** 種類は一つ一つの仲間の分かれ方を表し、分類は基準にしたがって分けることや分けた結果を表しやすい。
- (5) **ウ** A＝結果、B＝成果。(3)の使い分けを参照。
- (6) **エ** A＝原因、B＝理由。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 概略	(11) 配置
(2) 経由	(12) 本文
(3) 重要	(13) 近所
(4) 例文	(14) 中核
(5) 要因	(15) 中心
(6) 類推	(16) きほん
(7) 成果	(17) いち
(8) 格差	(18) うらがわ
(9) 総合	(19) えんきん
(10) 一括	(20) しゅだい

七 文章の中で考えよう

- (1) **概要** 本文中では「概要」と表されている。
- (2) **理由**
- (3) **イ** ものごとを共通点や違いによって仲間に分けること。
- (4) **ウ** 学んだ場面を順番に挙げるだけでは、全体の流れは分かっても、自分が何を大切だと考えたのかまでは見えにくいということ。

(5) **解答例** (45 字)

どの経験が見方を変え、次の試みへつながったかを示すことで、学びの中心を明らかにできるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (72 字)

考えをまとめるには、概要を並べるだけでなく、具体例の関係や因果を示す必要がある。差異や例外も確かめながら、自分が大切だと考える核心を一文へ結ぶ。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと